

令和5年度 教育改善報告書

— 効果的かつ効率的な教育活動を目指した点検評価 —

令和6年3月

長野工業高等専門学校
教育改善委員会

令和5年度 教育改善報告書目次

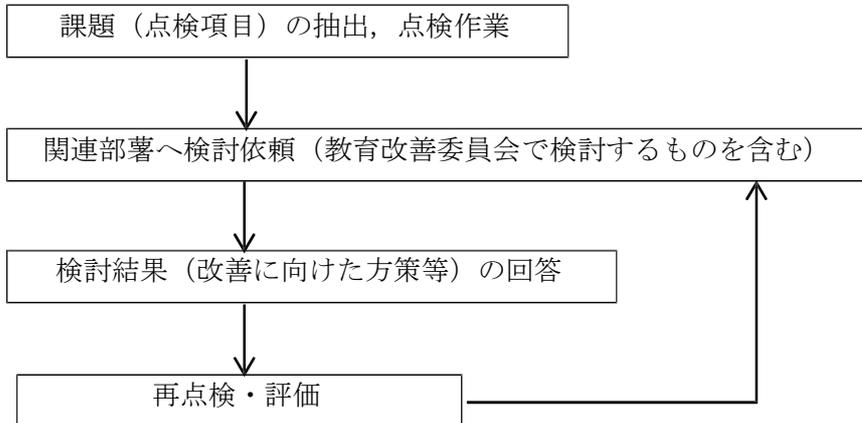
1. 令和5年度 教育改善委員会の活動内容.....	1
1-1 目的.....	1
1-2 点検業務の流れ (Check)	1
1-3 課題の分類, 改善提案 (Action)→ (Next Plan)	1
1-4 今年度の主な活動内容.....	2
2023 (令和5) 年度教育改善委員会カレンダー	5
2. 各委員会の重点項目の点検システム.....	6
2-1 教務委員会.....	8
2-2 学生支援委員会.....	12
2-3 寮務委員会.....	18
2-4 専攻科運営委員会.....	23
2-5 図書館.....	27
2-6 広報企画室.....	30
2-7 技術教育センター.....	34
2-8 情報教育センター.....	37
2-9 国際交流センター.....	40
2-10 グローバルエンジニア育成センター.....	43
2-11 男女共同参画推進室.....	46
2-12 進路支援室.....	51
2-13 教育改善委員会.....	54
3. 令和5年度における各種点検報告.....	58
3-1 学習・教育目標の達成度に関する調査報告書の点検	58
3-1-1 本科5年のアンケート調査.....	58
3-1-2 専攻科のアンケート調査.....	59
3-2 学生との意見交換会に関する点検.....	60
3-3 令和5年度参与会が出された改善点の整理.....	61
3-4 実施済研修会の効果の点検およびその改善.....	62
4. 令和5年度 FD 研修会実施報告.....	65
4-1 第1回 FD MCC 改訂とカリキュラムマネジメントについて 2023年9月11日.....	65
4-2 第2回 FD キャリア教育について 2023年10月16日.....	69
4-3 第3回 FD 人間関係トレーニング「わかちあう・こたえる」2023年11月8日.....	73
4-4 第4回 FD 挑戦的な高専生をどう支援するか? コンテストやイベントを含むキャリア支援・アントレ教育について」2024年3月4日.....	76
5. 令和6年度の活動に向けた各種委員会等への提言.....	79
付録.....	81
付録1 令和5年度学習・教育目標の学生の自己達成度に関する調査報告書.....	81
付録2 令和5年度専攻科学習・教育目標の達成度評価の確認報告.....	85
付録3 令和5年度学生との意見交換会 議事録.....	87
付録4 令和5年度学生の満足度に関するアンケート調査実施結果.....	90
付録5 第20回長野工業高等専門学校参与会概要.....	103
付録6 令和5年度教育改善委員会議事概要.....	108

1. 令和5年度 教育改善委員会の活動内容

1-1 目的

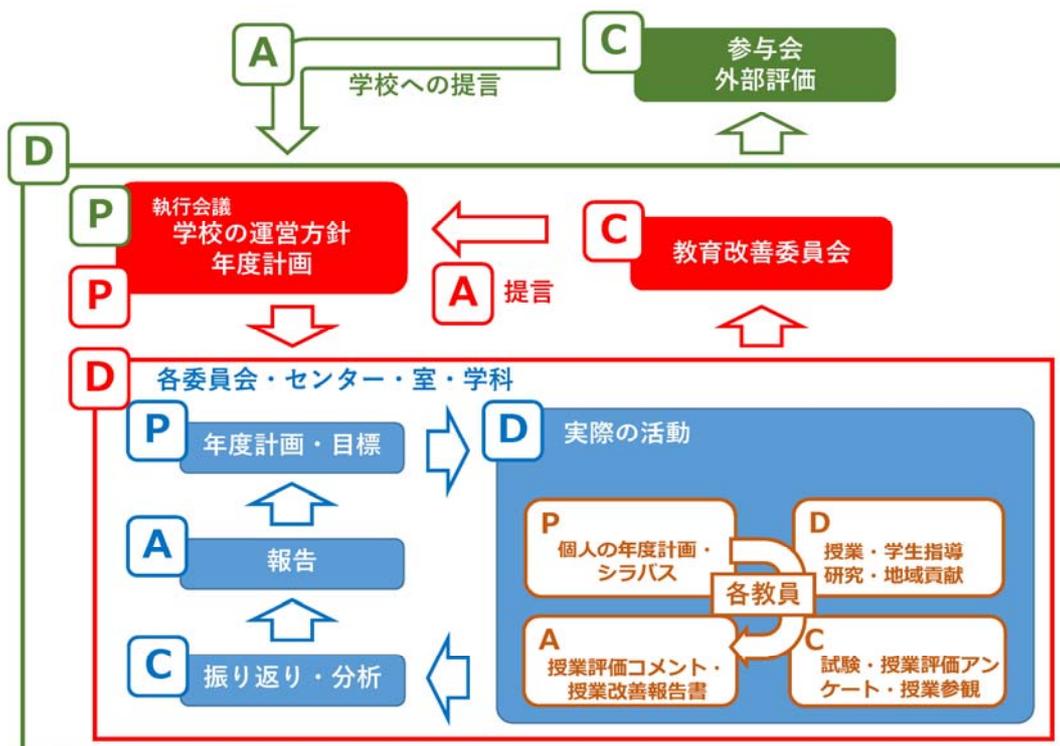
本校の教育システムを点検評価し、教育技術を向上させるための取り組み（FD）を推進し、本校の教育改善に努める。特に PDCA サイクルの A（Action）を重視し、教育改善として次のサイクルにつながる活動を推進する。

1-2 点検業務の流れ（Check）



1-3 課題の分類，改善提案（Action）→（Next Plan）

- (1) 各種委員会等の活動状況を点検した後に整理された課題
- (2) FD 研修会での結果を分析した後に整理された課題
- (3) 重点項目として教育改善委員会で取り上げた課題
- (4) アンケート調査の分析から得られた課題
- (5) 外部評価で指摘された課題
- (6) 教員，学生，保護者等から指摘された課題



1-4 今年度の主な活動内容

(1) 2023 (令和 5) 年度各種委員会の活動状況の点検

【各種委員会は、R5 年度校務分掌の変更により、教務、学生支援、寮務、専攻科運営、図書館、広報企画室、技術教育センター、情報教育センター、国際交流センター、グローバルエンジニア教育センター、男女共同参画推進室、進路支援室、教育改善の 13 委員会とする。】

- ・ 2022 (令和 4) 年度教育改善委員会より提言した課題の検討・改善状況を点検する。
(令和 4 年度教育改善報告書を参照)
- ・ 2023 年度当初に提示された計画に基づいて行った活動内容を点検する。
- ・ 2024 年度の活動に向けた課題を整理し提言する。

(2) 授業改善システムの実施と評価・点検

- ・ 授業改善用チェック・提言シートに基づいて実施する。
- ・ 当システムの評価・点検を行う。

(3) 学習・教育目標の達成度 (本科 5 年) に関する調査の点検および

- 自己評価シート (学年別 学習・教育目標の達成度) に関する改善方法の点検
- ・ 平成 26 年度本科 1 年～5 年生は新システムを導入したが活用方法が明確でなかったため、平成 30 年度から教育システムの改善につなげることを目的として、新たな自己評価シートを作成した。

(4) 学生との意見交換会に関する点検

- ・ 2023 年度開催の意見交換会について点検および評価を行う。

(5) 2023 年度参与会で出された意見に基づいた改善点の整理

- ・ 2023 年度の参与会 (2 月開催) の点検と提言

(6) 卒業生・企業向けアンケート調査結果からの改善点を検討・評価し各部署へ改善点を依頼

教育改善に向けた作業計画 (申し合わせ事項) 【() は前回の年度】

- 1 年目 (令和 2 (H27) 年度): 改善内容の検討と各部署への依頼
- 2 年目 (令和 3 (H28) 年度): 改善内容の実施
- 3 年目 (令和 4 (H29) 年度): 改善内容の実施
- 4 年目 (令和 5 (H30) 年度): 改善内容を含めた教育システムの評価**
- 5 年目 (令和 6 (R1) 年度): 卒業生・企業向けアンケート調査の実施
- 6 年目 (令和 7 (R2) 年度): 改善内容の検討と各部署への依頼

(7) 実施済 FD 研修会の効果の点検およびその改善

- ・ アンケートをタイムリーに実施し、FD 研修会の効果を確認する。
- ・ FD の効果の計り方とし、報告書をメールで全教員に配布し実践を呼びかける。年度末に FD 総括アンケートを実施し効果をはかる

(3 月上旬)

(8) FD 研修会の企画・開催および報告書の作成

第 1 回 FD: 2023 年 9 月 11 日 教務委員会・教育改善委員会

MCC 改訂とカリキュラムマネジメントについて 機構本部学務総括参事下田貞幸先生

第 2 回 FD: 2023 年 10 月 16 日 ソーシャルインノベーション・サポートセンター・教育改善委員会

キャリア教育について 都市デザイン系 酒井先生、はたらく部代表 山本将裕氏

第 3 回 FD: 2023 年 11 月 8 日 学校いじめ対策委員会、教育改善委員会

人間関係トレーニング「わかちあう・こたえる」 スクールソーシャルワーカー 青木 三枝子 氏

・教育改善委員会

「挑戦的な高専生をどう支援するか？コンテストやイベントを含むキャリア支援・アントレ教育について」 みらいスタジオ 兼城駿一郎氏

- (9) エビデンス収集・保管と方法の検討
 - ・ 教育改善委員会（チーフ：委員長）が担当する。
- (10) 試験問題レベルの保証確認（対象は4年以上の科目） → 結果は学生課で保管
 - ・ 年2回実施（前期10月，後期3月）
 - ・ 各学科の保証確認作業は各学科の教育改善委員会委員が行う。
- (11) 試験問題類似度点検
 - ・ 前年度問題と比較して、類似度が50%以上であれば、教科担当に注意を伝える。
 - ・ 科目は3科目程度任意に選択し、点検結果を教育改善委員会に報告する。
 - ・ エビデンスのそろった2～3月に実施し、グループウェアに提出する。
- (12) 学生満足度のアンケート
 - ・ 2月上旬に課長補佐から学生にメールで依頼し実施、試験後特別編成授業などで回答数が増えるように配慮する
- (13) 各部署への検討依頼，回答の集約
- (14) メール目安箱への対応
- (15) 2023年度版教育改善報告書の編集・発行

教育改善委員会開催

- 第1回 5/26： 活動方針・業務分担，科各種点検・改善システム，エビデンス収集
前年度報告書
- 第2回 7/28： FD研修計画，エビデンス，各委員会の重点項目，授業改善システムの実施
- 第3回 9/29： 試験レベル保証の確認，授業改善システムの実施，FD研修計画
- 第4回 11/20： 授業改善システム状況，エビデンス状況，FD研修
- 第5回 1/22： 「卒業生・企業アンケート」の「点検・改善システム」への提案，
エビデンス・試験問題チェックレベル，教育改善報告書作成依頼，FD研修
- 第6回 3/18： エビデンス・試験問題チェックレベル，FD研修総括アンケート，
本年度の活動について，教育改善報告書の作業状況，学生満足度調査

その他 電子メール：FD研修会の実施について

：エビデンス収集作業依頼

：試験問題レベルの保証（作業依頼）*対象は4年以上の科目

2023（令和5）年度教育改善委員会業務分担

	担当項目	西川	轟	小林裕	網谷	鈴木(宏)	原	柳沼	児玉	事務	備考
(1)	本年度各種委員会の活動状況の点検	◎教育改善	寮	専攻科	教務 技術教育	広報 国際交流	グローバル 男女共同	情報教育 進路支援	学生支援 図書	○	3月上旬
(2)	授業改善システムの実施と評価・点検 (作業含む)	◎	○ (環境)	○ (機械)	○ (制御)	○ (電気)	○ (情報)	○ (一般)	○ (一般)		7月依頼 9月上旬
(3)	学習・教育目標の達成度に関する調査の点検 自己評価シートに関する改善方法の点検	○			◎			○			9月上旬
(4)	学生との意見交換会の点検	○					○		◎		3月上旬
(5)	参与会で出された改善点の整理	○		◎							3月上旬
(6)	学生の満足度調査結果から改善内容を含めた教育システムの評価	○	◎								2月上旬
(7)	実施した研修会の効果の点検と改善	◎			○	○					7月下旬
(8)	FD 研修会の企画・実施	○	第1回 企画・報告	第2回 企画・報告	第3回 企画・報告	第1回 企画・報告	第2回 企画・報告	第2回 企画・報告	第3回 企画・報告	○	随時
(9)	エビデンス収集・保管の改善（実務作業含む）	◎	○	○	○	○	○	○	○		各期末
(10)	試験問題レベルの保証確認	○	○ (環境)	○ (機械)	○ (制御)	○ (電気)	○ (情報)	○ (一般)	○ (一般)	◎	前期 10月 後期 3月
(11)	試験問題類似度点検	○	○ (環境)	○ (機械)	○ (制御)	○ (電気)	○ (情報)	○ (一般)	○ (一般)	◎	2~3月
(12)	学生満足度アンケート（本科・専攻科）	◎								○	2月上旬
(13)	各部署への検討依頼，回答の集約	◎								○	随時
(14)	メール目安箱への対応	◎									随時
(15)	教育改善報告書の編集・発行（PDF形式）	○	◎							○	3月下旬

2023（令和5）年度教育改善委員会カレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
(1)各種委員会の活動状況の点検		計画依頼				フォロー					報告依頼	チェック提言	
(2)授業改善システムの実施と評価・点検					前年報告配布	依頼	回収						
(3)学習・教育目標の達成度（本科5年・専攻科）に関する調査								教務委員会・専攻科運営委員会から報告を入手			本科・専攻科		
(4)学生との意見交換会に関する点検		本科 前年度分						学生支援委員会・専攻科運営委員会から報告を入手			本科・専攻科		
(5)参与会で出された意見に基づいた改善点の整理											実施報告		
(6)学生の満足度に関するアンケート調査										本科・専攻科			
(7)実施した研修会の効果と点検								研修実施報告 配信				効果確認	
(8)FD研修会の企画・開催および報告書の作成				実施報告		実施報告		実施報告		実施報告			
(9)エビデンス収集・保管						前期					後期	再試	
(10)試験問題レベルの保証・問題類似性の確認							前期					後期	
(11)試験問題類似度点検											実施報告		
(12)学生満足度のアンケート											実施報告		

2. 各委員会の重点項目の点検システム

教育改善委員会

1. 概要

各委員会は、重点項目を定め、それに対する活動等計画を立てて、委員会活動を行っている。その活動が実際に適切に行われているか教育改善委員会が点検し、改善点等を提言している。そのPDCAサイクルを示す。

2. 各委員会の重点項目の点検システム

2-1 各委員会の重点項目と活動等計画の策定 (Plan) 【資料1】、【資料2】

各委員会は、年度当初にその年度に行う重点項目とその活動等計画を資料1および2のように定め、教員会議で説明を行う。

2-2 各委員会の活動 (Do)

各委員会は、活動等計画に基づき実際の活動を実施する。

2-3 各委員会の評価・分析 (Check)

各委員会は、委員会独自の視点から、自己分析を行う。

2-4 各委員会の改善 (Act) 【資料3】

各委員会は、年度末にその年の重点項目に対する取組結果報告を行い、次年度への改善点等を示す。

2-5 各委員会の点検(Check)と提言(Act) 【資料4】

教育改善委員会は、資料4に示す形で、各委員会の点検を行い次年度への提言を行う。

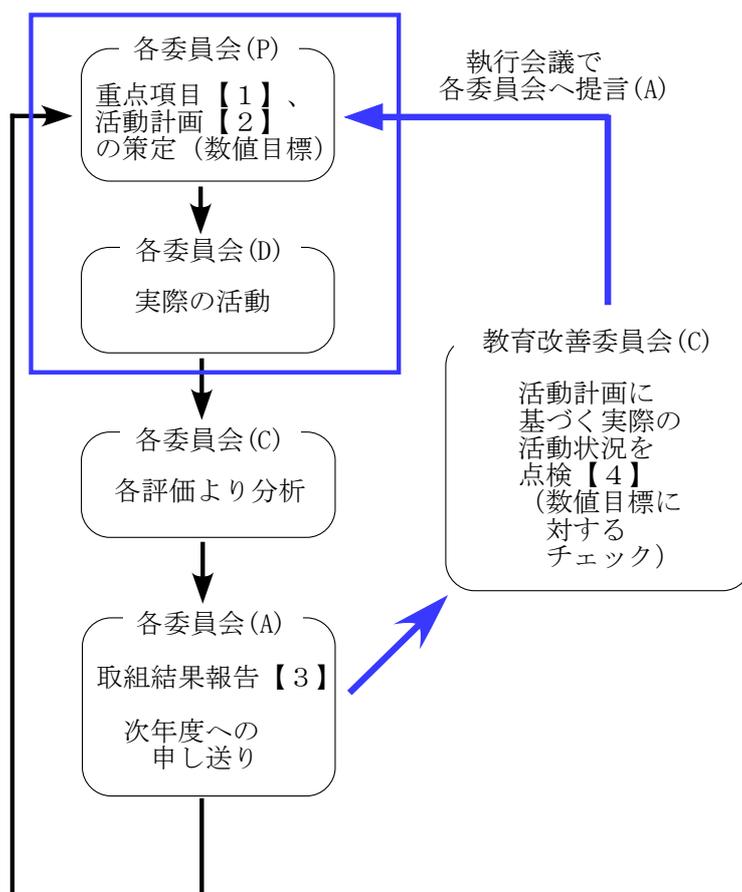


図1 各委員会の点検システム (青枠部分) 【 】は資料番号

令和5年度 各委員会の重点項目

委員会	担当	重点項目	機関別認証 評価項目と の対応	備考
教務委員会	教務主事	1. 授業改善と学力向上 2. 工学科カリキュラムの整備 3. 教員間の連携と協働教育の推進		
学生支援委員会	学生主事	1. 問題行動の未然防止 2. 学生会活動の支援、 地域住民との信頼関係の構築		
寮務委員会	寮務主事	1. 自立性・協調性をもった コミュニティ作り 2. 指導・表彰などの体制作り 3. システムの構築・見直し、 および施設面の充実		
専攻科運営委員会	専攻科長	1. 入学者数の確保 2. 学士の取得支援 3. 学修総まとめ科目担当教員の増加		
図書館	図書館長	1. 図書館行事の再開と充実 2. 読書習慣の動機付けとしてのライ トノベルの充実		
広報企画室	総務主事	1. 小中学生へのPR 2. 地域、地域企業へのPR 3. 学生、保護者、卒業生への 情報発信		
技術教育センター*1	センター長	1. 安全性の向上 2. 授業支援 3. 課外活動支援 4. 研究支援		
情報教育センター*1	センター長	1. 改修工事の対応 2. 高専統一ネットワークの拡充		
国際交流センター*2	センター長	学内・学外での国際交流の再開と継続		
グローバルエンジニア 育成センター*2	センター長	学生の学習意識向上と自主的学習の サポート		
男女共同 参画推進室	室長	1. 教育活動全般を通じた男女共同参画の 推進 2. 男女共同参画の意識啓発 3. 女性教職員に対する労働環境支援		
進路支援室	室長	1. 各種講演会の実施 2. 進路担当教員とキャリアコーディネー ターとが連携した進路支援 3. 進路決定情報の収集および分析		
教育改善委員会	委員長	1. 各種委員会の活動状況の点検 2. 授業改善システムの実施と評価・点検 3. FD 研修会の企画・開催と評価 4. エビデンス収集・保管		

*1：R5 年度校務分掌の変更により、「教育支援センター」を削除し、「技術教育センター」「情報教育センター」に分けた。

*2：R5 年度校務分掌の変更により、「グローバル教育推進センター」を削除し、旧センターの中で教育に関するセンターとして「国際交流センター」「グローバルエンジニア育成センター」を対象とする。

2-1 教務委員会

令和5年度 教務委員会の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
教務委員会	教務主事	1. 授業改善と学力向上 2. 工学科カリキュラムの整備 3. 教員間の連携と協働教育の推進

1. 授業改善と学力向上

- ・校内学習塾等を活用した学力向上への取り組み
- ・授業公開やアンケート, FD 研修会等の活性化
- ・ポートフォリオ教育の推進と分野横断的能力の育成

2. 工学科カリキュラムの整備

- ・工学科新設科目の詳細計画と実施
- ・MCC 改訂に伴うカリキュラムの確認
- ・Web シラバスの整備

3. 教員間の連携と協働教育の推進

- ・学科・科目間連携, 専攻科との連携の強化
- ・他高専, 他大学との連携推進
- ・アントレプレナーシップ教育の検討

令和5年度 教務委員会の重点項目への取組結果報告

委員会	担当	重点項目
教務委員会	教務主事	1. 授業改善と学力向上 2. 工学科カリキュラムの整備 3. 教員間の連携と協働教育の推進

1. 授業改善と学力向上

- ・校内学習塾等を活用した学力向上への取り組み
校内学習塾の継続的に実施し、参加学生の成績の向上を確認
- ・授業公開やアンケート、FD研修会等の活性化
教育改善を目的とし、参観推奨授業を設定して授業公開を実施
FD研修会により高専機構本部の方針を確認
- ・ポートフォリオ教育の推進と分野横断的能力の育成
4年生全員にOneNoteによるポートフォリオを配付し進路決定に向けて活用開始
全学年に拡大して分野横断的能力セルフチェックを実施

2. 工学科カリキュラムの整備

- ・工学科新設科目の詳細計画と実施
ものづくり基礎工学・実験のスケジュール変更について点検し改善
新設科目エンジニアリングデザイン入門の実施
- ・MCC改訂に伴うカリキュラムの確認
系統図の確認と併せて新MCC対応を確認
- ・Webシラバスの整備
学習・教育到達目標との対応によるカリキュラムマップ作成を継続

3. 教員間の連携と協働教育の推進

- ・学科・科目間連携，専攻科との連携の強化
工学科新3年生科目と数学・物理との連携会議を実施
本科卒業研究発表会と専攻科特別研究II発表会の同日開催で学事暦を作成
- ・他高専，他大学との連携推進
高専間提供科目の設定（本校から2科目提供）と4年生以上による履修
- ・アントレプレナーシップ教育の検討
ソーシャルイノベーション・サポートセンターと連携して、学生向け、教員向けのセミナー等を実施

令和5年度 教務委員会の重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 授業改善と 学力向上	校内学習塾等を活用した学力向上への 取り組み	◎	第10回教務委員会-協議 題10「校内学習塾につ いて」
	授業公開やアンケート, FD研修会等の 活性化	○	第6回教務委員会-協議 題5「授業公開の相互参 観について」 第1回FD研修会実施報 告書 第1回教務委員会-協議 題6「質保証重点6項目 について」
	ポートフォリオ教育の推進と分野横断 的能力の育成	○	第10回教務委員会-協 議題8「ポートフォリオ の運用について」 第10回教務委員会-協 議題15「分野横断的能 力の育成について」
2. 工学科カリキ ュラムの整備	工学科新設科目の詳細計画と実施	◎	第2会議室予約1月18日 16:15~17:00 第4回教務委員会-協議 題6
	MCC改訂に伴うカリキュラムの確認	○	第9回教務委員会-協議 題2「令和6年度Webシ ラバスの作成について」
	Webシラバスの整備	○	第9回教務委員会-協議 題2「令和6年度Webシ ラバスの作成について」
3. 教員間の連携 と協働教育の推 進	学科・科目間連携, 専攻科との連携の 強化	◎	第10回教務委員会-協 議題11「科目間連携会 議について」 令和6年度学而歴
	他高専, 他大学との連携推進	◎	第11回教務委員会協議 題2「高専間提供科目に ついて」
	アントレプレナーシップ教育の検討	◎	第2回FD研修会 実施報 告書

(2) 次年度への提言

- ・校内学習塾等を活用した学力向上への取り組み
多数回開催できるシステムを継続するとともに、数学以外の開講も模索してください。
- ・教育改善を目的とし、参観推奨授業を設定して授業公開を実施
参観推奨授業を設定した効果について評価する方法を検討してください。
- ・ポートフォリオ教育の推進と分野横断的能力の育成
ポートフォリオの活用状況の継続的なチェックをお願いします。
- ・工学科新設科目の詳細計画と実施
実施と問題点の抽出および改善の継続をお願いします。
- ・学科・科目間連携，専攻科との連携の強化
工学科新3年生科目と数学・物理との連携会議については、会議の成果評価をお願いします。

2-2 学生支援委員会

令和5年度 学生支援委員会の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
学生支援委員会	学生主事	1. 問題行動の未然防止 2. 学生会活動の支援、 地域住民との信頼関係の構築

1. 問題行動の未然防止

- ・交通事故防止に向けた取り組み
- ・寮務委員会と連携した学生対応
- ・各種講習会を通じた問題行動防止への意識付け
- ・学生会と連携した問題行動防止への意識付け
- ・教員の連携による的確な学生の捉え、学生指導の徹底

2. 学生会活動の支援、地域住民との信頼関係の構築

- ・課外活動の支援
- ・工嶺祭の支援
- ・ボランティア活動や構外美化活動等を通じた地域住民との信頼関係の構築
- ・交通マナー向上による地域住民との信頼関係の構築

和5年度 学生支援委員会の重点項目に関する取組結果報告

委員会	担当	重点項目
学生支援委員会	学生主事	1. 問題行動の未然防止 2. 学生会活動の支援、 地域住民との信頼関係の構築

1. 問題行動の未然防止

- (1) 各種講習会を表1に示すとおり実施した。当初3年生向けには講師を招いての「生と性の講習会」を計画していたが日程の都合がつかず、文部科学省が提供している性暴力被害防止に主眼をおいた動画教材を使用し「生命（いのち）の安全講習会」として実施した。その他の今年度の講習会も全てオンライン動画教材を視聴する形式での実施となったが、令和5年5月より新型コロナウイルスの感染法上の取扱いが変わり実施形態の制限が無くなったこと、一学年全体の人数を収容可能な100番教室の改修工事が完了したことから、令和6年度はその内容に応じて、集合・対面形式で実施可能である。特に学校の近隣住民の方から苦情が寄せられる交通マナーや学校の認証評価における重要項目であるSNS利用に関する講習については、このような形態で実施することで講習会の効果を高めることが期待される。なお、SNS講習会については全学年対象に実施する必要がある。

表1 令和5年度 各種講習会実施概要

講習会の内容	対象学年・実施日	備考
SNS講習会	1年：4月21日 2年：4月21日 4年：6月	特別研修のプログラムとして実施 特別研修のプログラムとして実施 クラス毎に別日程で実施（特活など）
交通安全講習会	1年：4月21日 2年：4月21日 4年：6月	特別研修のプログラムとして実施 特別研修のプログラムとして実施 クラス毎に別日程で実施（特活）
消費者被害未然防止講習会	2年：4月21日	特別研修のプログラムとして実施
薬物乱用防止講習会	1年：11月13日	
生命（いのち）の安全講習会	3年：11、12月	クラス毎に別日程で実施（特活など）

- (2) 交通安全指導を7回（4、5、6、7、10、11および12月に1回ずつ）実施した。①第一体育館西側丁字路ならびに②デイリーヤマザキー高専間の歩道での指導を行った。①については一時停止と安全確認の励行を、②については当該箇所の歩道を自転車から降りて通行するよう指導した。しかし、①では12月に自転車に乗った高専生が自動車と衝突する事故が発生し、②については自転車に乗ったまま通行する学生がいることに対する苦情が再三、近隣住民の方から寄せられている。交通安全指導の他にも、その都度メール配信による注意喚起やホームルームでの指導を行なっているが、課題が多いといえる。新たな取り組みとして、学生会が市立長野高校生徒会と共同で動画を作成し交通安全の啓発を行なった。従来の学校から学生に対する指導とともに、学生自身が問題意識を持ち主体的に課題解決に取り組むこのような手法を今後も継続していくことが重要となる。
- (3) (2)と同様の日程で喫煙および車両指導巡視を行なった。車両指導巡視においては未登録の自転車の構内への乗入れが12月実施時まで多く確認された。中には一度指導を受けたにも関わらず、車両登録をしないまま自転車を通学に利用している学生も多く、来年度はそのような学生に対する特別な指導の実施を検討している。
- (4) 今年度から体育館北側駐輪場が廃止され駐輪スペースが減少したことから、駐輪スペース以外の場所への駐輪が問題となった。特に図書館棟玄関前のスペースはスクールバスの転回の妨げとなり危険な状態となっていた。これを受けて、駐輪場以外の駐輪の禁止とともに、駐輪スペースを有効に使う（1区画5台利用）よう呼びかけ行なった。特に後期授業開始から1週間程度は駐輪マナー指導として上記を重点的に実施した。併せて駐輪場に放置されていた車両の整理を行い利用可能な駐輪スペースを拡充した。

2. 学生会活動の支援、地域住民との信頼関係の構築

I 学生会活動の支援

- (1) 学友誌「翠嶺」について、予定通り終業式前に配布することができた。
- (2) クラスマッチはバレーボール、卓球、ドッチビー、テニス、ソフトボール、サッカー、クップ、借り物競争、e-sports、8の字跳び、玉入れ、ドミノ倒しを実施した。コロナ禍で出来なかった競技も復活し、学生たちも競技や応援に一生懸命取り組んでくれたので、非常に盛り上がった。
- (3) 次の企画は昨年度と同様にオンラインで行った。学生総会（teams 配信）、学生会選挙（google フォーム）、5年生を送る会。
- (4) 学生会選挙は昨年度と同様にオンライン実施となった。オンラインではあるが、選挙に関する原則を崩さないように行うことができた。有権者942人に対して、有効投票631票であった。投票率は67.0%となり、昨年度の60.2%からかなり改善した。集計が容易であるので、可能な限りオンラインでの実施を継続していきたい。
- (5) 市立長野高校生徒会と連携して挨拶運動及び交通安全の呼びかけを7月10（月）から7月14（金）と10月30（月）から11月2（木）の日程で実施した。朝8時00分～8時35分まで通学量の多い場所に立ち、挨拶をしながらイヤホン着用や自転車マナーに関する声掛けを行った。秋の交通安全の呼びかけの実施に合わせて事前に注意してほしい事項をまとめた動画も作成し、それぞれの学校で周知した。また、交通安全啓発だけでなく、お互いの文化祭に参加するなど交流を深めた。
- (6) ここ数年実施ができなかった後援会との意見交換会を1月20日（土）に実施した。学生会と寮生会からそれぞれ3名参加してくれ、学校の状況や寮での生活についていろいろと話をしてもらった。後援会側は会長、副会長を含め、5名の方にご参加いただいた。後援会側から非常に有意義な会でしたので、年2回程度の実施をお願いしたいと要望があった。
- (7) リーダーズ研修会を1月20日（土）に実施した。今年度も日本赤十字社長野県支部の救急法基礎講習を受講した。4時間コースを32名で受講し、全員合格した。
- (8) 12月4日（月）から12月21日（木）の期間でクリスマス企画として、イルミネーションを前庭で実施した。今年度は榎山工業様にご協力いただき、昨年度よりも規模を拡大して行った。
- (9) 今年度新たにChatGPTコンテストを行った。アイデア部門と開発部門を設け、工嶺祭時に審査した。また、焼き芋企画とバレンタイン企画を久しぶりに実施することができた。
- (10) 4月27日（木）に長野市の学童保育事業「長野市放課後子ども総合プラン」アドバイザー講習会を開催した。講習会には24名が参加して21名が登録した（4年生以上が対象）。「長野高専学生会」で団体登録したが、例年より登録者が少ないこともあり、活動が広がらなかった。

II 課外活動（部・同好会）の支援

- (1) 部・同好会の継続審査は来年度実施であるが、2023年度に再審査の対象となった3団体について、「部同好会活動の継続許可基準」に基づき、再審査を実施した。
- (2) 課外活動に関しては多くの大会やコンテストが開催され、参加することができた。
- (3) 今年度も課外活動指導員を増やしていただき、平日17時～19時の課外活動の見回り等も行っていただいた。また、昨年度からの継続で休日活動の構内見回りや大会の引率をしていただいた。特に休日活動では、午前中の対応を任せているので、教員の業務負担軽減につながった。
- (4) 課外活動の指導教員に関しては、2023年度末が、5年に1度見直す年度であった。学生より紙での「2024年度部・同好会指導教員の依頼について」と学生主事からのgoogleフォーム「部・同好会の希望調査について」で希望調査を同時に実施した。それに加えて退職等異動のあった教員（団体）に対する補充等も行った。昨年度から継続して1教員あたりの指導団体数の上限を3団体、主顧問を1団体にするよう年度末に調整した。
- (5) 8月に「長野工業高等専門学校における熱中症予防に関するガイドライン」を制定して、夏季に安全に課外活動等が実施できるようにした。教員会議でもWBGT計の利用法について説明した。

Ⅲ 工嶺祭の支援

- (1) 体育祭の技種目の選定にあたっては、クラスマッチの繰り返しにならないように工夫を凝らし、また、クラス一丸となって実施できる種目を増やすなど、実行委員の努力が見えた。一部の競技においては、けが人が発生してしまうなどのトラブルは生じたものの、いずれの種目においても大きな中断を挟むことなく、予定していた時間通りに実施することができた。
- (2) 展示企画については、準備の段階でスタートが遅く心配なところもあったが、当日にはいずれのクラス・団体もしっかりと準備ができていた。屋台企画については、引継ぎ等がされていない中での準備となったため、マニュアルの作成等に時間を要した。一部、ルールを守れていない団体もあったが、関係各所との報告、連絡、相談をしっかりと行うことで対応し、2日間とも全屋台を運営することができた。
- (3) 長野高専創立60周年を記念して、一般公開初日には『マグロの解体ショー』、一般公開の2日間を通して『MISSION IMPOSSIBLE at KOREISAI』を実施した。『マグロの解体ショー』については、天候の影響で開始時間を遅らせる対応となったが、予想以上に観客が集まってくれていた。『MISSION IMPOSSIBLE at KOREISAI』は参加型のデジタルスタンプラリーということで、工嶺祭全体を楽しんでもらえるようにミッションを設定し、クリアした方へは60周年記念の限定景品を配布する形をとった。当初予定していたよりも参加者が少なく、周知方法について課題が残る結果となった。
- (4) 昼ステージでは、本校の学生団体だけではなく、信大附属長野中学校や市立長野高校とのコラボも実現した。外部団体とのコラボを参観することを目的とした来場者も多かった。
- (5) 夜祭1日目は、機材トラブルの影響により、終了時間が予定よりも30分ほど遅くなった。トラブルの発生を予想したタイムテーブルとしていなかったことや、発表団体への配慮として予定通りの内容で発表してもらったことなどが遅れの原因であると思うので、時間が押しているときには、発表時間を短くしてもらうなどの対策が必要である。また、タイムテーブルにもう少し余裕を持たせる必要がある。2日目については、前日の反省等も生かしながら、15分程度の遅れは生じたものの、トラブルなく終了することができた。

3. 総括

- (1) 学生会の行事も増え、工嶺祭も通常開催するなど、学生の明るい顔が戻ってきた様子がかげがえた。その反面、コロナ禍では気になりにくかった「人や社会とのつながり方」に関する問題も出てきている。学生自身がface-to-faceを大切にして、人と協働して社会に貢献するために必要な知識を身に付けられるような各種講習会の実施と課外活動等を支援していきたい。
- (2) 通学の際の一時不停止、自転車の歩道走行や右側通行などに関する苦情が多く寄せられている。警察署にも協力を依頼するとともに、市立長野高校とも連携して、交通事故防止につとめたい。
- (3) 来年度も教務委員会はじめ他の委員会とも連携して、学生が「高専で学んで良かった」と言ってくれるような学生支援をしていきたい。

令和5年度 学生支援委員会の重点項目への取組結果の点検

学生支援委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 問題行動の未然防止	交通事故防止に向けた取り組み	○	第1回-議題2「新年度委員会活動方針」 第10回教員会議-学生主事報告 第8回-議題1「活動のまとめ」
	寮務委員会と連携した学生対応	○	学生生活ガイド 2023p.1 「無断入寮禁止」等記載 第3回-議題4「夏季合宿について」 第7回-報告4「寮生の飲酒指導」
	各種講習会を通じた問題行動防止への意識付け	◎	第1回-議題2「新年度委員会活動方針」 第8回委員会-議題1「活動のまとめ」
	学生会と連携した問題行動防止への意識付け	◎	第8回-議題1「活動のまとめ」
	教員の連携による的確な学生の捉え、学生指導の徹底	◎	第8回教員会議-学生主事報告「無断欠席者への連絡フロー(案)に基づく欠席者確認の実施」 第8回-議題1「活動のまとめ」
2. 学生会活動の支援、地域住民との信頼関係の構築	課外活動の支援	◎	第5回-議題4「厚生補導設備充実費配分(案)」 第8回-議題4「部・同好会指導教員の見直しについて」 第8回-議題1「活動のまとめ」
	工嶺祭の支援	◎	第5回-議題1「第58回工嶺祭実施要項(案)」 第8回-議題1「活動のまとめ」
	ボランティア活動や構外美化活動等を通じた地域住民との信頼関係の構築	○	第8回-議題1「活動のまとめ(長野市放課後子ども総合プランアドバイザー説明会、清掃デー)」
	交通マナー向上による地域住民との信頼関係の構築	○	第1回-議題2「新年度委員会活動方針」 第10回教員会議-学生主事報告「交通安全指導に関するお願い」 第8回-議題1「活動のまとめ」

(2) 次年度への提言

- ・交通事故防止に向けた取り組み

「近隣住民から苦情が寄せられる」とのこと、良好な関係構築を引き続き模索してください。

- ・寮務委員会と連携した学生対応

今年度から、課外活動を理由とする残寮が認められなくなりました。令和4年度までのやり方に戻せるよう寮務委員会（寮務主事）に働きかける、もしくは別の方法により、寮生も長期休業中に課外活動ができるよう検討すべきと思われる。

- ・ボランティア活動や構外美化活動等を通じた地域住民との信頼関係の構築

市立長野高校と連携して挨拶運動や交通安全指導が行われています。素晴らしい取り組みだと思います。活動計画に書かれている「構外美化活動」に関しても、両校で連携して実施してはどうか。

2-3 寮務委員会

令和5年度 寮務委員会の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
寮務委員会	寮務主事	1. 自立性・協調性をもった コミュニティ作り 2. 指導・表彰などの体制作り 3. システムの構築・見直し、 および施設面の充実

1. 自立性・協調性をもったコミュニティ作り
 - ・寮生の寮生活支援のための施策検討
 - ・アンケートによる環境調査
2. 指導・表彰などの体制作り
 - ・指導体制作りの実施
 - ・表彰体制作りの実施
 - ・表彰の案内
3. システムの構築・見直し、および施設面の充実
 - ・システムの構築・見直しの準備
 - ・施設面の充実の準備

令和5年度 寮務委員会の重点項目に関する取組結果報告

委員会	担当	重点項目
寮務委員会	寮務主事	1. 自立性・協調性をもった コミュニティ作り 2. 指導・表彰などの体制作り 3. システムの構築・見直し、 および施設面の充実

1. 自立性・協調性をもったコミュニティ作り
 - ・寮生の寮生活支援のための施策検討
 - ・アンケートによる環境調査

2. 指導・表彰などの体制作り
 - ・指導体制作りの実施
 - 寮担からの学生への直接の指導体制の継続
 - 担任から保護者への連絡体制の継続
 - 年2回の違反状況の郵送通知の実施
 - 違反システムの見直しの実施

 - ・表彰体制作りの実施
 - 寮生努力賞および功労賞の選考および発表の実施

 - ・表彰の案内
 - 寮生努力賞および功労賞の通知および表彰の実施

3. システムの構築・見直し、および施設面の充実
 - ・システムの構築・見直しの準備
 - 学生への周知方法変更の準備 (Teams の活用)

 - ・施設面の充実の準備
 - 洗濯機の交換を実施
 - 下足箱の交換を実施

令和5年度 寮務委員会の重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 自立性・協調性をもったコミュニティ作り	・寮生の寮生活支援のための施策検討	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回報告1「寮生協議会」にて、寮生生活を快適にするための取り組みやイベントについて、寮生会役員と教員の意見交換会が実施されたことを報告（以降、定期的開催） ・第5回報告3「給食会議」にて、食事環境の改善に向けて、学生ならびに教員と給食委託業者である日本ゼネラルフード株式会社との献立等について意見交換がされやことを報告（以降、定期的開催）
	・アンケートによる環境調査	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・第7回議題4「寮生活に関するアンケート調査について」にて、11/1～30まで寮生に向けて環境調査を実施 ・第9回報告2「寮生活に関するアンケート調査について」にて、実施されたアンケートの報告
2. 指導・表彰などの体制作り	・指導体制作りの実施	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回議題6「令和5年度 寮生指導方針について」および議題7「令和5年度違反指導方針について」を通じて、寮務委員に指導体制や違反システムの共有 ・第1回議題12「学年集会について」にて、年度当初に全寮生を対象として指導体制ならびに違反システムについて説明 ・第2回議題3「違反指導方針について」にて、保護者への連絡体制や郵送通知のルールを再確認 ・第5回議題3「違反指導について」にて、違反システムの見直しが実施、共有 ・第11回議題3「年度末の保護者への連絡について」にて、入寮許可更新や違反点のシステム、違反点通知について説明、共有
	・表彰体制作りの実施	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・第10回議題6「寮生表彰（功労賞・努力賞）受賞者の推薦について」にて、功労賞候補者の選定と努力賞の決定基準について審議 ・第11回議題9「寮生努力賞について」にて、努力賞の決定に向けたスケジュールが共有
	・表彰の案内	○	<ul style="list-style-type: none"> ・第12回報告2「寮生功労賞および寮生努力賞について」にて、功労賞ならびに努力賞の表彰方法が共有

3. システムの構築・見直し、および施設面の充実	・システムの構築・見直しの準備	△	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回議題5「寮務委員会関係書類の開示について」にて、教員向けには各種手引きをグループウェアにて閲覧できる状況にした旨の報告 ・報告書記載の teams の活用について、議事録や資料等に記載なし
	・施設面の充実の準備	○	<ul style="list-style-type: none"> ・第7回議題8「アマゾン等の置き配について」にて、置き配に対応した専用ボックスを検討 ・第7回報告2「雄風寮冷蔵庫設置について」にて、新たに雄風寮に冷蔵庫が設置されることが報告

(2) 次年度への提言

- ・アフターコロナに対する対応で、寮生活のルールも大きく変わる中、指導体制や快適な寮生活に向けた各種施策を検討し、丁寧に対応されている様子が確認できた。一方、寮生活に関するアンケートにて、寮日課に対する不満度が高いことから、これらについて改善策を検討していく必要があるだろう。
- ・今年度も実施していた他高専との交流を、本校の寮運営にどのように活かしていくのか。交流を通じて、具体的な成果につながることを期待したい。
- ・表彰システムは、寮生のモチベーション向上に寄与する良いシステムであると言えるので、広く全寮生に周知されるような方法を検討していただきたい。
- ・システムの構築・見直しの準備にて検討されている teams の活用は、寮に関わる情報を一元的に管理でき、かつリアルタイムに必要な情報を入手できるため、非常に有効な手法であると考えられる。一方、部屋割や当番表には氏名などの個人情報もあるため、適切に管理することに留意されたい。

2-4 専攻科運営委員会

令和5年度 専攻科運営委員会の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
専攻科運営委員会	専攻科長	1. 入学者数の確保 2. 学士の取得支援 3. 学修総まとめ科目担当教員の増加

1. 入学者数の確保

- ・進学説明会等での説明（連携教育プログラムの説明を含む）
- ・専攻科運営委員による各科への呼びかけ

2. 学士の取得支援

- ・学士申請説明会の開催
- ・学修総まとめ科目計画書および成果の要旨の作成支援

3. 特別研究担当教員の増加

- ・教員への研究業績積上げ依頼
- ・個表増加を目的とした教員への働きかけ
- ・連携教育プログラムにおける研究マッチング数の増加

令和5年度 専攻科運営委員会の重点項目に関する取組結果報告

委 員 会	担 当	重 点 項 目
専攻科運営委員会	専攻科長	1. 入学者数の確保 2. 学士の取得支援 3. 学修総まとめ科目担当教員の増加

1. 入学者数の確保

- ・進学説明会等での説明（連携教育プログラムの説明を含む）
 - 令和5年12月13日（水） 4年生進学講演会にて専攻科の説明実施
- ・専攻科運営委員による各科への呼びかけ
 - 令和6年2月23日（金） の4年生進路説明会の個人面談に向けて個表のリストを作成し、系長を通じて面談者にリストを配布した。

2. 学士の取得支援

- ・学士申請説明会の開催
 - 令和5年7月19日（水） 「履修計画書」 作成の説明会を実施
 - 令和5年12月6日（水） 「成果の要旨」 作成の説明会を実施
- ・学修総まとめ科目計画書および成果の要旨の作成支援
 - 上記説明会の後、提出された「履修計画書」および「成果の要旨」を委員にて手分けして添削をし、必要に応じて修正を依頼している。

3. 特別研究担当教員の増加

- ・教員への研究業績積上げ依頼
- ・個表増加を目的とした教員への働きかけ
 - 個表または、個表の課題を増やすため、令和5年9月に10名、11課題を新たに学位授与機構へ申請し、9名10課題が新しく認められた。
- ・連携教育プログラムにおける研究マッチング数の増加

令和5年度 専攻科運営委員会の重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 入学者数の確保	・進学講演会等での説明（連携教育プログラムの説明を含む）	○	・令和5年12月13日（水）4年生進学講演会を実施
	・専攻科運営委員による各科への呼びかけ	◎	・第9回議題6「その他」専攻科運営委員を通じて各学科ならびに学外への広報活動について意見交換
2. 学士の取得支援	・学士申請説明会の開催	◎	・第1回議題1「令和4年度新入生・2年次生ガイダンスの準備について」資料2にて予定の記載 ・7月19日（水）学士申請説明会を実施 ・第11回報告4「令和6年度特例申請の説明会について」で令和6年度の申請説明会前倒しを説明
	・学修総まとめ科目履修計画書および成果の要旨の作成支援	◎	・第5回報告3「その他」で成果の要旨の書き方等の説明 ・第7回議題2「学士申請チェック作業について」資料2履修計画書のチェックと修正の依頼 ・第9回報告3「その他」で成果の要旨の書き方等の説明 ・第10回議題6「その他」成果の要旨の締め切り等について確認

3. 特別研究担当 教員の増加	・ 教員への研究業績積上げの依頼	○	・ 第 2 回報告 3「個表について」業績の積み上げについて依頼
	・ 個表増加を目的とした教員への働きかけ	◎	・ 第 5 回議題 2「学修総まとめ科目担当の新規審査申請の希望について」資料 1 新規審査申請の希望状況の報告
	・ 准教授以上への昇任教員への個表申請の働きかけ	○	・ 第 2 回報告 2「特例適用認定の変更審査調査について」昇任、補助指導教員の追加等による申請の調査の予定を報告、申し合わせの見直しの準備 ・ 第 3 回報告 4「その他②」学習総まとめ科目に関する申し合わせの検討を実施
	・ 連携教育プログラムにおける研究マッチング数の増加	△	・ 第 4 回報告 3「連携教育プログラムの応募予定について」連携教育プログラムの応募状況について報告

(2) 次年度への提言

- ・ 個表の課題は大きく増えていたので、課題数のさらなる増加や一定数を維持できるよう取り組みを継続していく必要がある。
- ・ 連携教育プログラムのシステムについて、少し見直しがあったので位置づけなど検討をさらに進める。
- ・ 広報の方法で新しい試みが提言されたので、提言された試みを実施するとともに、継続的な実施や改善点の反映など、ブラッシュアップを行っていくことが重要になる。

2-5 図書館

令和5年度 図書館の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
図書館	図書館長	1. 図書館行事の再開と充実 2. 読書習慣の動機付けとしてのライトノベルの充実

1. 図書館行事の再開と充実

- ・新型コロナウイルスが5類になったことに伴い、中止されていた図書館行事（図書館講演会・ブックハンティング・ビブリオバトル）を順次再開するとともに、より充実した行事になるよう努める。

2. 読書習慣の動機付けとしてのライトノベルの充実

- ・学生の読んでいる書籍の観察や、ビブリオバトルで取り上げられる書籍から、読書の習慣付けの入り口として、ライトノベルが果たしている役割が大きいことが明らかである。以前、推理小説が果たしていた役割を、現在はライトノベルが果たしていると言えよう。現在も蔵書にライトノベルはあるが、十分とはいえない。そこで、学生の読書習慣の動機付けとして、ライトノベルの充実を図りたい。

令和5年度 図書館の重点項目に関する取組結果報告

委員会	担当	重点項目
図書館	図書館長	1. 図書館行事の再開と充実 2. 読書習慣の動機付けとしてのライトノベルの充実

1. 図書館行事の再開と充実

- ・新型コロナウイルスが5類になったことに伴い、中止されていた図書館行事（図書館講演会・ブックハンティング・ビブリオバトル）すべてを再開した。いずれの行事も、コロナ前と同じ形態、規模で開催したが、ビブリオバトルは、中断のためにやり方を知っている学生がいなくなってしまったことから、ビブリオバトルこうしん・ビブリオバトル普及委員会所属の鈴木有斗氏を招き、ビブリオバトルの実施方法を知ることから始めた。

2. 読書習慣の動機付けとしてのライトノベルの充実

- ・ライトノベルを今年度新たに62冊購入した。また、これまで、ライトノベルは、ライトノベルを集めた書棚以外の一般書架にも散在していた。しかし、学生からの要望もあって、一般書架の54冊を配置換えし、ラノベ棚一カ所にまとめた。現在のライトノベル蔵書数は計445冊となる。

令和5年度 図書館の重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 図書館行事の再開と充実	<p>・新型コロナウイルスが5類になったことに伴い、中止されていた図書館行事（図書館講演会・ブックハンティング・ビブリオバトル）すべてを再開した。いずれの行事も、コロナ前と同じ形態、規模で開催したが、ビブリオバトルは、中断のためにやり方を知っている学生がいなくなってしまったことから、ビブリオバトルこうしん・ビブリオバトル普及委員会所属の鈴木有斗氏を招き、ビブリオバトルの実施方法を知ることから始めた。</p>	○	<p>第1回図書館会議 議事概要・資料 (R5.3.30) 第2回と補完会議 メール審議資料 (R5.5.1)</p>
2. 読書習慣の動機付けとしてのライトノベルの充実	<p>・ライトノベルを今年度新たに62冊購入した。また、これまで、ライトノベルは、ライトノベルを集めた書棚以外の一般書架にも散在していた。しかし、学生からの要望もあって、一般書架の54冊を配置換えし、ラノベ棚一カ所にまとめた。現在のライトノベル蔵書数は計445冊となる。</p>	◎	<p>第1回図書館会議 議事概要・資料 (R5.3.30) 第2回と補完会議 メール審議資料 (R5.5.1)</p>

(2) 次年度への提言

- ・学生支援委員会から、長期休業中の注意事項（プリント）が配布されます。そこにはいつも、「比較的時間がある長期休業中に、読書をしましょう」と書かれています。今後、学生支援委員会や学生会とも連携してみてもどうでしょうか。
- ・ビブリオバトルが、コロナ禍以前のように開催（再開）されることを期待します。

2-6 広報企画室

令和5年度 広報企画室の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
広報企画室	総務主事	1. 小中学生へのPR 2. 地域、地域企業へのPR 3. 学生、保護者、卒業生への情報発信

1. 公開企画部門

今年度の目標

- ・長野県下の小中学校における教育を側面から支援し、地域への貢献・地域との連携をより一層推進すること。また、理系の面白さを伝えることに加え、長野高専のPR、入試倍率確保への戦略を考える。そのために、地域で開催されるイベントに、積極的に参加する。

今年度の活動計画

- ・サイエンスツアー（出前授業）およびサイエンス・ライブ（公開講座）は、5/9 締切りで募集する。サイエンス・ライブ（公開講座）を対面にて実施する。
- ・各種科学イベント（まつもと広域ものづくりフェア、産業フェア in 信州 2023 キッズものづくりランド、長野高専キッズサイエンス 2023）は、実施に向けて準備を行う。
- ・産業フェア（長野しんきんビジネスフェア 2023、SAKU メッセ、諏訪圏工業メッセ 2023、産業フェア in 信州 2023、上田地域産業展 2023）は、参加に向けて準備を行う。

2. 刊行物部門

今年度の目標

- ・小中学生、地域・企業、学生、保護者、卒業生にPR・情報発信するために、「学園だより」の発行、オリジナルグッズ配付などを行う。
- ・新学科工学科スタートに伴い、Web ページの文面の見直し、「学校案内」、「学校便覧」の修正を行う。
- ・今後、「学校便覧」の紙ベースでの出版の見直し作業を行う。

今年度の活動計画

- ・「学園だより」を3回発行する。春号は500部、体験入学に夏号と合わせて配付する。
- ・消しゴム、定規、エコバッグ、クリアファイルにオリジナルグッズを限定して作成し、各所で配付する。
- ・「学校案内」の工学科改組に伴うリニューアル作業をする。
- ・「学校便覧」の工学科改組に伴う修正作業、および今後の紙ベースでの発行についての見直しをする。

3. 情報発信部門

今年度の目標

- ・小中学生、地域・企業、学生、保護者、卒業生に対して、新しい情報をタイムリーで分かりやすくPR・情報発信する。

今年度の活動計画

- ・古い情報の整理をするとともに、トップページからコンテンツにたどりつくためのルートを整理する。
- ・HPの全面リニューアルを年度末に実施する
- ・メンテナンスを依頼し、年次作業についても、外部に依頼できる体制を検討する。
- ・ホームページのサイトメンテナンスや保守業務などを行い、ホームページの維持に努める。

令和5年度 広報企画室の重点項目への取組結果報告

委員会	担当	重点項目
広報企画室	総務主事	1. 小中学生へのPR 2. 地域、地域企業へのPR 3. 学生、保護者、卒業生への 情報発信

1. 公開企画部門

- ・サイエンスツアー（出前授業）およびサイエンス・ライブ（公開講座）
 - サイエンスツアー 32件
 - サイエンス・ライブ 5件
- ・各種科学イベント（サイエンスツアーとして実施）
 - まつもと広域ものづくりフェア 10月21日（土） 1件
松本市中央公民館（Mウイング）・中央体育館
 - NAGANO SDG's PROJECT 10月11日（水） 1件
協力校として参画
 - 長野高専キッズサイエンス2023 11月4日（土）に実施し、1,566名の参加があった。
- ・産業フェア
 - 長野しんきんビジネスフェア2023 5月10日（水）ビックハット
 - SAKU メッセ 9月21日（木）～23日（土）佐久総合体育館
 - 諏訪圏工業メッセ2023 10月19日（木）～21日（土）
岡谷総合市民体育館、テクノプラザおかや
 - 産業フェア in 信州2023 10月27日（金）～28日（土）ビックハット
 - 上田地域産業展2023 11月2日（木）～3日（金）上田城址公園体育館

2. 刊行物部門

- ・「学園だより」を3回発行
 - 188号（春）、189号（夏）、190号（冬）を発行した。191号（春）の発行に向けての編集作業を行っている。
- ・ノベルティの更新
 - 従来のノベルティから一部を変更し、エコバック、A6判メモ帳、クリアファイルを作成した。
- ・「学校案内」、「学校便覧」の工学科改組に伴う修正作業
 - 写真など更新をおこなった。

3. 情報発信部門

- ・現行ホームページへの情報掲載および提示方法の改善
 - ホームページへの情報掲載の承認手続きを整理し、決済方法を統一した。
 - 情報発信を呼びかけ、タイムリーな情報提供を行った。
- ・ホームページの全面リニューアル作業
 - 4月からのホームページ全面リニューアルに向けて準備を行った。
- ・ホームページのサイトメンテナンスや保守業務
 - 表示に不整合あるなど現行ホームページの保守をおこなった。

令和5年度 広報企画室の重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

(1) 取組結果報告に基づく評価

3つの重点項目に対して各部門で活動した結果を以下のように評価する。

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 公開企画部門	・サイエンスツアー（出前授業）およびサイエンス・ライブ（公開講座）は、5/9 締切りで募集する。サイエンス・ライブ（公開講座）を対面にて実施する。	◎	・サイエンスツアー 32件 ・サイエンス・ライブ 5件 ・第3回委員会報告
	・各種科学イベントは、実施に向けて準備を行う。	◎	・サイエンスツアーとして3回実施 ・第2・3回委員会報告
	・産業フェアの参加に向けて準備を行う。	◎	・5件参加 ・第2・3回委員会報告
2. 刊行物部門	・「学園だより」を3回発行する。春号は500部、体験入学に夏号と合わせて配付する。	◎	・3回発行 ・第2・3回委員会報告
	・消しゴム、定規、エコバッグ、クリアファイルにオリジナルグッズを限定して作成し、各所で配付する。	◎	・ノベルティの更新： 従来のノベルティから一部を変更し、エコバッグ、A6判メモ帳、クリアファイルを作成した。 ・第2・3回委員会報告
	・「学校案内」および「学校要覧」の工学科改組に伴うリニューアル作業をする。	◎	・「学校案内」、「学校要覧」の工学科改組に伴う修正作業として、写真など更新をおこなった。要覧は大幅に変更された ・実際の発行物で確認
3. 情報発信部門	・古い情報の整理をするとともに、トップページからコンテンツにたどりつくためのルートを整理する。	◎	・現行ホームページへの情報掲載および提示方法の改善 ・第2回委員会報告
	・HPの全面リニューアルを年度末に実施する	◎	・ホームページの全面リニューアル作業 ・第3回委員会報告
	・メンテナンスを依頼し、年次作業についても、外部に依頼できる体制を検討する。	○	・教職員全体で年次更新作業が行える体制に移行し始めた。 ・第3回委員会報告
	・ホームページのサイトメンテナンスや保守業務などを行い、ホームページの維持に努める。	◎	・表示に不整合あるなど現行ホームページの保守をおこなった。 ・第3回委員会報告

(2) 次年度への提言

- 概ね計画通りに活動が行われているため、次年度も継続的に実施する。
 - ホームページのリニューアルに伴って、各部署で積極的に広報活動ができる Web サイトの仕組みが整ってきている。次年度以降それを運営していく体制を整える必要がある。

2-7 技術教育センター

令和5年度 技術教育センターの重点項目と活動計画

委員会	担当	重点項目
技術教育センター	技術教育センター長	1. 安全性の向上 2. 授業支援 3. 課外活動支援 4. 研究支援

1. 安全性の向上

- ・ 機器及び工具等の破損における原因究明と対策
- ・ 技術教育センターの利用規則及び注意事項の見直し
- ・ 安全基本作業講習会及び機械加工基礎実習の実施
- ・ 技術職員の技能向上（技能検定の受検）
- ・ 設備の更新・保守・点検

2. 授業支援

- ・ 実験・実習系授業の支援

3. 課外活動支援

- ・ 物作り系課外活動等の支援

4. 研究支援

- ・ 製作依頼及び技術指導依頼への対応
- ・ 卒業研究、特別研究の装置製作等の支援

令和5年度 技術教育センターの重点項目への取組結果報告

委員会	担当	重点項目
技術教育センター	技術教育センター長	1. 安全性の向上 2. 授業支援 3. 課外活動支援 4. 研究支援

1. 安全性の向上

下記5項目の対策・見直し等の対応をした。

- ・ 機器及び工具等の破損における原因究明と対策
- ・ 技術教育センターの利用規則及び注意事項の見直し
- ・ 安全基本作業講習会及び機械加工基礎実習の実施
- ・ 技術職員の技能向上（技能検定の受検）
- ・ 設備の更新・保守・点検

2. 授業支援

- ・ 実験・実習系授業の支援をした。

3. 課外活動支援

- ・ 物作り系課外活動等の支援をした。

4. 研究支援

下記2項目を対応・支援した。

- ・ 製作依頼及び技術指導依頼への対応
- ・ 卒業研究、特別研究の装置製作等の支援

令和5年度 技術教育センターの重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

(1) 取組結果報告に基づく評価

3つの重点項目に対して各部門で活動した結果を以下のように評価する。

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 安全性の向上	・機器及び工具等の破損における原因究明と対策	△	令和5年度「1. 技術教育センター使用状況」
	・技術教育センターの利用規則及び注意事項の見直し	×	確認できなかった
	・安全基本作業講習会及び機械加工基礎実習の実施	◎	令和5年度「3. 安全基本作業講習会、機械加工基礎実習及び技能検定」
	・技術職員の技能向上（技能検定の受検）	×	確認できなかった
	・設備の更新・保守・点検	○	令和5年度「3. 安全基本作業講習会、機械加工基礎実習及び技能検定」
2. 授業支援	・実験・実習系授業の支援	◎	令和5年度「6. 令和5年度工作実習・実験実習実施項目」
3. 課外活動支援	・物作り系課外活動等の支援	○	令和5年度「1. 技術教育センター使用状況」
4. 研究支援	・製作依頼及び技術指導依頼への対応	◎	令和5年度「1. 技術教育センター使用状況」
	・卒業研究、特別研究の装置製作等の支援	○	令和5年度「1. 技術教育センター使用状況」

(2) 次年度への提言

・実施対応日および計画通りの実施の有無など報告書には不明な点があり、活動等計画に対応した報告をお願いしたい。また、報告書の開示は教育改善のために必要であることから、ポータル等への掲示等をお願いする。

2-8 情報教育センター

令和5年度 情報教育センターの重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
情報教育センター	情報教育センター長	1. 改修工事の対応 2. 高専統一ネットワークの拡充

1. 改修工事の対応

建屋の老朽化のため、今年度に情報教育センターの改修工事が行われます。

- ・ 学科改組やBYOD等の変化を考慮した改修
- ・ 工事期間中は、仮移転先でこれまで通りの授業や業務ができるよう対応する

2. 高専統一ネットワークの拡充

現在、旧システムで拡充した無線LANシステムの更新を進めている。

- ・ 限られた予算内で老朽化した無線LANシステムの更新の実施
- ・ 現在の無線LANシステムで生じている問題の改善を図る。

令和5年度 情報教育センターの重点項目に関する取組結果報告

委 員 会	担 当	重 点 項 目
情報教育センター	情報教育 センター長	1. 改修工事の対応 2. 高専統一ネットワークの拡充

1. 改修工事の対応

建屋の老朽化のため、今年度に情報教育センターの改修工事が行われました。工事期間中、旧電子情報工学科棟 1 階に仮の端末室を設けて授業を行いました。その結果、大きな問題が発生することなく授業を行えたことに加え、令和 7 年度末に現在使用している端末のリース期間が終わることから、令和 7 年度末まで現在の場所に端末室を据え置くこととなりました。また、改修後に利用する先生が他のご意見をいただきながら、情報教育センターのレイアウトやディスプレイの更新を行いました。この結果、情報教育センターは PBL 教育を行いやすい場所として生まれ変わることとなりました。

2. 高専統一ネットワークの拡充

2022 年度の統一ネットワークシステムの更新の対象に含まない研究室、会議室、事務室等の無線 LAN システムの更新を進めました。限られた予算内で効率よくアクセスポイントの配置が行えたものと思います。

令和5年度 情報教育センターの重点項目への取組結果の点検

情報教育センターにおいて提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 改修工事の対応	・学科改組やBYOD等の変化を考慮した改修	◎	第9回(令和5年12月20日)教務委員会配布資料No.11
	・工事期間中は、仮移転先でこれまで通りの授業や業務が可能	◎	旧電子情報工学科棟1階に仮の端末室を設けて授業を実施
2. 高専統一ネットワークの拡充	・限られた予算内で老朽化した無線LANシステムの更新	◎	3/17～3/19に実施
	・現在の無線LANシステムで生じている問題の改善	○	令和5年度長野高専の満足度調査まとめ「2. ICT環境について」

(2) 次年度への提言

- ・情報教育センター（あるいは情報セキュリティ推進委員会）としての議事録がグループウェア上に見当たらないようなので、各種議事概要などへのアップロードにより共有することが望ましい。

2-9 国際交流センター

令和5年度 国際交流センターの重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
国際交流センター	センター長	学内・学外での国際交流の再開と継続

学内・学外での国際交流の再開と継続

- ① 協定校との交流のプログラム作成と交流の機会の提供
- ② 世界情勢の調査と海外研修等のプログラム作成および機会の提供
- ③ 学生会、後援会、国際交流団体、企業と連携した社会活動機会の提供
- ④ 国際寮を活用した国際交流イベントの企画開催
- ⑤ 留学生の学習・生活支援

令和5年度 国際交流センターの重点項目に関する取組結果報告

委員会	担当	重点項目
国際交流センター	センター長	学内・学外での国際交流の再開と継続

1. 国際交流センター重点項目

学内・学外での国際交流の再開と継続

⑥ 協定校との交流のプログラム作成と交流の機会の提供

タイ2校と香港1高の協定校と本校にて対面での交流を行った。引率教員を含め合計43名が桜風寮（国際寮）に宿泊した。

⑦ 世界情勢の調査と海外研修等のプログラム作成および機会の提供

タイ、シンガポール、香港、ベトナム、カナダの協定校に行き、コロナ前と同様な形で研修を行った。その他、カンボジア、インドネシアでも研修を行った。

⑧ 学生会、後援会、国際交流団体、企業と連携した社会活動機会の提供

本年度は長野市主催の国際交流イベントに参加できなかった。

国際交流同好会が1日長野市内散策を企画し、タイおよび香港からの学生を案内した。また、工嶺祭で東京日本語教育センターの学生を案内した。

⑨ 国際寮を活用した国際交流イベントの企画開催

5月にタイおよび香港の短期留学生を宿泊させた。シンガポールの長期留学生は長期休業期間も重なり生活サポートの観点から本校留学生がいる等に宿泊させた。

⑩ 留学生の学習・生活支援

例年と同様に3年生と4年生の留学生に対しチューターを決定し、年間を通じ留学生の学習と生活のサポートを実施した。しかし、本年度は3年生2名の留学生からチューターの解消の申し出があり、やむなく解消した。留学生の安全確保の観点から来年度は申し合わせを変更して必ずチューターをつけなくてはならないこととした。

令和5年度 国際交流センターの重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 国際交流センター 学内・学外での国際交流の再開と継続	・協定校との交流のプログラム作成と交流の機会の提供	◎	・タイ2校と香港1高の協定校と本校にて対面での交流 ・引率教員を含め合計43名が桜風寮（国際寮）に宿泊 ・第2回委員会
	・世界情勢の調査と海外研修等のプログラム作成および機会の提供	◎	・タイ、シンガポール、香港、ベトナム、カナダの協定校およびカンボジア、インドネシアでも研修 ・第2回委員会
	・学生会、後援会、国際交流団体、企業と連携した社会活動機会の提供	○	・長野市主催の国際交流イベントに参加できなかった ・タイおよび香港からの学生を案内 ・第4回委員会
	・国際寮を活用した国際交流イベントの企画開催	○	・タイと香港の短期留学生、シンガポールの長期留学生を宿泊させた ・第4回委員会
	・留学生の学習・生活支援	△	・第4回委員会

(2) 次年度への提言

- ・留学生の安全確保の観点から、必ずチューターをつけるよう申し合わせを変更する。
- ・English Boot Camp 開催などの国際交流イベントを、国際寮を活用して推進する。

2-10 グローバルエンジニア育成センター

令和5年度 グローバルエンジニア育成センターの重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
グローバルエンジニア育成センター	センター長	学生の学習意識向上と自主的学習のサポート

学生の学習意識向上と自主的学習のサポート

- ① 学生の英語学習ウェブサイトの提供と運営
- ② オンライン交流などのイベントを通じた学生の学習意欲向上へのとりくみ
- ③ 留学生との交流会ならびに国際性を養う講演会の実施
- ④ 低学年で実施する海外研修旅行の計画・実施

令和5年度 グローバルエンジニア育成センターの重点項目に関する取組結果報告

委員会	担当	重点項目
グローバルエンジニア育成センター	センター長	学生の学習意識向上と自主的学習のサポート

学生の学習意識向上と自主的学習のサポート

- ① 学生の英語学習ウェブサイトの提供と運営
前年に引き続き英語学習サイトおよびPodcastの運営を行い、学生の自主学習をサポートした。
- ② オンライン交流などのイベントを通じた学生の学習意欲向上へのとりくみ
2学年の海外研修旅行前に台湾での交流予定校（台北市立大安高級工業職業学校）とのオンライン交流会を実施した。
- ③ 留学生との交流会ならびに国際性を養う講演会の実施
 - ・1学年の特活の時間を使って海外研修に参加した先輩の講演会（海外研修参加前の学習や参加中の楽しみかたについて）を行った。
 - ・3年環境都市工学科では、シンガポールからの留学生の講演会を行い、国際性について考えを深め英語学習の必要性を感じ取る機会を作った。
 - ・4年生電子制御工学科では、シンガポールからの留学生2名による「留学について経験者から学ぶ」という講演会および、留学生と日本人学生との交流会を行った。
- ④ 低学年で実施する海外研修旅行の計画・実施
コロナ禍において、昨年度まで中止・代替研修になっていた2学年全員参加（207名）の海外研修（台湾）を実施することができた。

令和5年度 グローバルエンジニア育成センターの重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
学生の学習意識向上と自主的学習のサポート	・学生の英語学習ウェブサイトの提供と運営	△	運営状況が不明 実態を把握できず
	・オンライン交流などのイベントを通じた学生の学習意欲向上へのとりくみ	△	実施計画書・報告書などが確認できず
	・留学生との交流会ならびに国際性を養う講演会の実施	◎	1年生：R5.12.11開催 3C：R5.12.19開催 4S：R6.2.15開催
	・低学年で実施する海外研修旅行の計画・実施	○	11/7～11/10実施

(2) 次年度への提言

- ・英語学習サイトおよび Podcast について、どの学生が対象なのか、どのように運営しているのか（誰が管理しているのか）、また、利用数はどれだけかなどの実態が把握できませんでした。次年度は運営状況や利用状況について委員会内で整理、検討してください。
- ・2 学年のオンライン交流会について、実施計画書もしくは実施報告書が無く、詳細を確認できませんでした。次年度は実施計画書を作成し、学生の学習意欲向上となるような交流会の実施方法等について議論をお願いします。
- ・各計画について個々に動いている様子が見受けられます。進捗状況を定期的に報告する場を設け、会議議事録等に残すようにしてください。

2-11 男女共同参画推進室

令和5年度 男女共同参画推進室の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
男女共同参画推進室	男女共同参画 推進室長	2. 教育活動全般を通じた男女共同参画の推進 2. 男女共同参画の意識啓発 3. 女性教職員に対する労働環境支援

1. 教育活動を通じた男女共同参画の推進
 - ・在学生のキャリア支援のための施策実施
 - ・女子中学生の入学支援施策実施
 - ・在学生へのアンケートによる認知および希望調査の実施
2. 男女共同参画の意識啓発
 - ・ダイバーシティ関連講演会の実施
 - ・学生向け、教職員向けダイバーシティ関連イベントの案内
 - ・男女共同参画関連 web site の充実
3. 女性教職員に対する労働環境支援
 - ・女性教職員対象 労働環境意見収集
 - ・全教職員アンケート (1. のアンケートに準ずる)
4. その他
 - ・教職員労働環境支援 休日勤務における校内一時保育
 - ・GCON2023 参加支援

令和5年度 男女共同参画推進室の重点項目への取組結果報告

委員会	担当	重点項目
男女共同参画推進室	男女共同参画 推進室長	1. 教育活動を通じた男女共同参画の推進 2. 男女共同参画の意識啓発 3. 女性教職員に対する労働環境支援

1. 教育活動を通じた男女共同参画の推進

・在学生のキャリア支援のための施策検討

各系において、本校 OG 等を招いたキャリアセミナーを開催した。在学生在が卒業生からワークライフバランスや、実際の業務内容について学ぶ機会を提供できた。MR 系 2 クラス対象 2024 年 2 月 16 日、IE 系、CE 系 2023 年 12 月 21 日に実施

・女子中学生の入学支援施策検討

女子中学生向けのリーフレットを、在学生（1 学年）の協力を得て県下の 25 校に配布した。3 年生全員に配布が可能な枚数を学生に持参してもらい配布依頼をした。配布先の中学校から概ね好評を得た。配布協力してくれた学生からは、どのような配布方法がより効果的か（時期等）も事後アンケートで意見収集した。

・在学生へのアンケートによる環境整備希望調査の実施

5 月に学生アンケートを実施し、推進室の活動のうち重要と考えるものについて選択してもらったほか、自由記述で必要な設備、対応等について意見を募った。自由記述の内容について関連の委員会にそれぞれ情報を共有し、対応を依頼した。また結果について学生にメールで案内した。

2. 男女共同参画の意識啓発

・ダイバーシティ関連講演会の実施

ソーシャルイノベーションサポートセンターとの協賛で、高専 GCON に関する話および社会課題解決に関する学生教育、サポートに関する話を、みらいスタジオの兼城駿一郎氏を講師に「挑戦的な高専生をどう支援するか？コンテストやイベントを含むキャリア支援・アントレ教育について」のタイトルで令和6年3月4日に実施した。女子学生の活躍の認知を高め、教員にもその活動をサポートしてもらうことを狙ったものである。

・学会等の学生向け、教職員向けダイバーシティ関連イベントの案内

本校 web site に男女共同参画推進室のページを開設されており学内教職員、一般向けにも必要な情報が入手できる構成となっている。本年度の実施イベントについて、キャリアセミナーおよび学生向けダイバーシティ関連講演会の実施内容及び学生アンケート結果を掲載した。

・他高専における取組に関する情報収集、研修

2024 年 2 月 7 日開催された第 2 ブロックの男女共同参画関連会議に室長ほか 1 名の委員と次年度実長が出席した。次年度の主管校は長野である。

3. 女性教職員に対する労働環境支援

・女性教職員就業支援 インターンシップ制度の準備

年度初から本校 web サイトでの案内はしたが、積極的な働きかけを行わなかったため実施にはつながらなかった。人材確保が難しいことを教員募集にて実感している IE 系、MR 系の系長と、メール審議にて、大学への働きかけが必要であるとの認識を共有している。

・教職員アンケート

Teams form を用いて全教員を対象に実施する。例年年度末の 3 月に実施し、4 月からの活動内容に反映させることとしている。令和 5 年 3 月の実施では 39 件の回答があり 11 件の自由記述での意見が寄せられた。

- ・その他

R3 に引き続き、教職員に対する環境支援の一環として、祝日、休日の業務日における校での一時保育を実施した。2024年2月11日（学力選抜試験、日曜日）の日程を対象にのべ4名の幼児・児童の預け入れがあった。

R3 より開始された高専GCONに1チームがエントリーし、本選出場を果たし、協賛企業賞を受賞した。この活動を支援した。

令和5年度 男女共同参画推進室の重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 教育活動を通じた男女共同参画の推進	・在学生のキャリア支援のための施策実施	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・第7回男女共同参画推進室会議 (R5. 10. 17) ・第8回男女共同参画推進室会議 (R5. 11. 14) ・第9回男女共同参画推進室会議 (R5. 12. 14)
	・女子中学生の入学支援施策実施	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回男女共同参画推進室会議 (R5. 5. 16) ・第3回男女共同参画推進室会議 (R5. 6. 13) ・第4回男女共同参画推進室会議 (R5. 7. 4) ・第5回男女共同参画推進室会議 (R5. 8. 8) ・第6回男女共同参画推進室会議 (R5. 9. 19)
	・在学生へのアンケートによる認知および希望調査の実施	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回男女共同参画推進室会議 (R5. 4. 18) ・第2回男女共同参画推進室会議 (R5. 5. 16) ・バインダー (令和5年度第7回運営会議) (R5. 10. 5) ・Webサイトにアンケート結果掲載 (R5. 12. 14)
2. 男女共同参画の意識啓発	・ダイバーシティ関連講演会の実施	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回FD研修会 実施報告書
	・学会等の学生向け、教職員向けダイバーシティ関連イベントの案内	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・Webサイトの更新 (R5. 10. 12, R5. 12. 14)
	・他高専における取組に関する情報収集、研修	○	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年2月7日度第2ブロック男女共同参画推進担当者協議会への参加 (グループウェアの室長スケジュールに記載あり)

3. 女性教職員に対する労働環境支援	・女性教職員就業支援 インターンシップ制度の準備	△	Web サイト上での案内 (R6.3 時点では削除されており、掲載を確認できず)
	・教職員アンケート	◎	R4 年度分の集計結果に対する報告 ・第 1 回男女共同参画推進室会議 (R5. 4. 18) ・第 2 回男女共同参画推進室会議 (R5. 5. 16) R5 年度分の実施 ・Gmail で配信・実施 (R5. 3. 5 配信)
4. その他	・教職員労働環境支援 休日勤務における校内一時保育	◎	・第 3 回男女共同参画推進室会議 (R5. 6. 13) ・第 4 回男女共同参画推進室会議 (R5. 7. 4) ・第 8 回男女共同参画推進室会議 (R5. 11. 14) ・第 9 回男女共同参画推進室会議 (R5. 12. 14) ・校内メールで希望調査 (R5. 12. 11 配信)
	・GCON2023 参加支援	◎	・第 5 回男女共同参画推進室会議 (R5. 8. 8) ・第 6 回男女共同参画推進室会議 (R5. 9. 19) ・第 7 回男女共同参画推進室会議 (R5. 10. 17) ・第 8 回男女共同参画推進室会議 (R5. 11. 14) ・第 9 回男女共同参画推進室会議 (R5. 12. 14)

(2) 次年度への提言

・他高専における取組に関する情報収集、研修について、第 2 ブロックの男女共同参画関連会議に室長ほか 1 名の委員と次年度室長が出席した記録がある。次年度は、得られた情報・事例などをもとに、男女共同参画推進室内で情報共有や長野高専でも取り組めるかどうかなどの検討を行っていく必要がある。

・女性教職員就業支援のためのインターンシップ事業については、今年度応募がなく実施に至らなかった。男女共同参画推進室会議議事録等に本件に関する議論の様子が見られなかったため、次年度は、周知方法の改善など議論を行って行く必要がある。

2-12 進路支援室

令和5年度 進路支援委員会の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
進路支援室	進路支援室長	1. 各種講演会の実施 2. 進路担当教員とキャリアコーディネーターとが連携した進路支援 3. 進路決定情報の収集および分析

1. 各種講演会の実施

- ・低学年向けの講演会の実施
- ・4年生向けの講演会の実施
- ・専攻科生向けの講演会の実施

2. 進路担当教員とキャリアコーディネーターとが連携した進路支援

- ・進路セミナーを通じた進路支援
- ・応募書類作成支援および面接対策

3. 進路決定情報の収集および分析

- ・進学希望者および就職希望者の合格・不合格情報の収集および分析

令和5年度 進路支援室の重点項目への取組結果報告

委員会	担当	重点項目
進路支援室	進路支援室長	1. 各種講演会の実施 2. 進路担当教員とキャリアコーディネーターとが連携した進路支援 3. 進路決定情報の収集および分析

1. 各種講演会の実施

・低学年向けの講演会の実施

【実施内容】1年生進路ガイダンスの実施（8/7、5年生2名による講演、進路決定状況説明）
3年生進路セミナーの実施（11/8、キャリアコーディネーターによる講演）

・4年生向けの講演会の実施

【実施内容】4年生進路ガイダンスの実施（10/4、キャリアコーディネーターによる講演）
4年生進路セミナーの実施（12/2、キャリアコーディネーターによる講演）
4年生卒業生講演会の実施（12/6、本校卒業生等による講演）
4年生進学講演会の実施（12/13・20、大学等入試広報担当教員による講演）
大学院・編入学説明会の実施（2/21、大学等入試広報担当教員による講演）
進路講演会の実施（2/23、進路支援室長、学校カウンセラーによる講演）

・専攻科生向けの講演会の実施

【実施内容】専攻科進路セミナーの実施（8/9、キャリアコーディネーターによる講演）
大学院・編入学説明会の実施（2/21、再掲）

2. 進路担当教員とキャリアコーディネーターとが連携した進路支援

・進路セミナーを通じた進路支援

【実施内容】3年生進路セミナーの実施（11/8、再掲）
4年生進路セミナーの実施（12/2、再掲）
専攻科進路セミナーの実施（8/9、再掲）

・応募書類作成支援および面接対策

【実施内容】進路担当教員やキャリアコーディネーター等による応募書類の作成支援、模擬面接練習の実施、進路相談の実施

3. 進路決定情報の収集および分析

・進学希望者および就職希望者の合格・不合格情報の収集および分析

【実施内容】進路決定状況の集約、運営会議における報告
進路支援室と学級担任、専攻長との情報共有
進路説明会（2/23）における進路決定状況報告

令和5年度 進路支援室の重点項目への取組結果の点検

進路支援室において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 各種講演会の実施	・低学年向けの講演会の実施	◎	・第1回資料No. 5-1、5-4「要項」 ・第3回資料 No. 3「報告」
	・4年生向けの講演会の実施	◎	・第1回資料No. 5-3、5-5、5-6、5-7、第2回資料No. 8（要項） ・第3回資料 No. 3「報告」
	・専攻科生向けの講演会の実施	◎	・第1回資料No. 5-2、第2回資料No. 8「要項」 ・第3回資料 No. 3「報告」
2. 進路担当教員とキャリアコーディネーターとが連携した進路支援	・進路セミナーを通じた進路支援	◎	・第1回資料No. 5-2、5-3、5-4、5-6「要項」 ・第3回資料 No. 3「報告」
	・応募書類作成支援および面接対策	◎	・第1回資料No. 3、第2回資料 No. 2「相談実績・主な相談内容」
3. 進路決定情報の収集および分析	・進学希望者および就職希望者の合格・不合格情報の収集および分析	◎	・第11回運営会議報告2「学生支援委員会・進路支援室報告」 ・第3回資料 No. 3「報告」

(2) 次年度への提言

- ・3. 進路決定情報の収集および分析において、「合格実績の詳細分析」の年度内に実施できた分とできなかった分を、次年度に引き継ぐことが望ましい。

2-13 教育改善委員会

令和5年度 教育改善委員会の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
教育改善委員会	委員長	1. 各種委員会の活動状況の点検 2. 授業改善システムの実施と評価・点検 3. FD 研修会の企画・開催と評価 4. エビデンス収集・保管

1. 各種委員会の活動状況の点検
 - ・委員会の活動重点項目の確認
 - ・活動結果の把握および点検
2. 授業改善システムの実施と評価・点検
 - ・授業改善システムの実施
 - ・授業改善システムの点検、評価
3. FD 研修会の企画・開催と評価
 - ・FD 研修会の企画と実施
 - ・FD 研修会の実施後点検、評価
4. エビデンス収集・保管
 - ・エビデンス収集・保管の実施

令和5年度 教育改善委員会の重点項目への取組結果報告

委 員 会	担 当	重 点 項 目
教育改善委員会	委員長	1. 各種委員会の活動状況の点検 2. 授業改善システムの実施と評価・点検 3. FD 研修会の企画・開催と評価 3. 4. エビデンス収集・保管

4つの重点項目について以下のように活動を実施した。

1. 各種委員会の活動状況の点検

- ・ 委員会の活動重点項目の確認は、年度のはじめに教育改善委員会で年度の計画を確認し、6月に各委員会・センターなどに計画書作成の依頼を行った。
- ・ R5年度校務分掌の変更により、「教育支援センター」を削除し、「技術教育センター」「情報教育センター」に分けた。また、「グローバル教育推進センター」を削除し、旧センターの中で教育に関するセンターとして「国際交流センター」「グローバルエンジニア育成センター」を対象とした。
- ・ 活動結果の把握および点検は、9月にフォロー（活動計画の確認と活動計画の進捗状況確認）を行い、2月末に報告を作成するよう依頼した。3月上旬から点検評価を行った。

2. 授業改善システムの実施と評価・点検

- ・ 授業改善システムの点検、評価は、授業改善システムに基づく点検を8月下旬から9月に実施した。一部資料がそろっていなかったため、10月末提出となった。来年度は9月末回収としたい。

3. FD 研修会の企画・開催と評価

- ・ FD 研修会は、教務委員会、ソーシャルイノベーションサポートセンター、学校いじめ対策委員会、男女共同参画推進室と共催で4回実施した。
- ・ FD 研修会の実施後点検、評価として、アンケートを実施し報告書の作成を行っている。本年度は、参与会で指摘された「FD効果の計り方」として、実施したFD研修の報告書をメールで添付し自薦を呼び掛けた。3月中旬にFD総括アンケートを実施した。

4. エビデンス収集・保管

- ・ エビデンス収集・保管を前期期末と学年末・再試後に実施した。

令和5年度 教育改善委員会の重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 各種委員会の活動状況の点検	<ul style="list-style-type: none"> 委員会の活動重点項目の確認は、年度のはじめに教育改善委員会で年度の計画を確認し、6月に各委員会・センターなどに計画書作成の依頼を行った。 	◎	校内メール 6月3日(依頼)
	<ul style="list-style-type: none"> R5年度校務分掌の変更により、「教育支援センター」を削除し、「技術教育センター」「情報教育センター」に分けた。また、「グローバル教育推進センター」を削除し、旧センターの中で教育に関するセンターとして「国際交流センター」「グローバルエンジニア育成センター」を対象とした。 	◎	校内メール 6月7日(訂正メール) 7月1日(訂正メール)
	<ul style="list-style-type: none"> 活動結果の把握および点検は、9月にフォロー(活動計画の確認と活動計画の進捗状況確認)を行い、2月末に報告を作成するよう依頼した。3月上旬から点検評価を行った。 	◎	校内メール 9月12日(フォロー) 2月14日(9/12スレッド:報告書提出) 2月28日(9/12スレッド:報告書催促)
2. 授業改善システムの実施と評価・点検	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善システムの点検、評価は、授業改善システムに基づく点検を8月下旬から9月に実施した。一部資料がそろっていなかったため、10月末提出となった。来年度は9月末回収としたい。 	○	令和5年第2回教育改善委員会議事概要 議題4 令和5年第3回教育改善委員会議事概要 議題2 令和5年第4回教育改善委員会議事概要 議題1
3. FD研修会の企画・開催と評価	<ul style="list-style-type: none"> FD研修会は、教務委員会、ソーシャルイノベーションサポートセンター、学校いじめ対策委員会、男女共同参画推進室と共催で4回実施した。 	◎	令和5年第2回教育改善委員会議事概要 議題1 令和5年第3回教育改善委員会議事概要 議題3 令和5年第5回教育改善委員会議事概要 議題5
	<ul style="list-style-type: none"> FD研修会の実施後点検、評価として、アンケートを実施し報告書の作成を行っている。本年度は、参与会で指摘された「FD効果の計り方」として、実施したFD研修の報告書をメールで添付し自薦を呼び掛けた。3月中旬にFD総括アンケートを実施した。 	○	令和5年第3回教育改善委員会議事概要 議題3 令和5年第4回教育改善委員会議事概要 議題3 令和5年第6回教育改善委員会議事概要 議題2
4. エビデンス収集・保管	<ul style="list-style-type: none"> エビデンス収集・保管を前期末と学年末・再試後に実施した。 	◎	令和5年第2回教育改善委員会議事概要 議題2 令和5年第4回教育改善委員会議事概要 議題2 令和5年第5回教育改善委員会議事概要 議題2

(2) 次年度への提言

- ・ 点検の時期が遅れないようにスケジュールリング管理が重要である。
- ・ 実効性のある点検のため、組織の変更や点検方法・点検時期は委員会で話し合い柔軟に対応することが大切である
- ・ FD 研修の効果の計り方を、改良しながら適切な検討を行うことが重要である。

3. 令和5年度における各種点検報告

3-1 学習・教育目標の達成度に関する調査報告書の点検

令和5年度学習・教育目標の達成度自己評価調査票は教務委員会によりアンケートを実施し、集計結果が教務委員会および専攻科運営委員会で報告された。

3-1-1 本科5年のアンケート調査

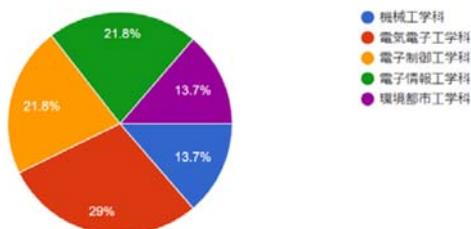
- ・アンケートの実施
 - ・アンケート結果の集計
- データは付録1に示す。

委員会でデータの考察はしていない。

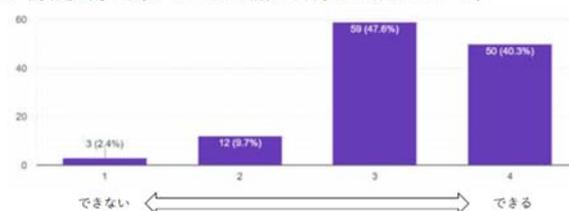
【データ分析】

データのグラフの抜粋を示す。

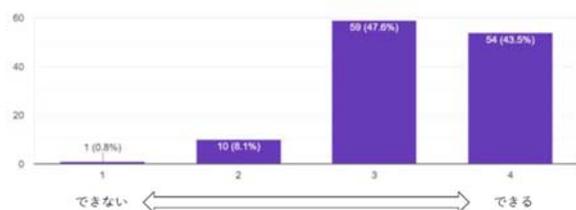
所属学科
124件の回答



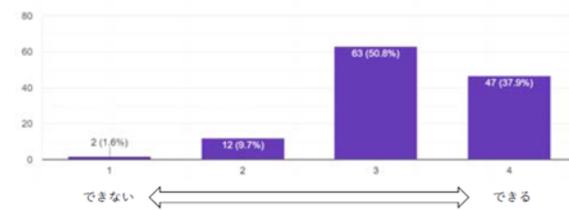
(C)機械、電気電子、情報または土木の工学分野（以下「基盤となる工学分野」という。）に必要な数学、自然科学の知識を有し、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる。



(D)基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できる。



(G)習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行する能力を身につける。



- ・回答数が124件で在席人数177名に対して70%であった。
- ・学習教育目標のA~Gの全てにおいて、回答学生の約8割以上の近い学生が3以上のスコアを付けた。
- ・昨年はC・D・Gにおいて、約83%の学生が3以上のスコアであったのに対し、本年は約89%で6ポイント上回った。
- ・C・D・Gは工学の基礎への理解と応用力を含む学習・教育目標であり、教育の達成度として一定の評価をすることができると思われる。

【次年度への提言】

- ・全員回答を目標年、回答学生数を増加させる方法を検討する必要がある。
- ・委員会でも結果の分析や、次年度以降への改善（対応）を検討すべきである。

3-1-2 専攻科のアンケート調査

- ・アンケートの実施
- ・アンケート結果の集計

データは付録 2 に示す。

委員会のデータ集計のコメントから分析を行う。

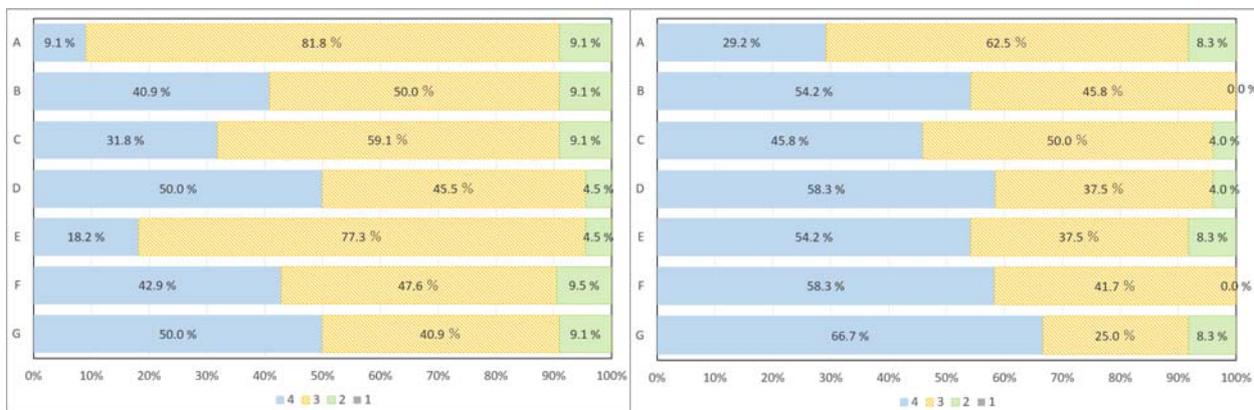


図 学習・教育目標の達成度評価確認の集計結果：左：本年 R5、右：昨年 R4

【データ分析】

- ・ 4 優秀 (すばらしい) 3 良 (よい) 2 可 (さらに努力を要する) 1 不可 (不十分) で集計した。
- ・ 全項目で、3 以上が全体の約 9 割であった。学習・教育目標 A・E は 4 の回答が少ない。
- ・ 昨年度の集計結果と比較すると、全体的に低い評価へ傾いた傾向が見られる。
- ・ 学の基礎への理解と応用力を含む学習・教育目標である C・D・G の 3 以上の平均を確認する。本年度は 92.4%で、昨年度の 94.4%と比較して、2 ポイント下がった。大きな差がり方ではなかった。

【分析】

昨年度に比べて評価 4 の学生が全体的に減少傾向にあり、逆に評価 2 が増加傾向にある。まだ、COVID-19 の影響が残ると思われるが、このような傾向が強くなる前に学生指導の方法の検討をする必要があると考えられる。

3-2 学生との意見交換会に関する点検

一昨年まで行われなかった学生との意見交換会が昨年につき、2月20日(火)に行われた。

専攻科生と専攻科長および担当教員との意見交換会が2月22日(木)に実施された。

付録3に学生より学校への意見要望と、学校側の回答を示す。

貴重な学生と学校側の意見交換の機会である。結果を新旧の学生支援委員や各系の会議などで周知することが大切と考えられる。

3-3 令和5年度参与会で出された改善点の整理

令和6（2024）年1月23日（水）に第20回長野高専参与会が実施され、その概要が報告書「第20回長野工業高等専門学校参与会議事概要」にまとめられている。この報告書の内容に基づき、本校が今後取り組むべき課題は何か、以下に報告する。

1. 参与会の概要

(1) 出席者

- ・参与会のメンバー → 8名
- ・本校関係者 → 校長他 13名(内 オブザーバー 7名)

(2) テーマ → 「本校における課題や問題」

(3) 協議題

- ・自己点検・評価表の評価方法

(4) 議事内容

天野会長から、この参与会は外部点検の意味合いもありますので、点検評価という意味でも忌憚ないご意見等を伺いたいとの挨拶があった。

その後、参与会設置要項第7条第1項の規定により天野会長が議長となり、次第に沿って議事が進行された。上記の協議題について本校担当者より配布資料に基づいた説明があり、その後質疑応答が行われ、参与会のメンバーよりいくつかの貴重な提言をいただいた。

2. 今後の課題

参与会の質問・意見や要望を基にして、今後本校が取り組むべき課題を整理した。

- (1) 自己点検・評価の推移の可視化
- (2) 自己点検・評価に対して行った内容の効果、進捗の確認
- (3) 点検項目の再検討の即時性
- (4) 学習環境・学生支援に対する学生からの評価確認
- (5) 達成率の低い点検項目の重点化、効果的な取り組みの検討
- (6) 自己点検評価項目の数値化

なお、長野高専ホームページ 外部評価報告

<http://www.nagano-nct.ac.jp/guide/out/index.php>

を参照されたい。

3. 令和5（2023）年度の参与会からの要望等

令和5（2023）年度の第20回長野高専参与会が令和6（2024）年1月23日（火）に開催され以下の要望等を頂いた。

1. 点検・評価に関し、前年度の実績に対して、各評価項目の変化の推移、できていることとまだできていないことについてもう少し分かりやすくなるといい。
2. 評価制度に対する姿勢として、実行した内容に対する効果の確認を行う必要がある。
3. 検討する事項の再検討をすぐに適用し、実施するべきである。
4. 学習環境と学生支援について、毎年、異なる手法やアプローチを取りながらも学生のニーズ調査やアンケートなどの項目が十分に実施されていないことがある。学習環境や学生支援は、受け身の学生側からどのように評価されているのかを把握することも重要である。
5. 点検項目が多いと点検や評価が難しく、点検のための点検になっているのではないかという疑念がでる。特に達成率が比較的低い項目については、その年度ごとに重点的に取り組み、最終的に外部評価を受けるための準備を進めることが望ましい。外部評価を受ける際には全ての項目が対象となるので、そのためにも効果的な取り組みが必要である。
6. 工業系の高校の受験生が減少している中で、長野高専は中学卒業後の理工系教育の中核となるべきだと考えている。

3-4 実施済研修会の効果の点検およびその改善

令和5年度は4回のFD研修会を実施した。

3-4-1 研修概要

(1) 第1回 「MCC改訂とカリキュラムマネジメントについて」

主 催：教務委員会・教育改善委員会

日 時：令和5年9月11日（月）15:00～16:30

場 所：100番教室

講 師：高専機構本部学務総括参事 下田 貞幸 先生

出席者：約37名

高専教育の変化と全体の動き・MCC到達目標の全体構成・カリキュラムマネジメントの説明があった。機構の方針や考えを行ける貴重な研修であった。

(2) 第2回 「キャリア教育について」

主 催：ソーシャルイノベーション・サポートセンター・教育改善委員会

日 時：令和5年9月22日（金）14:30～16:30

場 所：100番教室

講 師：都市デザイン系 酒井先生，はたらく部代表 山本将裕

出席者：約23名（アンケート回答者数。）

今年から始まった「エンジニアリングデザイン入門」に対応するための研修であった。(1)デザイン能力，(2)プロジェクト遂行能力，(3)チーム活動能力が重要である旨が説明された。中高校生向けキャリア教育事業の説明など今後の学生のキャリア教育について眼が得る良い機会であった。

(3) 第3回 人間関係トレーニング「わかちあう・こたえる」

主 催：学校いじめ対策委員会、教育改善委員会

日 時：令和5年11月8日（水）16:15～16:35

場 所：オンライン（Teamsによる配信）

講 師：スクールソーシャルワーカー 青木 三枝子 氏

題 目：

出席者：約53名（オンライン聴講者数。なお出席者に、後日録画視聴者を含まない）

枠組みが違っていることを前提にコミュニケーションを考えることが大切であること、双方通行のコミュニケーションを心掛けることに留意することなどの説明があった。今後の本校での学生相談といじめ対策への理解を深める上で有用な内容であった。

(4) 第4回 「挑戦的な高専生をどう支援するか？コンテストやイベントを含むキャリア支援・アントレ教育について」

主 催：男女共同参画推進室・ソーシャルイノベーションセンター・教育改善委員会

日 時：令和6年3月4日（月）13:00～14:30

場 所：100番教室

講 師：みらいスタジオ 兼城 駿一郎 氏

出席者：30名（会場で人数確認）

学生を支援する方法、どのように学生のやる気を出させるかを聞いた。今後の学生の学外での活躍を支援する方法を理解できる有意義な内容であった。

(5) まとめ

本年度は4回のFD研修会を実施した。第3回は短時間での実施であったが、それぞれ重要な内容であり、定期的な実施は必要であると思われる。アンケートの結果については、付録に掲載する。

3-4-2 FD 研修の効果の検討

FD 研修の効果を計る評価手法の検討を実施した。

経緯

R4 年の参与会で「FD・SD は実施されているが教育およびその支援等の具体的な評価手法が定められていない」と指摘があった。そこで、「FD 研修の効果の計り方」を検討することとなった。

実施内容

- 1) FD 研修実施 9/11, 6/22, 11/8、3/4 実施
- 2) 参加者の FD アンケート（一週間後締め切り）
- 3) 教育改善の担当委員が FD 報告書を作成
- 4) 配布資料と報告書を教員へ配布（実践への呼びかけ）のメールを実施（本年度は 11/24）
- 5) 年度末に FD 総括アンケート Google フォームで実施する。

アンケートの内容

FD 研修の実践効果を確認するためのアンケートです。ご協力ください。

R5 年度は下記の 4 回の FD 研修を実施しました。11/24 に FD 研修を教育活動に生かすため、年度の途中で報告書をお送りし研修の振り返っていただきました。

FD 研修内容の実践状況を確認するアンケートを作成しましたので、ご入力ください。

第一回

題目：MCC 改訂とカリキュラムマネジメントについて

講師：高専機構本部学務総括参事 下田 貞幸 先生

日時：令和 5 年 9 月 11 日（月）15:00～16:30

第二回

題目：キャリア教育について

講師：CE 系 酒井先生，はたらく部代表 山本将裕

日時：令和 5 年 9 月 22 日（金）14:30～16:30

第三回

題目：人間関係トレーニング「わかちあう・こたえる」

講師：スクールソーシャルワーカー 青木 三枝子 氏

日時：令和 5 年 11 月 8 日（水）16:15～16:35

第四回

題目：「挑戦的な高専生をどう支援するか？コンテストやイベントを含むキャリア支援・アントレ教育について」

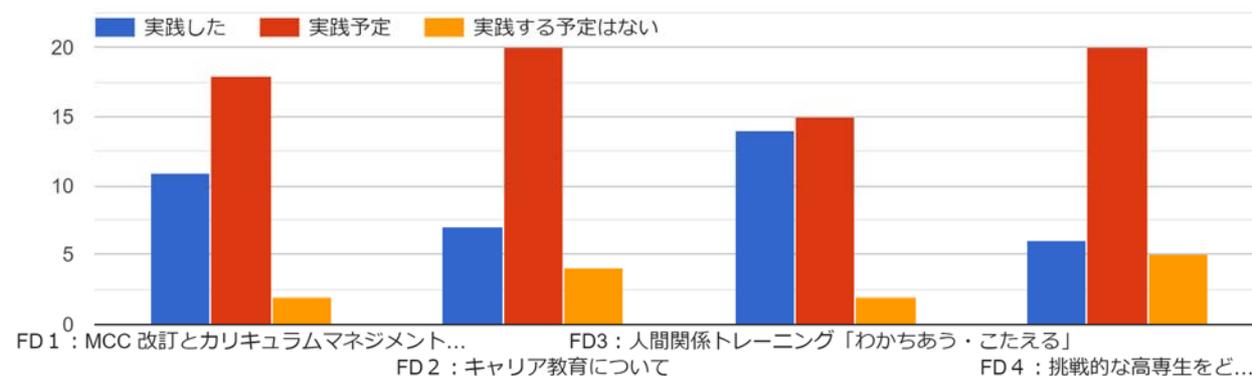
講師：みらいスタジオ 兼城 駿一郎 氏

日時：令和 6 年 3 月 4 日（月）13:00～14:30

評価項目と結果

31 名から回答があった。

- 1) 4 回の FD 研修に対して、研修の内容を「実践した・実践予定・実践する予定はない」で回答



実践したが最も多いのは FD3 人間関係トレーニング、次が FD1MCC 改訂であった。実践予定まで含めるとすべての FD 研修で 8 割（84～94%）は超えていた。FD 研修を実践するという事では効果はあったと考えられる。テーマについてみると、キャリア教育系は MCC や人間関係と比較して実践傾向

が少ない。まだ、身近でないテーマの可能性もある。キャリア教育は継続的に研修を実施する必要がある。

2) FD 研修の効果を確認する方法の提案

- ・ このアンケートによる形式は1つの方法として良いと思います。
- ・ このアンケートは良い取り組みだとも思います。今年度どんなFDがあつて、参加できたものも、できなかったものもありますが、自分がどう取り組んだか確認できます。
- ・ 効果の確認もですが、そもそもの参加者が少ないことが気になります。FD 研修会は自由参加のイベントではなく、出張等、特段の理由がない人はすべて参加すべきであると思います。
- ・ 一般論ですが、何がどう変わったのかが把握できると効果の確認につながると思います。
- ・ 授業改善報告書に、「FD 研修会から」があり、この報告書を多くの先生から提出していただくように、積極的に声をかけていくと、認証評価等のエビデンスとしても利用できると思います。

貴重な意見をいただいた。今後のFD研修や効果の計り方に活用していくと良いと思う。

次年度への提言

- ・ FD参加者を増やす方法を検討する
- ・ FD研修を受けた後に、FD研修の内容の実践のアンケートを入れ、年度末のFD総括アンケート比較することで、取り組みの変化が分かる。
- ・ 来年も継続し、より良い効果の計り方を進める。
- ・

4. 令和5年度 FD 研修会実施報告

4-1 第1回 FD MCC 改訂とカリキュラムマネジメントについて 2023年9月11日

令和5年9月13日

令和5年度 第1回FD研修会 実施報告書

1. 日程他

主 催：教務委員会・教育改善委員会

日 時：令和5年9月11日（月）15:00～16:30

場 所：100番教室

講 師：高専機構本部学務総括参事 下田 貞幸 先生

題 目：MCC改訂とカリキュラムマネジメントについて

出席者：約37名（アンケート回答者数。なお出席者に、後日この研修会の録画を視聴した者を含まない）

2. 概要

下記の講演があり、今後の本校の授業等を進める上で有用な内容であった。

1) 高専教育の変化と全体の動き

高専での教育活動、時代の変化と育成する人材像、高専教育の広がり、質保証のPDCA

2) MCC改定

MCC到達目標の全体構成：高専卒業生が修得する資質・能力、MCCのコア、MCC(モデル)：基盤的資質・能力、MCC(モデル)：創造性・デザイン能力、カリキュラムマネジメントの基本的な考え方とMCCとの関係、MCCを基盤としたカリキュラムマネジメント、ディプロマポリシー（及び学習教育到達目標）とMCCとの関係、Level 4（実践）に向けた学習機会に関する考え方、PBL等の導入、拡充に係る課題と対応、

3) カリキュラムマネジメント

カリキュラムマネジメント、教学マネジメントの4層モデル、カリキュラムマネジメントの実践、評価の目的、評価について、形成的評価について、形成的評価の活用、学習の評価

3. 質疑応答

1 質疑：レベル4の確認は、必須が望ましいが、選択科目でもいいですか？

応答：必須ならやりやすいですが、レベル4をしっかりと説明できれば、選択科目でもダメではないです。

2 質疑：カリキュラムツリーにアセスメント科目が入っていますが、包括するような科目はなく、独自の問題を出す方法でもいいですか？

応答：1つの科目で見るのは難しいため、科目の組み合わせでもいいです。

3 質問：KISは、JABEEや機関別認証評価がある中、その上に行く評価であり、大変となります。

応答：内外に示すもので、JABEEは4年生以上、認証評価は法律に基づくもので、KISは本科の教育を見るもの、しっかりやっているかを外部に示したい。1から3年生を含めて本科の教育の良さを見せる。KISでは書類は少なくしたい。1から3年と4年以上とJABEEと接続するよう、JABEEと調整している。

4 質疑：機関別認証評価から試験の使い回しが多くの高専で行われていると指摘があったが、同じ問題でレベル確認をしている面もある。どのような意味で使い回しがいけないのか。

応答：試験の使い回しは目的があればよいが、先生が楽をする、学生が過去問をやるだけで、本当の力が付いていない、適切な評価ができていないという意見がある。毎年同じ問題プラス年による違う問題で行うといいかも。

5 質疑：MCC を改訂しているが、学習指導要領も変わっている。学生から見るとレベルが高いのではないか。

PBL や COMPASS5.0 (AI・数理、サイバーセキュリティ、ロボット、IoT、半導体という5つの分野) を行う先生がいない。科目が回らない。先生の採用も考えないといけないのでは、ないか。

応答：学習指導要領も考慮して MCC を考えている。社会情勢の変化が大きい、より最新の教育をするために MCC は改訂している。増やした分減らすことも考えている。発展的な分野は基礎に含まれる。先生方は、勉強してやっていく必要があるが、教員は増えないので、企業や卒業生の力を借りる。連携してやっていく。力を借りないとできないと考える。

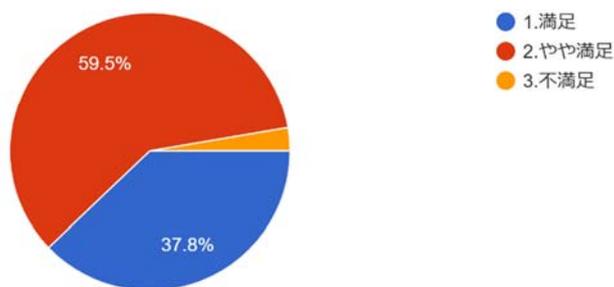
6 質疑：大学院クラスを考えているように見える。基礎的な力が必要ではないか、しっかり定着させる。基礎的な核になる所を押さえて PBL を行う。専攻科や大学に送って力を付けてもいいのではないか。

応答：5年間で、半導体の人材が育つとは思えないので、基礎をしっかりやる。ベースは本科でやり、大学に行って日本を引っ張っていく人になる。

4. アンケート結果

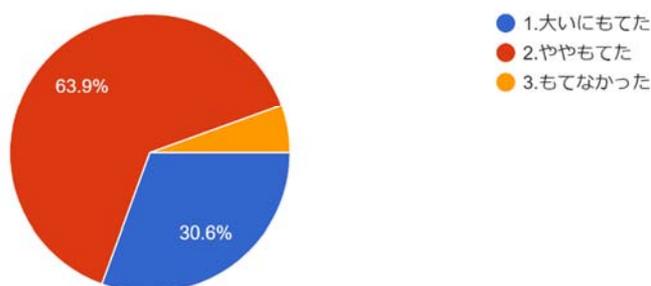
項目1：研修会はあなたの求めるテーマでしたか？

37 件の回答



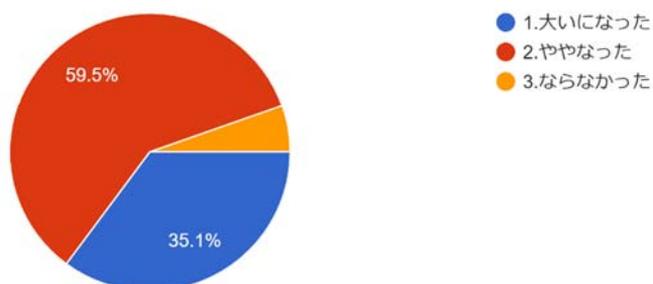
項目2：今回の内容に興味をもてましたか？

36 件の回答



項目3：今後の教育活動の参考になりましたか？

37件の回答



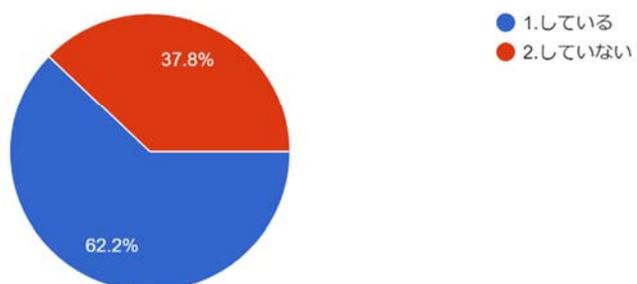
項目4：開催時期は適当でしたか？

36件の回答



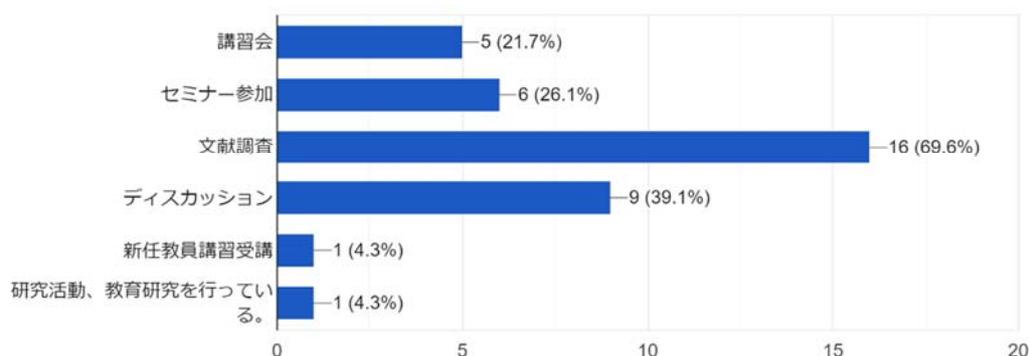
項目5：あなたは学校が用意したFD以外に教育技術向上のための活動をしていますか？

37件の回答



項目5-2：項目1で「している」場合、活動を以下から選んで下さい。

23件の回答



項目 6：今後の FD 研修会に取り上げてほしいテーマ、ご希望、ご意見などありましたら、ご記入ください（自由記述）

・特にございません

・MCC も PDCA に則って検討されているとのことでしたが、何をチェックしているのか疑問が湧きました。5年おきに改定して年次進行で適用すると、そのMCCを適用された学生が卒業した直後に次期MCCが始まります。したがって次期MCCの策定に際して直前のMCCの結果をチェックすることは物理的にできません。何か矛盾があるような気がしてしまいます。

・新任教員が単独で科目担当になった時に、いかにして、授業展開していくか（前任者の資料を引き継いだのみの新任教員がいかにして実のある授業を展開していくか）についてご教授頂きたいと存じます。

今回、教育の目標は何で、そのためにどんな教育（授業方法、評価方法）が適切かについて考えねばならないということを知りました。科目間連携を考えるため、カリキュラムツリーを確認いたします。

・企業との連携による授業、MCC 到達度 level4 の授業、専攻科と本科が連携した授業など知りたいので、他高専の先進的な取り組みを取り上げていただき、学内で情報共有したいです。

・今は思い浮かびません。

・特になし

・アクティブラーニングや反転学習などを取り入れている先生に、どのように取り入れたのかとか、実際にどのような効果があったのかなどを聞いてみたいです。

私の理解が至らないのが原因ですが、抽象的なお話よりも、具体的な内容やエピソードについて色々聞ける方が、ありがたいです。

・アクティブラーニング関係

・本校が JABEE を継続する意義

令和5年度 第2回FD研修会 実施報告書

1. 日程他

主 催：ソーシャルイノベーション・サポートセンター・教育改善委員会

日 時：令和5年9月22日（金）14:30～16:30

場 所：100番教室

講 師：都市デザイン系 酒井先生、はたらく部代表 山本将裕

題 目：キャリア教育について

出席者：約23名（アンケート回答者数。）

2. 概要

下記の講演があり、今後の本校の授業等を進める上で有用な内容であった。

内容①：エンジニアリングデザイン入門の概要と教員への協力の呼びかけ（酒井先生）

1) エンジニアリングデザイン入門とは

エンジニアリングデザイン科目としてエンジニアリングデザイン入門（2年次）、その後修科目としてエンジニアリングデザイン実践（4年次）が設定されている。エンジニアリングデザイン入門では、(1)デザイン能力、(2)プロジェクト遂行能力、(3)チーム活動能力が重要である旨が説明された。

2) エンジニアリングデザイン入門の授業予定について

第1タームで「学生のマインドセット」のためのエンジニアリングデザインを学ぶ意義についての講義を行い、第2タームで「デザイン思考の準備（課題発見力）」としてテーマを決め、そのテーマを解決したり、叶えたりする計画づくりを行う。第3タームで「デザイン思考の実践（情報収集・論理的思考）」を行い、情報収集・調査・実験等を行う。そして第4タームでは「とりまとめ・発表（主体的行動力・プレゼン力）」として、取り組んできたテーマのとりまとめと発表を行う。なお、本授業では、1チームあたり4～6名程度で2系以上の学生からなるグループワークで実践される。

3) 各教員への協力要請

本授業を実践するにあたって、各教員には各チームを指導する「メンター（期間中、指導にあたる）」や「アドバイザー（必要に応じてアドバイスを）」として協力いただきたい旨の依頼があった。

内容②：キャリア教育についての講演とワークショップ（はたらく部代表 山本将裕）～16時半

1) 「はたらく部」とは

株式会社NTTドコモの社内新規事業創出プログラム「39works」で企画検証された、中高校生向けキャリア教育事業。

2) 社内企業

メリットは、会社のリソースを使いながらできること、起業に比べ失敗してもリスクが少ないこと。成功の秘訣は、コツコツと継続すること。具体策として、自分の思いを発信して社外の味方を作り代弁してもらい、組織内にも同じ思いをもつ仲間を作る、直属の上司がダメでも縦斜めの上司に提案しに行く。

3) 越境体験

社会人になる前に、学校以外の場所で、ボランティアや企業と触れるような越境活動をどれだけ行ったかが大切。自己決定の回数が多いほど、社会人になってからの満足度・幸福度が上がる。

4) 啐啄同時

人間は「着火型」、「可燃型」、「不燃型」、「消火型」に分類できる。大多数は「不燃型」だが、いつでも自分を変えることができる。

5) 原体験

新卒で石巻支店に配属され、2011年3月に女川町で東日本大震災を被災した。会社も家も津波で水没し、支店へ帰社するも3日間閉じ込められ、その後はインフラの復旧活動に努めた。この体験を通して、自分という人間の小ささ、社会の一員として生かされていることを実感した。そして、後悔の無い人生を送りたい、社会の役に立ちたいと決意した。

3. 質疑応答

1 質疑： スタートアップピッチは面白いので時々見る。ほぼ例外なく早口で、相手に思考を許さないようなスピード感があり、文化なのだろうと思う（が、いかがだろうか）。

応答： ピッチでは時間制限があるので、早口にならざるを得ない。複雑なプロジェクトの場合は特に。

2 質疑： 一方で、我々が育てたいのは”A”と言われたら即”B”と答える人材ではなく、10秒くらい考えてから”本当にAですか？”と言えるような人材。ここにギャップがあるような気がするが、間を埋めるといったような考え方などはないか。

応答： じっくり考えることが不要なわけではない。CPF (Customer Problem Fit) のような評価の場では、考えた結果「違うんじゃないか」という結論になることもある。

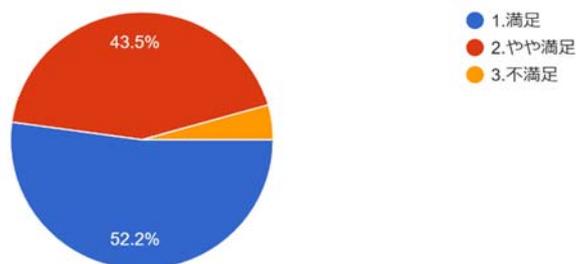
3 質問： 世の中で求められる人材像がアントレプレナマインドを持った学生となると、そのような力のない学生は社会的なニーズはあるのか。皆がそのようなマインドを持つ必要性があるのか。

応答： 必ずしも全員が高いアントレプレナマインドやいわゆる「着火型」になる必要はない。企業が業務を効率的に進めていく上で、全員が「着火型」だと発散してしまう。上司から与えられた業務を淡々とこなす人材（ソルジャー）も必要であるので、そのバランスが重要である。

4. アンケート結果

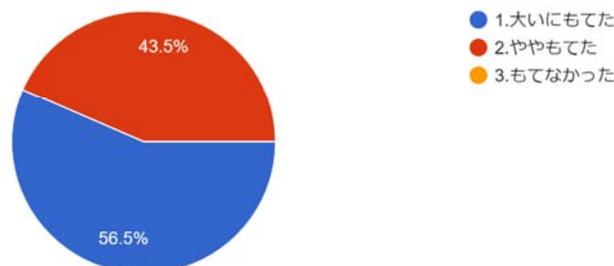
項目1：研修会はあなたの求めるテーマでしたか？

23件の回答



項目2：今回の内容に興味をもてましたか？

23件の回答



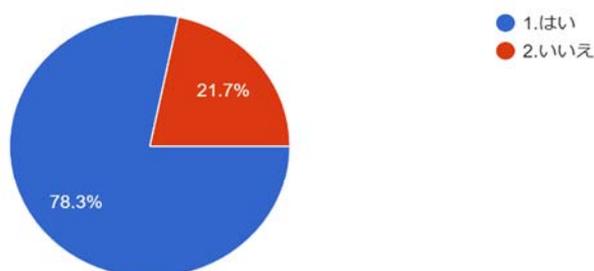
項目3：本日の外部講師授業に関してコメントあればお願いします（自由記述）

- ・学生、特に3、4年生にも講演してほしい内容だと感じた
- ・プレゼンテーションが上手く学生に聞かせたい内容だった
- ・トータルの時間を1時間程度にできれば、参加しやすい感じがします。
- ・現在の社会状況から、これからの教育を考えるきっかけになりました。

- 多くのグラフなどを明示して説明してくれたが、都合よく解釈している事が多く、講演中に何度も「？」となってしまい、着いていくのが大変だった。
講師の方と同じ考えを持っている人は「自分の教育の仕方は正しいんだ」という自信につながったかと思うが、私には当てはまらなかった。
- 積極性を持たせる方法を再認識できた。学生にも聴いてもらいたい内容だった。
- 普段聴くことができないお話を聴くことができました。さらに、元気を与えてもらったような気がします。
- 知らない単語（業界では普通なのかも）があったので、少し説明しながら進めていただければ理解が早まりました。
- 現状、学校の教員や文科省には根本的にアントレプレナーシップ教育は不可能だと思う。90分15回の授業パッケージを提供してもらえば取り入れることが容易になるかと思います。
- 内容として企業向け（総合系）な内容で、教育機関、工学系機関向けの内容ではないように感じた
- 日々高度化する社会に対して、自分の価値観が追い付いていないことを痛感しました。このまま変わらなければ、近い将来自分が淘汰される可能性があることがわかりました。ありがとうございました。
- 学校関係者でない人の意見や考え方を聞いて面白かった。
- 今回のテーマは難しい課題でしたが、取り組むことに希望が持てる、勇気付けられる内容でした。

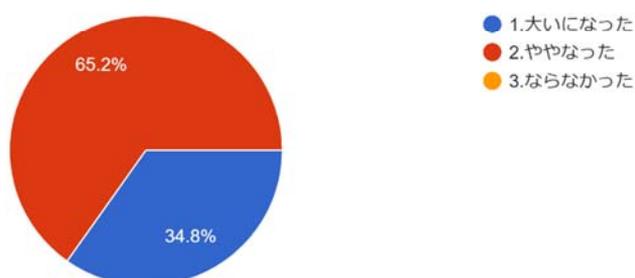
項目4：はたらく部の学校向け出張授業やイベントに興味ございますか？

23件の回答



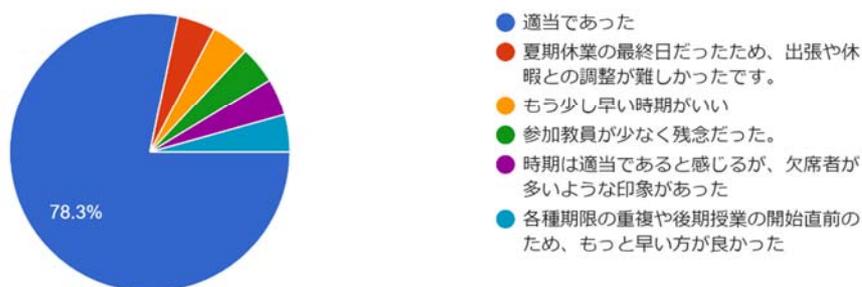
項目5：今後の教育活動の参考になりましたか？

23件の回答



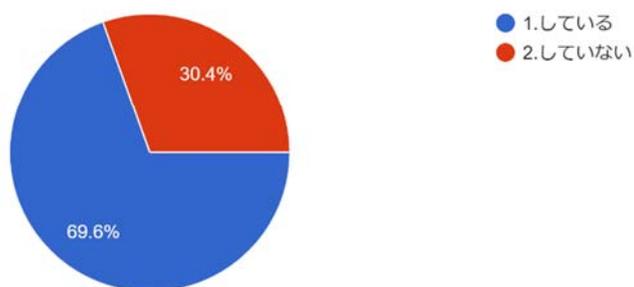
項目6：開催時期は適当でしたか？

23件の回答



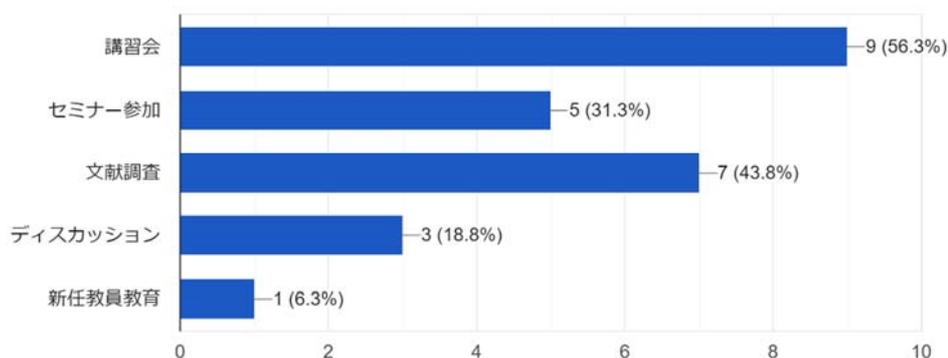
項目7：あなたは学校が用意したFD以外に教育技術向上のための活動をしていますか？

23件の回答



項目7-2：項目7で「している」場合、活動を以下から選んで下さい。

16件の回答



項目8：今後のFD研修会に取り上げてほしいテーマ、ご希望、ご意見などありましたら、ご記入ください（自由記述）

- ・特にありません。
- ・数年前のFD研修会にて、高専卒業生の追跡調査をされている先生の話聞いた。その際には「まだまだサンプル数が少なくて…」という内容であったが、改めて聞いてみたいと思っている。
- ・部活動関連の教育の意義ややり方について聴いてみたい
- ・特になし

令和5年11月9日

令和5年度 第3回FD研修会 実施報告書

1. 日程他

主 催：学校いじめ対策委員会、教育改善委員会

日 時：令和5年11月8日（水）16:15～16:35

場 所：オンライン（Teams による配信）

講 師：スクールソーシャルワーカー 青木 三枝子 氏

題 目：人間関係トレーニング「わかちあう・こたえる」

出席者：約53名（オンライン聴講者数。なお出席者に、後日この研修会の録画を視聴した者を含まない）

2. 概要

学生課学生係横山係長より講師の紹介の後、下記内容の講演があった。今後の本校での学生相談といじめ対策への理解を深める上で有用な内容であった。

1) 枠組みとは

枠組みとは、ものの考え方や感じ方のことであり、枠組みが違っているから人は成長する。一方、枠組みはミスコミュニケーションの原因であり、枠組みが違っていることを前提にコミュニケーションを考えることが大切である。

2) コミュニケーションのしくみ

コミュニケーションは伝え手と受け手がおり、それぞれが自分の枠組みを持っている。ミスコミュニケーションの原因は伝えて側と受け手側の両方に原因が存在する。日常においては、双方通行のコミュニケーションを心掛けることに留意する。例えば、伝え手は一方向になっていないか気を付け、受け手から反応が返ってこない時は確認をする。受け手は分からないことは質問する、などが大事である。

3) エクササイズ～流れ星～

各自、出された課題をもとにスケッチを行ない、ミスコミュニケーションの実例を実感した。

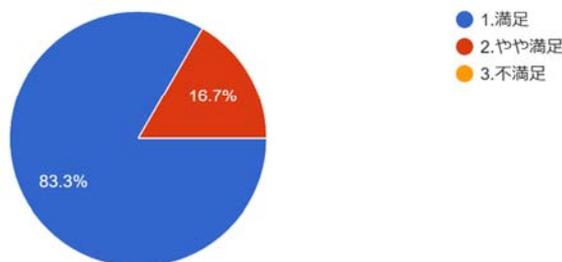
3. 質疑応答

終了時間になったため、質疑無し。

4. アンケート結果

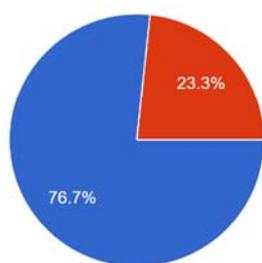
項目1：研修会はあなたの求めるテーマでしたか？

30件の回答



項目2：今回の内容に興味をもてましたか？

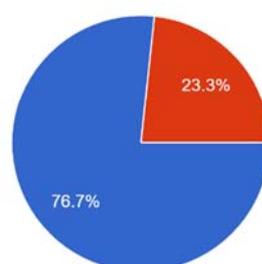
30件の回答



- 1.大いにもてた
- 2.ややもてた
- 3.もてなかった

項目3：今後の学生相談の参考になりましたか？

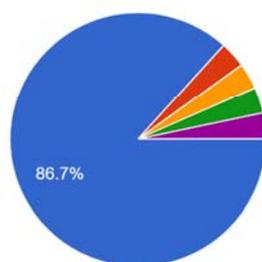
30件の回答



- 1.大いになった
- 2.ややなった
- 3.ならなかった

項目4：本テーマの開催時期として適当でしたか？

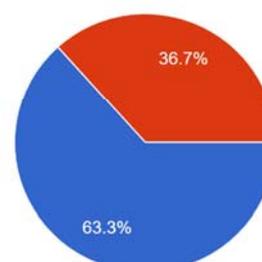
30件の回答



- 適当であった
- 企業現場見学がある日に行うことについて、やや不適切であったのではないかと思います。
- 年度の早い時期に開催すると効果的な内容と思いました。
- 引率で不在の教員も多いので、別日程が好ましいと思われれます。
- 長期休業明け直前などであれば、学生の不安の多い時期に研修会の内容を意識...

項目5：あなたは学校が用意したFD以外に教育技術向上のための活動をしていますか？

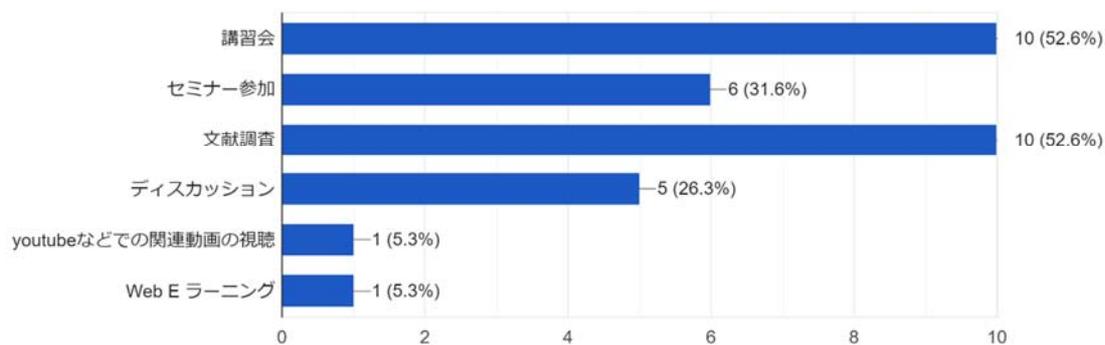
30件の回答



- 1.している
- 2.していない

項目5-2：項目1で「している」場合、活動を以下から選んで下さい。

19件の回答



項目 6：今後の FD 研修会に取り上げてほしいテーマ、ご希望、ご意見などありましたら、ご記入ください（自由記述）

- ・特にございませ
- ・職員のコミュニティづくり
- ・パーソナリティ障害
- ・本日の講習を掘り下げて、45 分以上の時間で行っていただきたいと思います。数回に分けても構いません。学生相談でのミスコミュニケーションが起こす問題点まで話題を広げて頂きたいです。
- ・今回の企画のご案内が「学生相談（いじめ対策）」を主題とされていましたが、実際の研修内容はコミュニケーションに関するテーマ「わかちあう・こたえる」でしたので、研修したコミュニケーションスキルをいじめ対策にどのように活用して欲しいのかを、主催者から補足して導いて欲しかったです。いじめ対策として、教員が学生にどのように関わるべきなのかを、もう一步踏み込んで提示していただけると有難かったです。

4-4 第4回 FD 挑戦的な高専生をどう支援するか？コンテストやイベントを含む キャリア支援・アントレ教育について」2024年3月4日

令和5年3月11日

令和5年度 第4回FD研修会 実施報告書

1. 日程他

主催：男女共同参画推進室・ソーシャルイノベーションセンター・教育改善委員会

日時：令和6年3月4日（月）13:00～14:30

場所：100番教室

講師：みらいスタジオ 兼城 駿一郎 氏

題目：「挑戦的な高専生をどう支援するか？コンテストやイベントを含むキャリア支援・アントレ教育について」

出席者：30名（会場で人数確認）

2. 概要

男女共同参画推進室酒井室長からGCONや講師の紹介ののち、下記内容の講演があった。

1) みらいスタジオ取り組

長野工業高等専門学校では、エンジニアリング入門のかかわり、学生・教員とのワークショップの実施。

長野市とも取り組みを行っている。

学生に起業している起業家の講演、神山まるごと高専などのこと。

2) 高専キーワードでの取組

技術力+起業精神（アントレプレナーシップ）

3) GCON

60周年記念で始まった。高専女子中心のチームでDSGs・長野工業高等専門学校チームの紹介「村田製作所賞」

4) なぜ高専の支援するか

高専生のイノベーター資質がある。高専と高専の先生によって前進した。→先生が熱く指導してくれた。機会は先生からいただいた。先生が面白い話をしてくれる。先生がきっかけを作ってくれる。

5) 小さな兆しを拾い上げ、応援しながら外に送り出す

学内での兆し⇒先生による支援・応援⇒学外での活躍 活躍すると学内にフィードバックし学内が活性化する。

3. 質疑応答

1 質疑： 起業での気を付けなくてはいけない

応答： チャンスを増やすこと。「よく考えて・・・」などのアドバイスは、チャンスを減らすことがある。一回やってみたら？失敗して再挑戦するほうがいい。チャレンジし続ける雰囲気づくり。

2 質疑： 起業は情報などITが多い。建設系の分野での起業ではどのようなものがありますか？

応答： 例：機械の遠隔操作、建設プラントの工事写真の効率化など、大企業のボトルネックを解決するところで起業する事例がある。

3 質問： 機会を与えて学生がなびくか？どうしているから学生が興味を持つか？

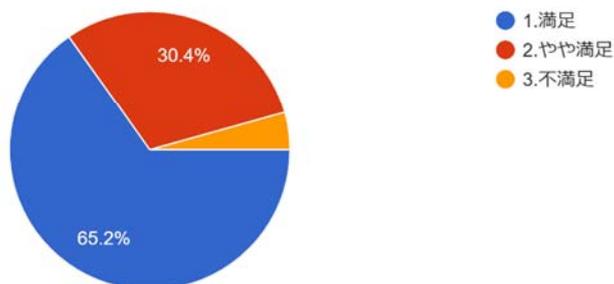
応答： レポートや課題が多いときテストなどで悩んでいるときは、取り組まない。忙しい時期を避ける。学生同士を巻き込む。チームを作れば？などもよいと思います。

GCONに参加した職員の感想「女子目線の取り組み、頑張りを見てとても感動しました。」
学外での成果を上手に学内にフィードバックすることで、学内が活性化すると思われま

4. アンケート結果

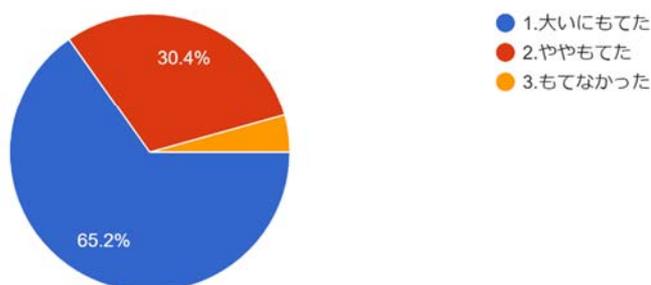
項目1：研修会はあなたの求めるテーマでしたか？

23件の回答



項目2：今回の内容に興味をもてましたか？

23件の回答

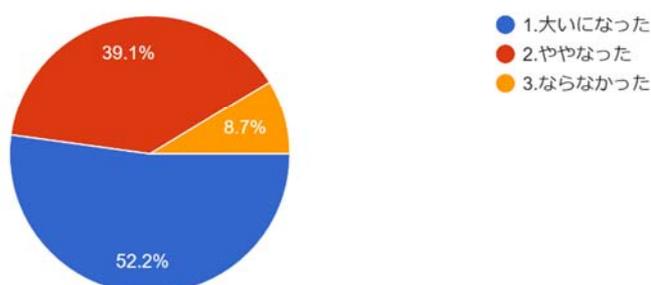


項目3：本日の外部講師授業に関してコメントあればお願いします（自由記述）

- ・ 学生たちにコンテスト等への参加するきっかけを与えることの重要性を知りました。
- ・ 学生をその気にさせる細かいノウハウなどが、教員が知りたいことだと思います。学生がチャレンジする機会を増やすというお話とても参考になりました。
- ・ 男女共同参画とアントレプレナーシップ教育の両面からお話を聞いてよかったです。起業家精神を育てるには、多様な機会を与えることが重要であることがわかりました。起業のプロセスとして、具体的な例を1つ取り上げて、どのようなプロセスで起業に至ったかなどのお話を聞けるともっとイメージがわきやすいと感じました。
- ・ 前段の情報が多く、本題に関わる内容が薄かったように思う。
- ・ 守秘などもあって難しいかもしれませんが、多くの事例、またはそれらを集計したデータを拝見できると全体の方向性や空気感を掴めそうでした。
- ・ 体験談を聞くことができ、勉強になった

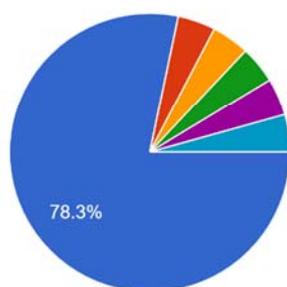
項目4：今後の教育活動の参考になりましたか？

23件の回答



項目5：本テーマの開催時期として適当でしたか？

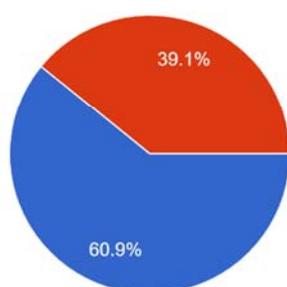
23件の回答



- 適当であった
- 再試前であり、また3月は学会が多いため、欠席する先生が多かった。
- 再試指導等と重なる時期なので、もっと後の方がいい
-
- 私の都合だが、3月ならば後半の方が良かった（学会直前のため）
- 再試験指導期間、エビデンスの締め切り日と重なったため、今後はずらしてほ...

項目6：あなたは学校が用意したFD以外に教育技術向上のための活動をしていますか？

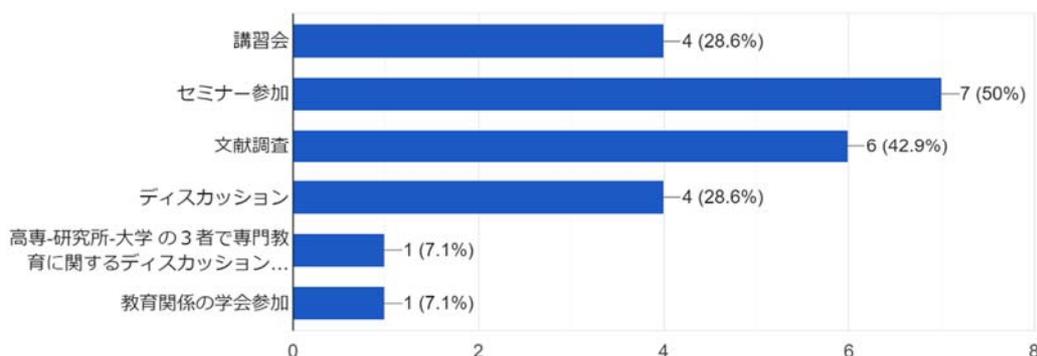
23件の回答



- 1.している
- 2.していない

項目6-2：項目7で「している」場合、活動を以下から選んで下さい。

14件の回答



項目7：今後のFD研修会に取り上げてほしいテーマ、ご希望、ご意見などありましたら、ご記入ください（自由記述）

- ・私の息子も大学院に行って、起業に興味がある事を言っていました。学生が興味を持つ情報を教員もアンテナを広げて入手しないと学生の指導ができないと感じました。
- ・引き続き、エンジニアリングデザイン関連のような学生のグループワークや様々な挑戦のサポートに関するテーマを取り上げてほしいです。

5. 令和6年度の活動に向けた各種委員会等への提言

5-1 教務委員会

- (1) 校内学習塾等を活用した学力向上への取り組みとして、多数回開催できるシステムを継続するとともに、数学以外の開講も模索してください。
- (2) 教育改善を目的とし、参観推奨授業を設定して授業公開を実施について、参観推奨授業を設定した効果について評価する方法を検討してください。
- (3) ポートフォリオ教育の推進と分野横断的能力の育成について、ポートフォリオの活用状況の継続的なチェックを実施してください。
- (4) 工学科新設科目の詳細計画と実施について、実施と問題点の抽出および改善の継続を実施してください。
- (5) 学科・科目間連携、専攻科との連携の強化として、工学科新3年生科目と数学・物理との連携会議については、会議の成果評価を実施してください。

5-2 学生支援委員会

- (1) 交通事故防止に向けた取り組み
「近隣住民から苦情が寄せられる」ことに対して、良好な関係構築を引き続き模索する事が大切と考えられる。
- (2) 寮務委員会と連携した学生対応
今年度から、課外活動を理由とする残寮が認められなくなった。令和4年度までのやり方に戻せるよう寮務委員会（寮務主事）に働きかける、もしくは別の方法により、寮生も長期休業中に課外活動ができるよう検討すべきと思われる。
- (3) ボランティア活動や構外美化活動等を通じた地域住民との信頼関係の構築
市立長野高校と連携して挨拶運動や交通安全指導が行われている。素晴らしい取り組みだと思う。活動計画に書かれている「構外美化活動」に関しても、両校で連携した実施を検討していただきたい。

5-3 寮務委員会

- (1) アフターコロナに対する対応で、寮生活のルールも大きく変わる中、指導体制や快適な寮生活に向けた各種施策を検討し、丁寧に対応されている様子が確認できた。一方、寮生活に関するアンケートにて、寮日課に対する不満度が高いことから、これらについて改善策を検討していく必要がある。
- (2) 今年度も実施していた他高専との交流を、本校の寮運営にどのように活かしていくのか。交流を通じて、具体的な成果につながることを期待したい。
- (3) 表彰システムは、寮生のモチベーション向上に寄与する良いシステムであると言えるので、広く全寮生に周知されるような方法を検討していただきたい。
- (4) システムの構築・見直しの準備にて検討されている teams の活用は、寮に関わる情報を一元的に管理でき、かつリアルタイムに必要な情報を入手できるため、非常に有効な手法であると考えられる。一方、部屋割や当番表には氏名などの個人情報もあるため、適切に管理することに留意されたい。

5-4 専攻科運営委員会

- (1) 個表の課題は大きく増えていたので、課題数のさらなる増加や一定数を維持できるよう取り組みを継続していく必要がある。
- (2) 連携教育プログラムのシステムについて、少し見直しがあったので位置づけなど検討をさらに進める。
- (3) 広報の方法で新しい試みが提言されたので、提言された試みを実施するとともに、継続的な実施や改善点の反映など、ブラッシュアップを行っていくことが重要になる。

5-5 図書館

- (1) 学生支援委員会から、長期休業中の注意事項（プリント）が配布されます。そこにはいつも、「比較的時間がある長期休業中に、読書をしましょう」と書かれています。今後、学生支援委員会や学生会との連携を検討していただきたい。
- (2) ビブリオバトルが、コロナ禍以前のように開催（再開）されることを期待します。

5-6 広報企画室

- (1) 概ね計画通りに活動が行われているため、次年度も継続的に実施していただきたい。
- (2) ホームページのリニューアルに伴って、各部署で積極的に広報活動ができる Web サイトの仕組みが整ってきている。次年度以降それを運営していく体制を整える必要がある。

5-7 技術教育センター

- (1) 実施対応日および計画通りの実施の有無など報告書には不明な点があり、活動等計画に対応した報告をお願いします。また、報告書の開示は教育改善のために必要であることから、グループウェア等への掲示等をお願いします。

5-8 情報教育センター

- (1) 情報教育センター（あるいは情報セキュリティ推進委員会）としての議事録がグループウェア上に見当たらないようなので、各種議事概要などへのアップロードにより共有することが望ましい。

5-9 国際交流センター

- (1) 留学生の安全確保の観点から、必ずチューターをつけるよう申し合わせを変更する。
- (2) English Boot Camp 開催などの国際交流イベントを、国際寮を活用して推進する。

5-10 グローバルエンジニア育成センター

- (1) 英語学習サイトおよび Podcast について、どの学生が対象なのか、どのように運営しているのか（誰が管理しているのか）、また、利用数はどれだけかなどの実態が把握できなかった。次年度は運営状況や利用状況について委員会内で整理、検討していただきたい。
- (2) 2 学年のオンライン交流会について、実施計画書もしくは実施報告書が無く、詳細を確認できなかった。次年度は実施計画書を作成し、学生の学習意欲向上となるような交流会の実施方法等について議論していただきたい。
- (3) 各計画について個々に動いている様子が見受けられる。進捗状況を定期的に報告する場を設け、会議議事録等に残していただきたい。

5-11 男女共同参画推進室

- (1) 他高専における取組に関する情報収集、研修について、第 2 ブロックの男女共同参画関連会議に室長ほか 1 名の委員と次年度室長が出席した記録がある。次年度は、得られた情報・事例などをもとに、男女共同参画推進室内で情報共有や長野高専でも取り組めるかどうかなどの検討を行っていく必要がある。
- (2) 女性教職員就業支援のためのインターンシップ事業については、今年度応募がなく実施に至らなかった。男女共同参画推進室会議議事録等に本件に関する議論の様子が見られなかったため、次年度は、周知方法の改善など議論を行って行く必要がある。

5-12 進路支援室

- (1) 3. 進路決定情報の収集および分析において、「合格実績の詳細分析」の年度内に実施できた分とできなかった分を、次年度に引き継ぐことが望ましい。

5-13 教育改善委員会

- (1) 点検の時期が遅れないようにスケジューリング管理が重要である。
- (2) 実効性のある点検のため、組織の変更や点検方法・点検時期は委員会で話し合い柔軟に対応することが大切である
- (3) FD 研修の効果の計り方を、改良しながら適切な検討を行うことが重要である。

付録

付録1 令和5年度学習・教育目標の学生の自己達成度に関する調査報告書

学習到達度自己評価の調査

本調査は、学生の皆さんが本校で学んだ上で感じた学習・教育目標の達成度を自己評価してもらい、それを今後の教育システムの改善につなげるために行うものです。1年から5年までの全学年を通して以下のA～G群の各教育目標に対する自己の学習の達成度を評価しそれぞれに「1：できない」～「4：できる」までの間で当てはまる値を1つ選択してください

d_hanaoka@nagano-nct.ac.jp [アカウントを切り替える](#)

* 必須の質問です

メール*

返信に表示するメールアドレスとして d_hanaoka@nagano-nct.ac.jp を記録する

所属学科*

機械工学科
 電気電子工学科
 電子制御工学科
 電子情報工学科
 環境都市工学科

学籍番号を入力してください。(半角数字5桁)*

回答を入力

(A)世界の政治、経済、産業や文化を理解し、その中で自分自身が社会に貢献できる役割が何かを討論し、多面的に物事を考え、行動できる素養を持つ。*

1 2 3 4
できない ○ ○ ○ ○ できる

(B)自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について考えを述べる素養を持つ。(技術者倫理)*

1 2 3 4
できない ○ ○ ○ ○ できる

(C)機械、電気電子、情報または土木の工学分野(以下「基盤となる工学分野」という。)に必要な数学、自然科学の知識を有し、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる。*

1 2 3 4
できない ○ ○ ○ ○ できる

(D)基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得し必要とされる技術上の問題に活用できる。*

1 2 3 4
できない ○ ○ ○ ○ できる

(E)科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決する能力を養う。*

1 2 3 4
できない ○ ○ ○ ○ できる

(F)具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討論できる能力を身につける。*

1 2 3 4
できない ○ ○ ○ ○ できる

(G)習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行する能力を身につける。*

1 2 3 4
できない ○ ○ ○ ○ できる

本校では、教育理念、教育・運営方針等に沿って、下記の身につける学力・資質・能力(学習・教育目標)を定めています。
身につける学力・資質・能力(学習・教育目標)は、本科卒業時の目標とすべき人材像に照らして設定したものです。

● 身につける学力・資質・能力

● 専攻科の学習・教育目標

● 身につける学力・資質・能力 (学習・教育目標)

(A) 世界の政治、経済、産業や文化を理解し、その中で自分自身が社会に貢献できる役割が何かを討論し、多面的に物事を考え、行動できる素養を持つ。

(A-1) 社会科学および人文科学に興味を持ち、関連知識を理解し身につけられる。また、自分自身と他人との関わりや価値観の相違について、理解できる。

(A-2) 健全な心身の発達について理解して行動でき、考えを述べることができる。

(B) 自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について考えを述べる素養を持つ。
(技術者倫理)

(B-1) 自然や社会の問題に関心を持ち、技術が果たしてきた役割を理解し論述できる。

(B-2) 環境や社会における課題を理解し論述できる。

(C) 機械、電気電子、情報または土木の工学分野(以下「基盤となる工学分野」という。)に必要な数学、自然科学の知識を有し、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる。

(C-1) 数学、自然科学において、事象を理解するとともに、技術士第一次試験相当の学力を身につける。

(C-2) 工学に必要な情報技術に関するリテラシーを身につけ、利用できる。

(D) 基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できる。

(D-1) 基盤となる工学分野において、事象を理解するとともに、技術士第一次試験相当の学力を身につける。

(D-2) 基盤となる工学分野において、論理展開に必要な基礎問題を解くことができる。

(D-3) 基盤となる工学分野以外の工学分野の基礎的な知識を身につける。

(E) 科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決する能力を養う。

(E-1) 科学、技術、工学に関する情報を収集し、その適否を判断してまとめることができる。

(E-2) 習得した知識や技能を課題に対して利用できる。

(F) 具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討論できる能力を身につける。

(F-1) 学習成果を文章、図等により表現できる。

(F-2) 基盤となる工学分野において、必要な英語の基礎力を身につける。

(G) 習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行する能力を身につける。

(G-1) 自己の能力を把握し、その向上のために自主的に学習を遂行できる。

(G-2) 実務訓練等を通じて基盤となる工学分野に関連した業務の概要を理解できる。

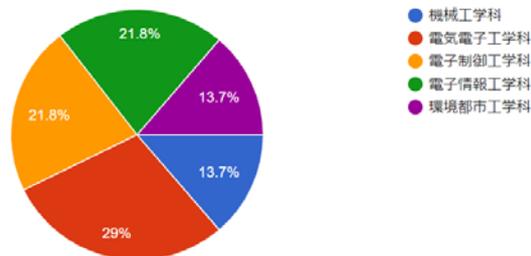
令和5年度 学習到達度自己評価の調査結果

本調査は、学生の皆さんが本校で学んだ上で感じた学習・教育目標の達成度を自己評価してもらい、それを今後の教育システムの改善につなげるために行うものです。1年から5年までの全学年を通して以下のA～G群の各教育目標に対する自己の学習の達成度を評価しそれぞれに「1：できない」～「4：できる」までの間で当てはまる値を1つ選択してください

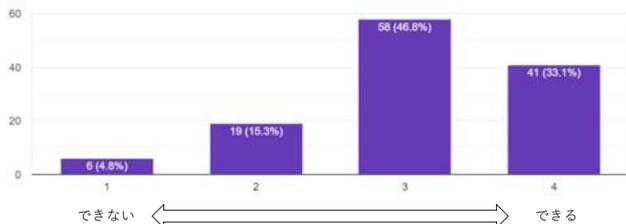
令和6年2月22日実施
対象学年：5学年

所属学科

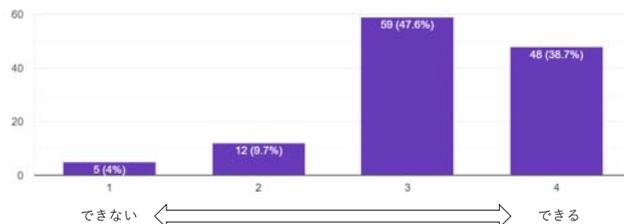
124 件の回答



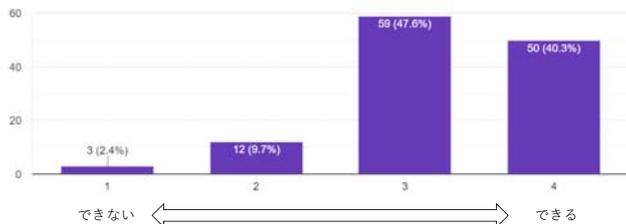
(A)世界の政治、経済、産業や文化を理解し、その中で自分自身が社会に貢献できる役割が何かを討論し、多面的に物事を考え、行動できる素養を持つ。



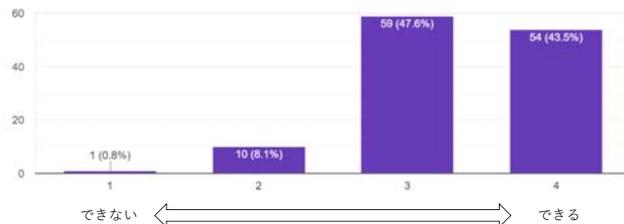
(B)自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について考えを述べる素養を持つ。(技術者倫理)



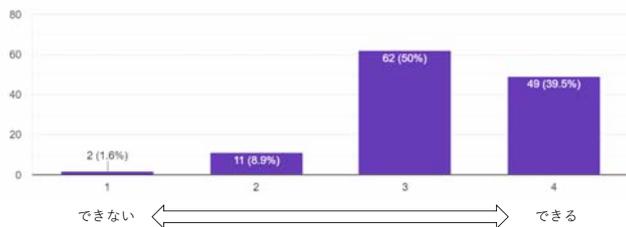
(C)機械、電気電子、情報または土木の工学分野（以下「基盤となる工学分野」という。）に必要な数学、自然科学の知識を有し、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる。



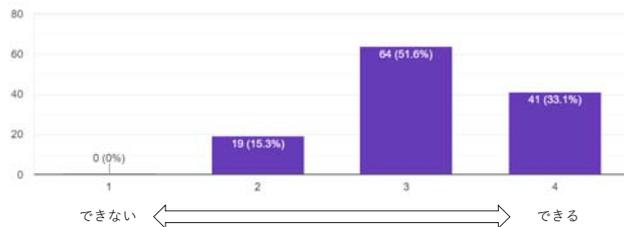
(D)基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できる。



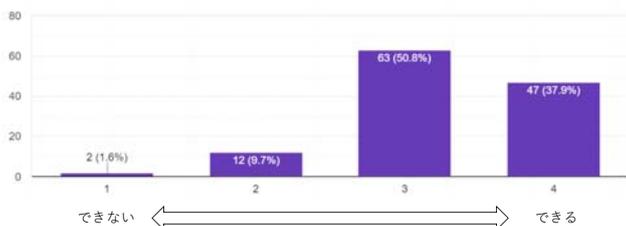
(E)科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決する能力を養う。



(F)具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討論できる能力を身につける。



(G)習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行する能力を身につける。



付録2 令和5年度専攻科学習・教育目標の達成度評価の確認報告

専攻科運営委員会

令和5年度に修了予定の専攻科2年生を対象に、ルーブリック形式による学習・教育目標の達成度評価を実施した。その結果について報告する。

1. 実施期間および対象

実施日時：令和6年2月26日（月）～3月5日（火）

対象者：生産環境システム専攻14名、電気情報システム専攻8名 計22名（先端融合テクノロジー連携教育プログラム対象学生は除く）

調査方法：表1「ルーブリック形式による学習・教育目標の達成度評価確認表」を用い、調査を行った。

回答者数：22名（回答率100%）

表1 ルーブリック形式による学習・教育目標の達成度評価確認表

ルーブリック形式による学習・教育目標の達成度評価確認表 学生個人用

生産環境システム・電気情報システム 専攻 学籍番号 氏名

学習・教育目標	合格			不合格
	優秀（すばらしい）	良（よい）	可（さらに努力を要する）	不可（不十分）
	基本的に期待されるレベルを超えている	ここまで到達することが望まれるレベル	期待した基礎レベルに達している	期待した基礎レベルに達しておらず不合格
A	世界の政治、経済、産業や文化を理解し、その中で自分自身が社会に貢献できる役割が何かを討議し、多面的に物事を考え、行動できる素養を持つ。	世界の政治、経済、産業や文化を十分に理解しており、自分の考えを述べることができ、多面的に物事を考え行動できる	世界の政治、経済、産業や文化を十分に理解しており、多面的に物事を考え行動できる	世界の政治、経済、産業や文化を理解しておらず、多面的に物事を考え行動できない
B	自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について考えを述べる素養を持つ。（技術者倫理）	自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について自らの考えを十分に述べるることができる	自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について考えを述べる素養がある	自然環境や社会の問題に関心がなく、技術者としての役割と責任について考えを述べることができない
C	機械、電気電子、情報または土木の工学分野（「基盤となる工学分野」）に必要な数学、自然科学の知識を有し、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる。	基盤となる工学分野に必要な数学、自然科学の知識を十分に有し、応用力もあり、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる	基盤となる工学分野に必要な数学、自然科学の知識を有し、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる	基盤となる工学分野に必要な数学、自然科学の知識が不十分で、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できない
D	基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できる。	基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を十分に習得しており、必要とされる技術上の問題に活用/応用ができる	基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できる	基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得しておらず、必要とされる技術上の問題に活用できない
E	科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決する能力を養う。	科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し、主体的に解決することができる	科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決する過程を知っている	科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決する能力がない
F	具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討議できる能力を身につける。	具体的なテーマについて、複数の視点から論理的な記述と説明および討議ができる	具体的なテーマについて、ある視点を基に論理的な記述と説明および討議ができる	具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討議ができない
G	習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行する能力を身につける。	習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に自ら積極的に、計画的に遂行できる	習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行できる	習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行することができない。

2. 集計結果

図1に調査の集計結果を示す。調査数が少ないことから、専攻ごとには分けずに集計した。優秀（すばらしい）を4、良（よい）を3、可（さらに努力を要する）を2、不可（不十分）を1として集計した。参考として、図2に前年度（令和4年度）の集計結果を示す。

学習・教育目標の全ての項目において、3（良・よい）以上の達成度と回答した学生が全体の約9割であった。一方で、学習・教育目標AならびにEについては4（優秀・すばらしい）と回答した学生が非常に少なかった。昨年度の集計結果と比較すると、全体的に低い評価へ傾いた傾向が見受け

られる。特に学習・教育目標Eについて、昨年度4（優秀・素晴らしい）と回答した学生の割合は他の項目と大差はなかったのに対して、本年度は著しく下がっている。該当する科目は機能デザインのためのため、この科目の学習について、十分に達成できたと感じた学生が減少したと考えられる。また学習・教育目標Aについては依然として4（優秀・素晴らしい）と回答した学生が少ない状況が続いている。内容の精査あるいは教育方法の検討が必要と思われる。

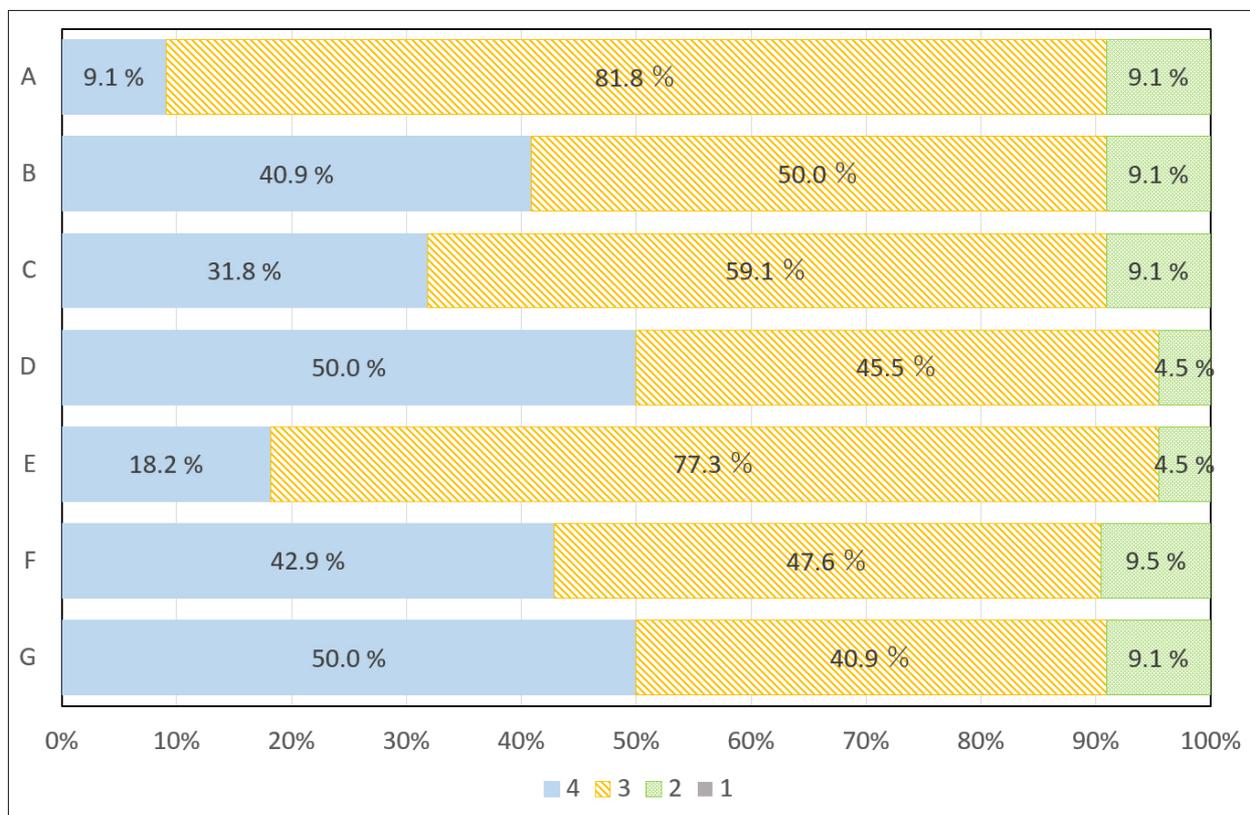


図1 令和5年度学習・教育目標の達成度評価確認の集計結果（回答数：22名）

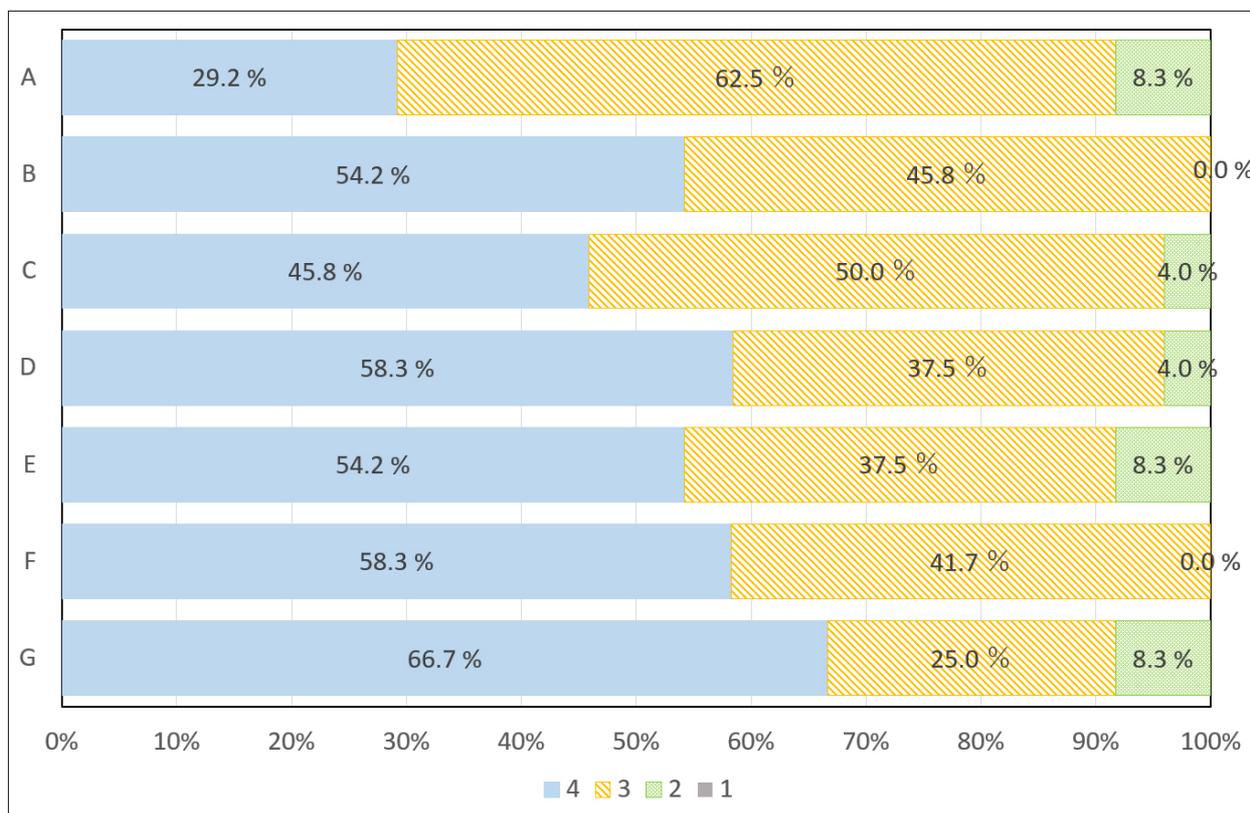


図2 令和4年度学習・教育目標の達成度評価確認の集計結果（回答数：25名）

令和5年度本科との意見交換会 実施報告

学生支援委員会

1. 開催日時および会場

開催日時：令和6年2月20日（火）16:00～16:45

会場：一般校舎2階 第2応接室

参加者：渡辺 誠一 学生主事、西信 洋和 学生主事補、横山 秀史 学生係長、
学生会役員3名 計6名

2. 意見交換の概要

学生会で事前に全学生を対象に実施したアンケートにおいて、3件意見があった。

①図書館の貸し出し冊数

意見：現在は1年～4年生が5冊以内、14日以内だが、貸し出し冊数が増えないか。

回答：特定の人が大量に借りると支障が出るので5冊としている。

②グラウンドの夜間照明

意見：サッカーグラウンドが暗いので何とかならないか。

回答：グラウンド全面を明るくするためには中心部に新たな設備の設置が必要になるため困難。
早めに練習を開始する、照明に近いところで練習するなど工夫してほしい。

③部活動時間の延長

意見：活動時間を昔のように延長してほしい。

回答：高専機構本部からの指導もあり、令和2年4月から平日は2時間（16:30～18:30）、休日
は3時間（9:00～12:00）の活動に変更した。しなの鉄道の時刻表（18時台、19時台）か
ら考えて適正であると考えている。準備時間を工夫するなどしてほしい。

（三才駅：長野方面 18:59 発、妙高高原方面 18:57 発、戸狩野沢温泉方面 19:14 発）

その他、以下の事項について意見交換を行った。

④文化祭の学校側の反省

意見：学校で出た反省事項や意見はあるか。

回答：学生支援委員会でまとめている。奥山学生主事補と相談してほしい。

⑤軽音楽部の活動場所

意見：活動場所として適切でない。何とかならないか。

回答：新規にプレハブを構築する、空調を設置することは困難。また、校舎内で活動すること
は音や振動が発生するため困難。要望はキャンパスマネジメント委員会に伝えるが、
何とか現在のところをうまく使ってほしい。

⑥その他

学生会費の不足に対する意見交換を行った。

以上

（文責 渡辺誠一）

令和5年度専攻科生との意見交換会実施報告

専攻科運営委員会

令和5年度専攻科生との意見交換会を下記の通り実施した。

日時：令和6年2月22日（木） 10:00～11:30（8:50～9:30 終業式参加）

場所：図書館2階 視聴覚室

次第

司会進行：網谷 健児 専攻科運営委員

（1）開会挨拶 藤澤 義範 専攻科長

（2）アンケート結果報告

（3）意見交換

・特別研究の環境等について

・講義について

・学外実習について

・進路について

・その他

（4）閉会挨拶 藤澤 義範 専攻科長

アンケート結果は別紙の通り。以下、意見交換での質疑について示す。

5-① 研究について

・提出物の提出方法などの周知が遅い、連絡手段もメールやTeamsなど混在している。

運営委員からの返答

今年度からの新しい運営委員も多く、種々改善をしながら運営を行なっているために、周知が遅くなって申し訳ない。

連絡手段は、コロナ禍から多くの連絡手段ができて混乱している状況であり、先生方も連絡ツールの好き嫌いもある。

本校では、Teamsを中心に使うような流れになってきているが、問題点も多く、先が見通せない状況が続いている。

・専攻科1年は授業やインターンのために研究に充てられる時間が少ない。

運営委員からの回答

本校の長期インターンは全国的にも珍しく目玉でもあった。学士申請のスケジュールも変わったこともあり、必須である長期インターンを選択にしても良いという意見も出ているが、代替えとなる講義や実習等の単位をあてがう必要があり、簡単には変更できないが将来的に改善していきたい。

・卒業論文等の提出期限が早い。休み明けの期限は問題がある。

運営委員からの返答

学位記を卒業式に間に合わせるためには、卒業論文等の締切はほぼ決まっている。

来年は発表会を本科も合わせて1/23に実施することが決まっており、逆算すると要旨の締切が休み明けとなる。

締切ギリギリに出す必要がなく、休み前に出しても構わない。

学位授与機構に提出する書類類に関しては、学生から提出された書類はそのまま機構に提出できるような状態でないので、チェックや修正が必ず必要になっている。そのため、学生の締切が早まっている。

・特別研究I・IIの成績評価を2名以上にしたい。

運営委員からの返答

個票を持っていて特別研究を指導する教員は研究が個々に研究が特化しており、大学と違い講座制ではない。そのため、同様な研究をしている教員が少なく研究内容を2名以上で評価するのが難しい。

5-② 施設・設備について

- ・研究室の暖房が切れる時間を最低でも 18:00 まで伸ばしてほしい。

運営委員からの返答

指導教員から研究室単位で事務に暖房の延長を願い出る手続きを行なうことで、暖房が切れる時間を延長できる。これからも寒い日があると思うので、学生から指導教員に暖房の延長の手続きをしてもらうようお願いしてほしい。

施設の利用は 19 時までであることには変わりがないので注意が必要。

- ・教室やロッカーがない

運営委員からの返答

ホームルームもないので本科とは違って来る。大学でもロッカーがないのが普通であり、各自の研究室を利用してほしい。

- ・VPN や学内 LAN の問題

運営委員からの返答

専攻科棟での LAN が繋がりにくい問題について、改善は申し入れてはいるが、改善が進んでいない。

VPN 等の外部からの接続の問題は、セキュリティの観点で難しい問題ではあるが、完全に禁止されているわけではない。研究上必要性が高いのであれば、その必要性等をまとめて要望を出してほしい。

5-③講義について

- ・輪講について：レポートに何をどのようにまとめればよいのか不透明で、プレゼン発表の際もどのように質疑応答に臨めばよいのかわからなかった。

運営委員からの返答

輪講の開始時点での、輪講のスケジュールやレポート提出の期限等を連絡するが遅くなっていたことは申し訳なく思う。来年度は、上記の連絡を早めに連絡するとともに、指導教員に輪講の方法を学生に指導して頂くように依頼しておく。

やり方が分からない部分は聞いて欲しい。

- ・機能デザインの授業について（課題の軽重、グループ内の負荷の違い、小グループ化など）

運営委員からの返答

3人の教員で課題のウェイトコントロールをしていきたい。

実際の仕事を意識した講義であるので、リーダーに負荷がかかるのは実社会同様ではあるが、リーダーに過度な負荷がかからないように教員間で意識していきたい。

グループを小さくするのは教員3名では難しく、これ以上教員を配置するのは時間割編成で簡単ではない。

- ・1年前期の物性物理の授業の仕方に問題がある。

運営委員からの返答

授業アンケートに記載してほしい。

本科の物理の授業が遅れていて量子力学をやっていない状態で講義を行なっているので講義に無理が出ている可能性がある。

- ・本科5年生のうちに専攻科の授業が取れるようにならないか？

運営委員からの返答→難しいが、授業公開日などを利用して、本科の学生も専攻科の授業を見学できるようにしたい。

5-④進路について

- ・成績証明書のオンライン提出について

運営委員からの返答

事務の担当者が変わると対応が変わってしまうので、電子媒体による証明書の提出について事務フローを作るように教務係にプッシュする。

以上

令和5年度

学生の満足度に関する
アンケート調査実施結果

令和5年2月実施

教育改善委員会

本科アンケート

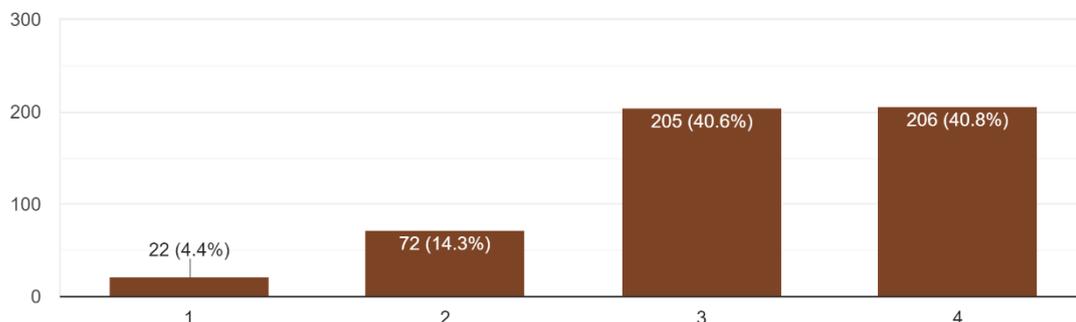
長野高専の満足度調査(2022年度)のまとめ

* 全学生（本科及計 1,009 名）に対する回答数 505 件（R6.2.9（金）～2.21（水）実施）

1. 学習について

本年度、学習を十分に行えましたか？

505 件の回答



※左から「行えなかった～行えた」の度数 1～4

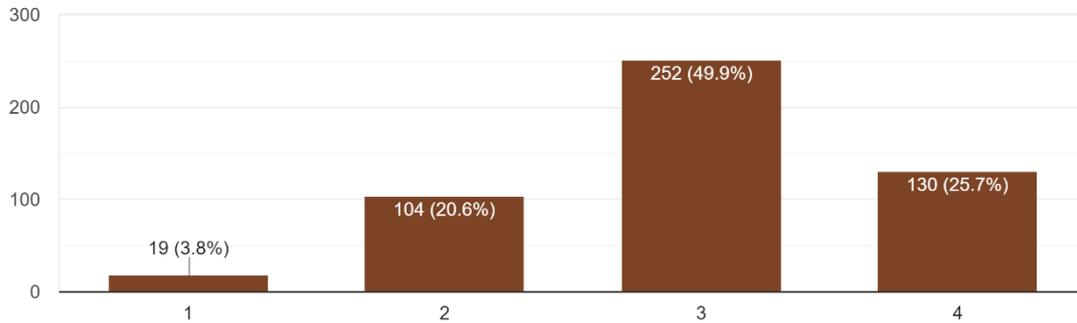
上記質問への主な回答記述

- ・課題多すぎ&毎日四コマでテストやる暇無い。
- ・一人でもっと勉強しなければいけなかった
- ・己への甘やかしにより自主学習が疎かになった
- ・中学までチャレンジに頼りっきりで高専に入ってはじめて自分で計画を立てて勉強をした。前期のテストは残念なものになり、後期はクラスの人に勉強方法を聞いて行動できたため後半は十分に勉強できたと思う
- ・テストギリギリに勉強をすることが多かった
- ・テスト結果で前期期末、学年末は総合成績しか出ないので個々の成績を出してほしい。その方がテストの成績の変化がわかりやすい。
- ・進路にかかっているとということで、すごく頑張ったはずだが、それよりも上がってすごいうて毎回思う
- ・去年よりは計画的に勉強できたがもっとできたと思う
- ・スマホをいじりがちになってしまうことがあった。数学 B が特に難しく、授業を聞いただけでは理解できないことがそれなりにあった。そこは友達に聞いたり、自分で調べるなどしてなんとかできた。
- ・前期一夜漬けで乗り越えたのがいけなかった。日頃から勉強すればよかった。
- ・レポート・課外活動に掛けた時間がかなり多く、TOEIC や就職に向けた勉強などについての勉強時間を取らなかった。
- ・ぎりぎりになるまで手がつかず、余裕を持って学習を行うことができなかった。

2. ICT 環境について

本校のICT環境について満足していますか？

505 件の回答



※左から「不満足～満足」の度数 1～4

上記質問への主な回答記述

- ・図書館棟や制御科棟など、敷地の端にある建物では学内 LAN が繋がりにくい。
- ・推奨要件の割にあまり ICT 教育が行われていないし、購入が一年早いような気がする
- ・クラスによって wifi の強さが違うのを改善してほしいです。私のクラスは授業でパソコンを開く時、まともに繋がらないことが多々あってとても面倒です。

- ・学内 LAN が繋がりにくいところがある
- ・情報教育センターの利用時間を延ばしてほしい。

また、図書館にも印刷機を置いてもらえたらありがたい。

- ・エレクトロニクス工房のパソコンの動作が遅すぎる
- ・申請を出せば 2 台以上 PC を学内 LAN に繋がられるようになると便利です
- ・Wi-Fi が弱すぎる。昼時は携帯の電波すら弱い。
- ・WiFi が使えるデバイスが 1 台しか無いのが不満です。2 台持ちの人もいるので、複数台を認めてほしいです。

・PC を二台までできるとありがたかったです。特に一部の授業では WSL などの仮想環境が役に立たず、2 台併用でどうにかしたのもあったのでこの辺りを改善してほしいです。

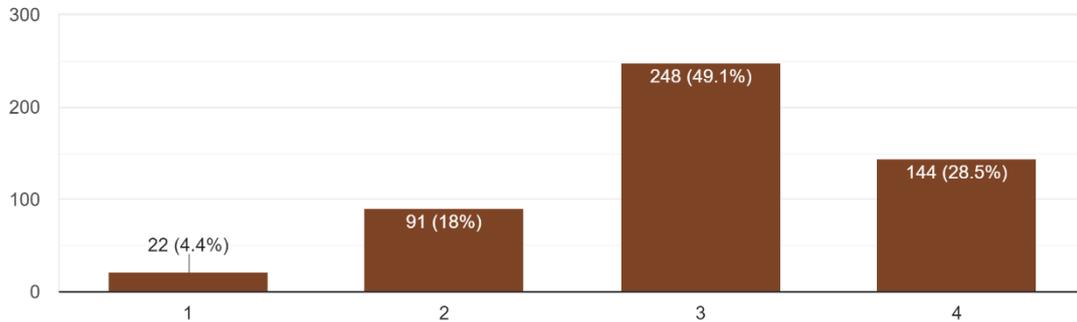
・全員にパソコンを買わせて teams を入れさせた割に、紙媒体で提出する必要があるものが多すぎると思う。その辺の考え方を教員同士でもっと話し合っしてほしいと感じる。

紙媒体手渡しにこだわる教員と、オンラインを推す教員がいて困惑する。

3. 自主的学習の支援について

自主的学習を支援する体制について満足していますか？

505 件の回答



※左から「不満足～満足」の度数 1～4

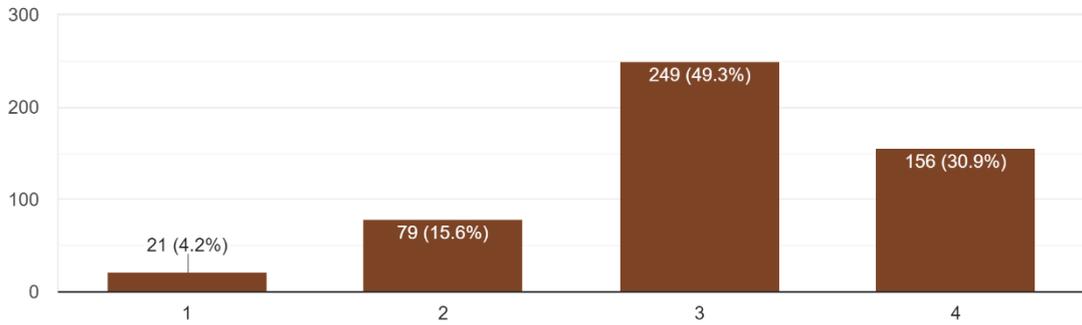
上記質問への主な回答記述

- ・質問を受け付けてくださる先生方とそうでない方がいる。
- ・この質問をされるまで、自主的学習を支援する体制があると思っていなかった。
- ・図書館の自習スペースの存在はすごくありがたい。先生も話をしに行けば答えてくれる。やりたい人がやれる環境というのはすごく良いと思う。
- ・冬場、教室で残って勉強などする時 5 時以降にエアコンがつかなく寒いので使えるようにしてほしいです
- ・リフレッシュルームを気軽に使えるというのがいい。
- ・図書館などの勉強できる環境が整っていていいと思った。
- ・自主的学習を支援する体制とは校内学習塾や図書館の自習スペースのことでしょうか。校内学習塾は学びなおしにもなり、進学準備にも役立っているのです、双方にメリットがあってよい体制だと思う。
- ・図書館だけではなくもっと長い時間まで勉強できる場所をテスト期間だけでも確保すべきだと思う
- ・レポートが多いです。レポートに掛ける時間を勉強に充てられれば、かなり違います。特に環境都市工学科では特に、手書きレポートで概要を書く欄がある。頭をほとんど使わず、ただ書写する時間は時間がかなり無駄と感じる。内容理解は本文を読むことが大切で、実際やってみないことには理解度が低いです。実験の事前レポートには、実験手順や注意事項の要点を問う問題を課すと良いと思います。
- ・図書館のコンセントを増やしてくれると嬉しい

4. 生活や経済面に係わる指導について

生活や経済面に係わる指導に満足していますか？

505 件の回答



※左から「不満足～満足」の度数1～4

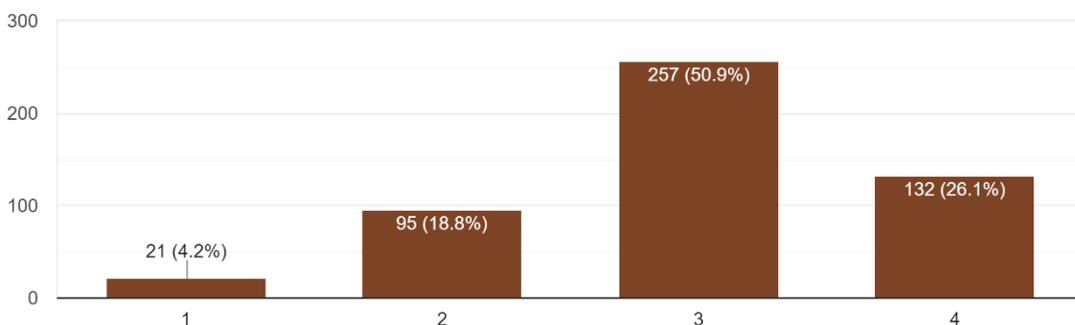
上記質問への主な回答記述

- ・テスト日程や時間割の公開が遅い
- ・学生会へのメールに人間性を疑うような返信があったり常識が欠けていたりといった呼びかけをして欲しい
- ・保険, 年金などについても教えてくれるといいが学生のうちは関係ないと思って聞いていない人が大数なんだろうと思います
- ・生活や経済面についての指導というのが具体的にどんなものを指すのかは分かりませんが、お金の使い方などの経済面の指導や生活に関わる料理などの指導は一切受けていません。
- ・遠距離通学なので、家を早く出なくてはならないので、持ち物やその日の連絡を当日にするのはやめてほしい。連絡されたときにはすでに家を出ているので。
- ・遠距離通生なので、朝が早いので、持ち物やその日の連絡は、前日までにしてほしい。当日言われても対応できない。
- ・パチンコにハマる人が多いので、依存の危険性についての指導が必要であると感じた
- ・奨学金についてもっと告知を増やして欲しい

5. キャリア教育の体制について

キャリア教育の体制について満足していますか？

505 件の回答



※左から「不満足～満足」の度数1～4

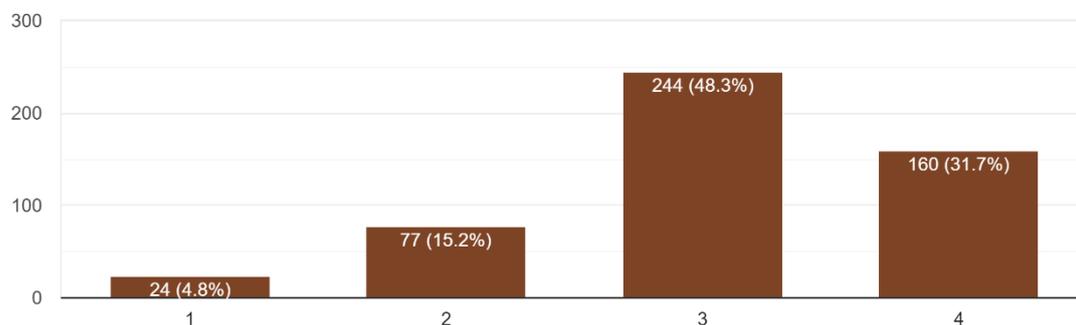
上記質問への主な回答記述

- ・編入情報、就活情報を早い学年のうちから教えて欲しい。
- ・先生が沢山親身になって話してくれるので文句ないです。
- ・キャリアコーディネーターの方や学科長(系長)の手厚い指導ありがたい
- ・5年生の研究室を決める材料となる卒研発表会に参加出来なかった。なんの調整もなく平日に行われたため、授業を欠席するわけにもいかず、参加を見送るしかなかった。他学科では、卒研発表会のために4年生の日程を調整しているところもあったため、そこで不公平感を大きく感じた。
- ・工業系が苦手と分かったが、高専からどこに進めば良いかわからなくて悩み中です
- ・先生が親身になって話して下さるのでありがたいです。キャリアサポートシステムも使いやすいです。
- ・進路の話はたくさん聞きますが、進学のために何をやればいいのか具体的に知りたいです。
- ・今まで学んだこととは別の道に行くのであまり将来の参考にはならなかった。別の道に行った人の体験談などがもっと増えてもいいと感じた。

6. 不安に対する相談や助言などを行う体制について

さまざまな不安に対する相談や助言などを行う体制について満足していますか？

505件の回答



※左から「不満足～満足」の度数1～4

上記質問への主な回答記述

- ・学生相談室という場所がとても悩みの解決に役立ちました。
- ・キャリアコーディネーターが専任でいることがありがたい。
- ・先生に毎週相談できるフォームが送られているので満足はしているが、設置されてるだけだと書きにくいし高専ではだと学生相談室くらいで行きにくいかなと思ったため。
- ・いろんな先生が優しく聞いてくれるのでありがたいです。
- ・相談室にはとてもお世話になりました。ありがとうございました。
- ・どうしても、対面だと相談しづらいことがある。メールでも相談出来れば、、、

7. その他（自由記述）

- ・重要な連絡事項の通達が遅すぎる。対応も適当
 - ・google カレンダー等で各教科で連携を取ってレポートやテストの日程が重ならないようにして欲しい
 - ・一部の教員だが出張で、授業交換や授業そのものが無くなるのが頻繁にあるのは、いかなものかと思う
 - ・部活によっては、個人を時間の面に関して縛ろうとするところがある。
 - ・図書館棟 2 階のスペースが冬場寒いです。
 - ・中間試験のテストが返されず、点数が分からないまま期末受けるのは流石にしんどいです。
 - ・授業中に雑談をする教師がいるが、30 分も雑談をする場合もあり、なんのために学校に来ているのか分からなくなる時がある。
 - ・1 年、2 年に限るが、男子体育の時間を 2.3 をコマに入れるのをやめて欲しい。中途半端なコマに入れられると、女子は暇。逆に、女子体育は 4 コマ等に入れられていて、男子だけ早く帰れるシステムなのはずるい。
 - ・自由な校風なのは良いことだが、やるべきことはやらないといけない。期限を過ぎたら事前連絡がない場合レポートの点数は 50 点以下とする、といったシステムにして良いと思う。どの学年にも、自由について回る責任を意識しない人が多いと感じる。
 - ・完全下校が早いと思います。
- 卒研がある 5 年生だけでも、もう少し長く居られると良いなと思います。
- ・休講、補講などの連絡は Gmail を送ってほしい。
 - ・エスカを綺麗にして欲しい。
- チャイムの暗い音を普通の音程にして欲しい。
- ・卒業単位として認められる単位認定できる資格を増やしてほしい
- 学科に関係なく単位認定をしてほしい
- ・図書館をいつでも開放してほしい
 - ・同じ教科でも、カンマやピリオドを全角と半角のどちらにするかや、図の大きさなどのレポートの採点基準が採点者によって大きく異なることがあるため、採点者側で基準を統一するなどしてほしい。
 - ・何があるのか全部把握できてないので、各質問項目に関連する体制の名称など具体的なことを書いておいてほしい。
 - ・特になし。
 - ・パソコン借りれたことがとてもありがたいです
 - ・プリンターを各教室に設置してください
 - ・勉強をしない、きちんと授業を受けない学生に単位を与えたり、救済措置を取らないでほしい。正しく評価されている人に失礼だと思う。
 - ・購買の文房具も PayPay で買えるようにしてほしい。あと教室寒いし息苦しい
 - ・講演会のためだけに学校に行くのではなく、オンラインなどでも対応してほしい

以上

専攻科アンケート

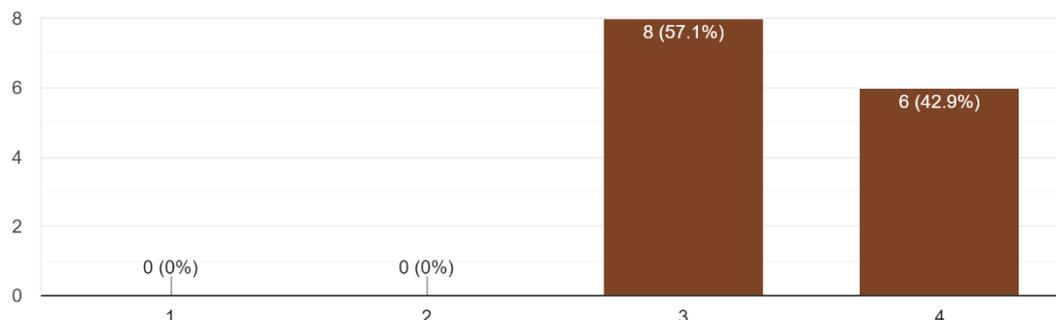
長野高専の満足度調査(2023年度)のまとめ

*全学生（専攻科計47名）に対する回答数14件（R6.2.9（金）～2.16（金）実施）

1. 学習について

本年度、学習を十分に行えましたか？

14件の回答



※左から「行えなかった～行えた」の度数1～4

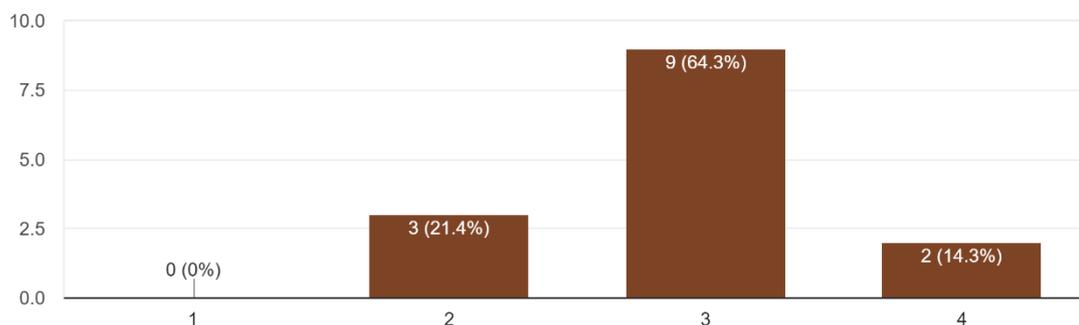
上記質問への主な回答記述

- ・東工大の受験勉強に割く時間を多く取れました
- ・専門科目や、文系選択科目などで本科時代よりもより詳細な内容を学習/検討できたと感じています。

2. ICT環境について

本校のICT環境について満足していますか？

14件の回答



※左から「不満足～満足」の度数1～4

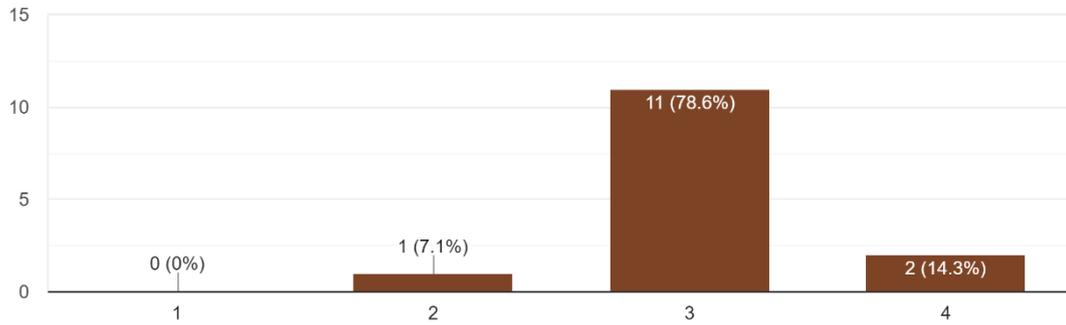
上記質問への主な回答記述

- ・学内無線LANが場所によって安定せず、接続できてもインターネットに繋がらないことが多々あった。連絡手段が統一されておらず、メールやTeams等様々な経路で重要な連絡が届くため、情報の管理が煩雑だった。
- ・特に使用したものがない

3. 自主的学習の支援について

自主的学習を支援する体制について満足していますか？

14件の回答



※左から「不満足～満足」の度数1～4

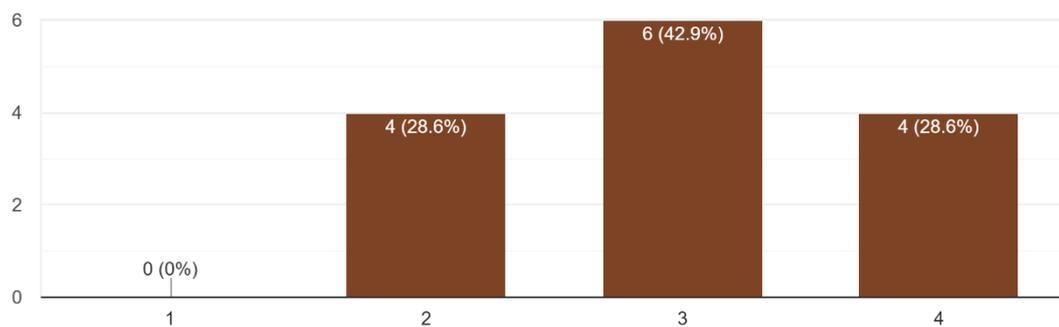
上記質問への主な回答記述

・ソーシャルイノベーションサポートラボの創設など、動いているプロジェクトがあると存じますが、そのような世代間を超えた学習体制がより形態化されてくると面白いのかなと思います。

4. 生活や経済面に係わる指導について

生活や経済面に係わる指導に満足していますか？

14件の回答



※左から「不満足～満足」の度数1～4

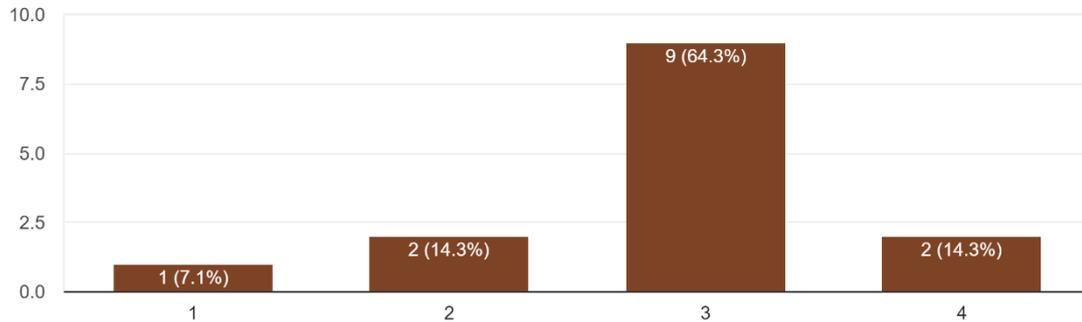
上記質問への主な回答記述

なし

5. キャリア教育の体制について

キャリア教育の体制について満足していますか？

14件の回答



※左から「不満足～満足」の度数1～4

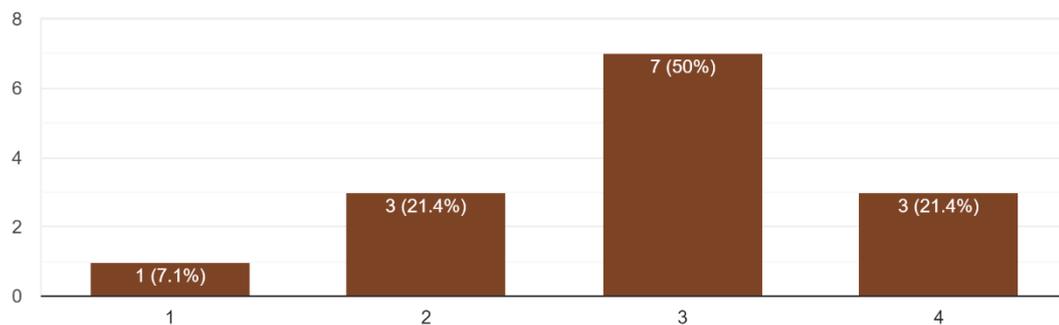
上記質問への主な回答記述

・キャリア面に関しては、学生各自が自主的に調べる必要がある分野であると理解しているのですが、「何を調べたらよいのか」が掴めなかった印象です。その辺りのサポートをもらえると大変助かるかと思えます。

6. 不安に対する相談や助言などを行う体制について

さまざまな不安に対する相談や助言などを行う体制について満足していますか？

14件の回答



※左から「不満足～満足」の度数1～4

上記質問への主な回答記述

・研究室の相談に対して、専攻科長は親身になってくれませんでした。担任の先生や相談室の先生はよく話を聞いてくださりとても助かりました。

・本校には学生相談室がありますが、何となく利用しづらいイメージがあります。(相談したら大事になっちゃうかな？という感覚) 比較的ライトな相談をする環境があれば、ストレスを抱えづらくなるのかなと思います。

7. その他（自由記述）

- ・専攻科生の研究室の利用時間を見直してほしい. 具体的に本科生の帰宅時間より長めに設定してほしい.

以上

付録5 第20回長野工業高等専門学校参与会概要

第20回長野工業高等専門学校参与会

日時 令和6年1月23日(火) 10:00～12:00

場所 長野工業高等専門学校 第一会議室

出席者

参与：天野良彦参与(会長)、丸山陽一参与、倉島浩参与、池田明参与、渡辺雅義参与、平林靖久参与、萱津理佳参与、白井幸一参与

本校：江崎尚和(校長)、濱口直樹(副校長(教務主事))、渡辺誠一(副校長(学生主事))、松下英次(副校長(寮務主事))、藤澤義範(副校長(専攻科長))、楡井雅巳(副校長(総務主事))/第三者評価対応委員会委員長/広報企画室長)、小野伸幸(副校長(研究主事))、鹿又仁郎(副校長(事務部長))、春日貴志(工学科情報エレクトロニクス系長)、中山英俊(工学科機械ロボティクス系長)、遠藤典男(工学科都市デザイン系長)、小池博明(工学科リベラルアーツ教員院長)、板屋智之(学生相談室長)

<陪席> 西川嘉雄(教育改善委員会委員長)、鈴木宏(入試広報室長)、森田智士(総務課長)、中嶋広隆(学生課長)、金井隆英(総務課課長補佐(総務担当))、長井俊之(学生課課長補佐)、伊藤奈津奈(総務課総務企画係長)

1. 開会 総務課長
2. 会長・副会長紹介 総務課長
3. 自己紹介(各参与・長野高専出席者)
4. 校長あいさつ

江崎校長から、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後の学校の状況と、海外研修や校内施設の改善などについて説明があり、本日の参与会では、本校における課題や問題について皆様の意見を伺いたい旨の挨拶があった。

5. 配付資料確認
6. 議事

天野会長から、この参与会は外部点検の意味合いもありますので、点検評価という意味でも忌憚ないご意見等を伺いたいとの挨拶があった。

以下、参与会設置要項第7条第1項の規定により天野会長が議長となり、次第に沿って議事が進行された。

(1) 自己点検・評価項目

楡井副校長から、「資料No.1 令和5年度自己点検・評価表(重点項目)」「資料No.2 令和5年度自己点検・評価表(全体版)」「資料No.6 長野高専の教育理念、教育・運営方針、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、学習・教育目標」をもとに、点検項目ごとにそれぞれ説明があり、以下の質疑応答を行った。

天野会長：最近では、学習成果の可視化に関して、ディプロマ・プログラム(DP)とカリキュラム・プログラム(CP)の関連付けや、授業科目との関連付け、そして学習進度を考慮したポートフォリオ化が重要視されるようになっていきます。この取り組みは大変ですが、御校の進捗状況はどうでしょうか？

濱口副校長：本校では、機構本部からの指導や連絡を受けながら、さまざまな整備を進めています。今回はアセスメントプランの要望があり、来年度から運用できるよう整備を進めています。全国高専と情報を共有しながら取り組んでおり、大変な作業ではありますが、進めていく必要があるという状況です。

天野会長：私どもも、現在データを活用して可視化する取り組みを行っています。興味があれば情報提供できるかもしれません。

池田参与：シラバスというのは、何年頃、発行されたのでしょうか。また、改訂のサイクルなどがあるのでしょうか。

楡井副校長：シラバスは毎年改訂を行っております。状況も変わってまいりますし、特に本校では、改組がございましたので、科目の変動もあります。そういうことも併せて、シラバスは毎年改訂を行っております。

渡辺参与：点検項目ですが、昨年も同じような項目を実施しているということでしょうか。

楡井副校長：点検項目につきましては、本校で自己点検評価表、資料 No. 2 になりますが、こちらで定めて実施しております。昨年も同様の項目でございます。

毎年、見直しを行っております。今年も自己点検を行いました。けれども、今回、担当した者としての感想を申し上げますと、学校の場合、やっているか、やっていないかという二者択一的な項目が非常に多く、達成率という形で作って見ましたが、その数値化というものがしづらいなのというのが、担当者としての率直な感想です。できれば、今後は、数値化しやすいような項目に見直して、より具体的な評価ができるようにと改訂していく必要はあると考えております。

渡辺参与：そうなりますと、前年の実績に対して、今年この評価の項目が、どうアップしているかとか、ダウンしているかとか、何ができているかとか、何がまだできていないかとか、この辺がもう少し分かりやすくなると思います。

それと、評価制度に対するスタンスです。今おっしゃったように項目のこれやりましたというのは実行にすぎない。実行したことによって学生の支援にどのようにつながっているのかとか、どのような効果が出たのかとか、学生からどういう反応があったのかという評価の進度といえますか、このようなことを念頭に置いてやられることが大事かと思えます。

私も、昨年にご意見を伝えさせていただきました。発表のためのこれだけご苦労いただいて、皆さんでこれだけのものを作る。相当時間もかかるし、ただ、発表のための評価表作りみたいな、本当に学生の支援になっていたのかという、ご苦労いただいたのであれば、いただいたなりに機能、効果が見えるものが必要かと思いました。

楡井副校長：まさにご指摘のとおりと私も感じております。やはり最終的な目標は、いい人材を育てるところでございますので、それに向けて、どう改善をしていくか、よりよい環境を提供していくことが一番大事なところと認識しておりますので、改善していきたいと思えます。

平林参与：8番目の学習環境と学生支援の項目の中のメンタルヘルス研修ですが、どのような研修をやられていますか。

鹿又副校長：ここに記載させていただきましたのは、教職員向けのメンタルヘルス研修になります。外部講師による午後半日程度のセルフケアに関する研修会を行っております。

平林参与：学習環境及び学生支援と書いてありますが、これは、教職員のメンタルヘルス研修の実施について書かれているのですね。

平林参与：大項目3は、達成率80%という項目が多いですが、ほとんどが点検項目の再検討はまだという1行で書かれておりますが、再検討はまだということなのでしょうか。

楡井副校長：それぞれの実施状況について教務委員会の中では進んではいるのですが、他部署のところではまだ未実施の部分があるということでございます。

平林参与：これですが、検討したらすぐ再検討が必要なのではないのでしょうか。

楡井副校長：今後、そのように意識づけをしていきたいと思えます。

平林参与：この一文で全部80%にされていますが、本来は検討したらそれも再検討にすぐ適用していくという、本来その時間の流れとしては即やるという流れになると思えますのでぜひ、そのところは考えていただければと思います。

丸山参与：この学習環境と学生支援の分野では、毎年、異なる手法やアプローチを取りながらも学生のニーズ調査やアンケートなどの項目が十分に実施されていないことがあるように思われます。こうした学習環境や学生支援は、受け身の学生側からどのように評価されているのかを把握することも重要かと思えます。難しい面もありますが、学生側からの視点を取り入れることで、例えばガイダンスの実施状況だけでなく、その内容の理解や有益性に関する評価にもつなげることができると思えます。

天野会長：今のご質問と関連して、そのアンケート調査に関しては卒業生と企業も5年に一度ということの理解でよろしいですか。

楡井副校長：卒業生と企業様にアンケートを依頼するのは5年に一度になります。このアンケートを次年度予定しています。

天野会長：企業にアンケートを実施するのは結構大変だと思います。卒業生については、我々のところは毎年、卒業生には必ず実施し、卒業証書と引換えということで行っています。

楡井副校長：その意味では当該年度の卒業生にはアンケートを実施しています。ここでの卒業生アンケートはOBに対して行っているということになります。

天野会長：それは結構大変なことですね。分かりました。

楡井副校長：この卒業生アンケートですが、昨年度の参与会で回収率が15%ということについて指摘いただきましたので、次回の卒業生アンケートでは回収率をあげるため準備しております。

(2) 改組進捗状況

濱口副校長から「資料No.3 学科改組の進捗状況」をもとに、学科改組の進捗状況について説明があった。

(3) JABEE 受審報告

楡井副校長から「資料No.4 JABEE 受審報告」をもとに、令和5年度に受審したJABEE審査の受審報告について説明があった。

(4) 自己点検・評価項目の評価手法について

楡井副校長から「資料No.5 自己点検・評価項目の評価方法」をもとに、自己点検・評価項目の評価手法についてご意見いただきたい旨の説明があった。

(5) 質疑応答・意見交換

会議全体について、以下の質疑応答を行った。

天野会長：改組の関係で、1年時はある程度くり入試のような形で進行し、2年時からはレイト・スペシャライゼーションという形で進められています。そのうち3割は、最初は進路を決めていなかったが、うまく配属されたとのことで、これには驚きました。我々も高校生にアンケート調査を行った際に、実際に3分の1が進路をまだ曖昧で、入学後に決めたいと回答しており、この結果を見るとかなり一致している印象を受けました。この情報は参考になると感じます。最後に、進路調整がうまくいっており、ほぼ全員が落ち着いた状態にあること、そしてそのために様々な努力がされていることがよく分かりました。

天野会長：今回、大項目3と4に絞って説明をいただきましたが、項目が多いと点検や評価が難しく、点検のための点検になっているのではないかという疑念があります。特に達成率が比較的低い項目については、その年度ごとに重点的に取り組み、最終的に外部評価を受けるための準備を進めることが望ましいと考えます。外部評価を受ける際には全ての項目が対象となると思いますので、そのためにも効果的な取り組みが必要です。

丸山参与：イノベーションのサポートセンターを設立するというお話を伺いました。このセンターは、カリキュラムの中でアントレプレナーシップやスタートアップに関する教育とどのように関連しているのか、ご説明いただければと思います。

小野副校長：エンジニアリングデザイン入門という2年次の科目がございます。今回ソーシャルイノベーション・サポートセンターで企画して、その授業で学生向けに講演を行っています。今度はそれを指導する教員がスタートアップに関する知識、あるいは考え方というのが不十分なところがありますので、教員向けの講習会を準備しております。学生だけでなく、学校全体としてスタートアップに関する意識の底上げを図っています。

池田参与：先ほどの自己点検評価項目の実施すべき事項の具体化という中で、この具体化した状態を何か数値化しないと、あとで結果を数値化で評価することはできないのではないかと思いますがいかがでしょうか。

楡井副校長：私もこれを担当する中でKPIの考え方とか、OKRの考え方とかいろいろな情報を仕入れて勉強していくと、そもそも、そういう具体化するときに、数値化を念頭に置いた上で言葉に表していかないと、やはり合っていないところが見えてきました。この学校の教育活動の中をどのように数値化できるような表現に落とし込んでいくかという、そこが、結構大事なところかなと感じております。次年度に向けて、何とかつくっていただければと思います。

天野会長：K P I の数値化って非常に難しい話で、私も大学でやっているところが悩むところです。研究とかはK P I ・数値化しやすいのですが、教育はなかなか数値化というのは難しいところがあるとは思いますが。なるべくしなければいけないかなと思います。

萱津参与：先ほどからシラバスの話が出ていたのですが、本学でも、今まさに、来年度のシラバス作成中で、その言葉の齟齬みたいなところを統一することが課題だと思っています。当然こういう枠があって、こういうことを書くところまではあるのですが、教員が書いたときに、書き方とか分かりやすさみたいなチェックを、書いた教員以外がしたほうがいいのではないかなという話が本学で出ています。高専では、特に書かれた、完成したシラバスに関するチェックというのを別の組織でやっているのかどうかというのをお聞きできればと思いました。

楡井副校長：シラバス作成自身の担当は教務委員会を担当しております。シラバス、最初に作る時に、ひな形的なものは当然あって、こういう書き方をしてくださいというものの指導もあります。現時点では、教員もある程度慣れてきているところもあって、あまり具体的に書き方のスタイルに対して、指導というよりも、例えばループリック化するときの書きぶりだとか、そういうところは、指摘は、注意点、重要項目については、委員会でチェックしております。

萱津参与：幾つかのアンケートを取っていらっしゃるということですが、例えば、寮のところで、満足した生活の場を提供しているかというところで、アンケートを実施しているようですが、この右側のところ、満足度はどのくらいでしょうか？高専の場合は希望者が入っているということなので、満足度は高いのかなということと思うのですがいかがでしょうか。

松下副校長：このグラフ、右側に行けば行くほど良好ということになります。パワーポイント1枚全部載せると、ほぼ字が見えないという状況になりますので、おおむね評価3というのが一番多いです。右側の下の、これは寮の日課についてという項目で、よくないということになっています。これには理由がありまして、コロナ禍のときは学内の密度を下げるために寮を解放して昼間に寮の中に入ってもいいとしていました。それを昔のように、昼間は学校に行きなさい。閉めますよ。という状況に戻した途端にこうなりました。例年は、この項目は3が多いというのが例年の状況ですが、今年は特殊ということとだけいただければと思います。

萱津参与：アンケートの話で、さきほど卒業生、OBにアンケートを取るという話がありましたが、それは何年後の学生に取っているのか、対象がどういう形で取られているのか、どのタイミングで、どのくらいの規模で取られるのか、教えてください。

楡井副校長：大体、卒業後5年ぐらいのところを基準に、前回の実施のところは、専攻科生、本科生含めて、トータルで200通の調査を行ったということでございます。卒業後の状況、できるだけ近いところということで、大体、5年ぐらいのところまでの範囲を想定して実施しています。

萱津参与：5年たった学生なのか、1、2、3、4、5まとめて、5年なのか、いかがでしょうか。

楡井副校長：状況にもよります。連絡先の問題もあって、各出身学科のところで数名推薦していただいて、そこで、実際のアンケートをお送りしているという状況です。

天野会長：卒業生に関するアンケートって、結構、大変だと思います。本学は、10年後と30年後の学生のやつを取っていましたがけれども、10年後と30年後の学生だと、取ったアンケートだと意見が違って出てくるので、それは、それで面白いなと思いました。

倉島参与：先ほど丸山参与さんが述べたことにも関連していますが、私はベンチャーのソーシャルイノベーション・サポートセンターに大変関心があります。そこでは、様々なカリキュラムやポリシーの枠組みの中で教育が行われています。枠組みをしっかり取った上での教育の必要性を理解しています。しかし、例えば、起業家精神という知識以外の部分も刺激を与える取り組みが必要だと考えています。県内でも、起業家精神を持った企業が活躍している例があります。また、自己啓発やマインドセットの向上についても考える必要があります。これらの要素をカリキュラムに組み込むことは難しいかもしれませんが、柔軟性が求められます。この分野に詳しくないので、質問していますが、もし知っていることがあれば教えていただきたいです。

小野副校長：カリキュラムにあるエンジニアリングデザイン入門の中に、既に入れ込んでいます。起業家の講演会とか、これは長野市とも協力しております。そういう事業を今展開しています。ただ、ソーシャルイノベーション・サポートセンターの予算というのが今年度までの予算になり、来年度が不透明な状態になります。

ただ、エンジニアリングデザイン入門あるいは実践という中で、実際にそういう起業家マインドの助成みたいな講演会は、計画しておりますので、継続的にこの事業というのは発展させていくような体制を整備しているところでございます。

倉島参与：ようやく理解しました。そういった一つのカリキュラム体系の中には柔軟度を持って、いろいろなところに組み込めるという、そういう形になっているというか、そういうことなのですね。

白井参与：点検項目の8に関するところでございますけれども、施設の設備管理状況、点検とって、定期的に点検していただいていると思います。今回、1月1日に能登の地震がありましたけれども、長野市もある程度揺れたと思います。このような状況で、学校の施設に何か傷みなどがあつたかどうか、また、1月1日でありましたことから、休校ということで、施設管理者の方が点検をしたのか、業者さんによる点検だったのか、その辺の確認をさせていただきたいと思っております。

鹿又副校長：1月1日の地震の影響につきましては、特段、施設にひびが入ったとか、設備もそうですけれども、故障などが発生したという報告は今のところ出ておりません。実際に、1月1日の時点で警備員がおりましたので、警備員が巡回し目視の確認をしております。その後、教職員でそれぞれの設備等について目視等で確認をしたところでございます。

天野会長：今回の地震は、休日しかも1日だったということで、点検、結構大変だったと思います。本学も、建物の7階、8階のところで漏水が2件ほどありました。配管のずれですかね。1日から事務の方も出たりして、対策に当たったりして、結構、揺れがひどかったなと思います。特に高層階がひどかったようですね。

平林参与：私は、理工系の人材がますます重要性を増している中で、高専での教育に感心しています。自身が高専に関わり始めたのは去年からで、その中で高専の対応に感動しました。特に、工業系の高校の受験生が減少している中で、長野高専は中学卒業後の理工系教育の中核となるべきだと考えています。今日も先生方が子供たちのために積極的に検討し、カリキュラムを見せてくれる姿勢に感謝しています。子供たちにとって何が重要かを考え、それを育む努力をしていることを支持し、今後も継続して行ってほしいと思います。この感想を校長先生にも伝えたいと思います。

天野会長：本学のことで、高専編入のところで女子枠を設定ということで、次年度から行います。2月ぐらいに募集要項が出るとは思いますけれども、約半数を女子枠として設定します。3月に説明会も開く予定にしていますので、また、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

7. 閉会

江崎校長から閉会として、本校の学習環境、学生支援、教育に関する自己点検や進行中の課題、JABEEへの対応、評価手法に関する多くの意見を頂き、これらの意見を今後の教育や評価体制に反映し、高等教育機関として充実していきたい旨の挨拶があり、引き続き、皆様の支援と協力をお願いする旨発言があった。

付録6 令和5年度教育改善委員会議事概要

令和5年度 第1回教育改善委員会 議事概要

日時 令和5年5月26日(金) 16:15~17:00
場所 第2会議室

出席者 西川 嘉雄 鈴木 宏 原 貴之 小林 裕介 網谷 健児
轟 直希 児玉 英樹 柳沼 晋 中嶋学生課長の各委員

欠席者 無

議 題

1. 2023(令和5)年度教育改善委員会の活動内容(案)について

資料1:担当, 委員会の活動, カレンダー

- ・今年度の主な活動内容について説明があり各項目について確認した。
- ・過日実施したR3年度学生との意見交換会の報告書は学生支援委員会から入手する。
- ・各委員の業務分担及び担当項目について説明があった。各種委員会の活動状況の点検を行う際, 点検する委員会の委員であっても差し支えないことを確認した。
- ・年間4回実施予定のFD研修会は, 教務委員会, 男女共同参画推進室等とも連携しながら行っていく。場合により教育改善委員会としてFD研修会を企画していくことを確認した。委員から第1回はメンター制度に関するFDの企画について要望があった。

2. 各種点検・改善システムについて

資料2:点検, 改善システム

- ・各種点検・改善システムの中で教育改善委員会として行う項目について確認すると共に, 昨年度と同様のスケジュール及び点検システムで行う旨の説明があった。

3. エビデンス収集について

資料3:エビデンス収集について, 表紙, エビデンスチェックシート

- ・エビデンスの収集作業手順, チェックシートの概略等について説明があった。グループウェアにフォルダを作成して保存する方式で実施していく。
- ・エビデンスの提出時期は後日確認することとした。

4. 2022(令和4年度)年度報告書について

資料4:令和4年度報告書

- ・報告書の概要について説明があった。
- ・各委員は報告書を一読していただきたい旨の依頼があった。

次回開催予定 7月28日(金) 16:15~第1会議室

令和5年度 第2回教育改善委員会
議事概要(案)

日時 令和5年7月28日(金) 16:15~17:00
場所 第1会議室

出席者 西川 嘉雄 鈴木 宏 原 貴之 小林 裕介 網谷 健児
轟 直希 児玉 英樹 柳沼 晋 の各委員

欠席者 中嶋学生課長

議 題

1. FD 計画について

- ・委員長から現在までに予定しているFD研修会について説明があった。
9/11(月) 15:00~16:30「(仮) 教学マネージメント」下田総括参事 教務委員会主催
9/22(金) 14:30~17:00「エンジニアリングデザイン入門のためのFD研修」はたらく部
- ・あと2回程度、研修会を予定したいため、提案等ある方は委員長まで連絡するよう改めて依頼があった。

2. エビデンス収集について

- ・令和5年度のエビデンス収集を行うに当たり、グループウェアに掲載するファイル名の付け方等について確認した。
- ・エビデンス収集期間を「成績入力期間+1週間程度とする」ことを確認した。
前期エビデンス収集期間 : 7/31(月) ~ 10/6(金)
(参考) 前期成績入力期間 : 7/31(月) ~ 9/29(金) 17:00
- ・複数の系(学科)にわたる科目のエビデンスの運用等について確認した。
1年: ものづくり基礎工学・ものづくり基礎実験
2年: エンジニアリングデザイン
担当の評価(レポートや試験)エビデンス: 担当教員、または各系(旧学科)が取りまとめる。
成績評価履歴+シラバス: 成績入力者がまとめる。
ものづくり基礎工学・ものづくり基礎実験は、教務委員会で取りまとめ担当を指定する。
エンジニアリングデザインは、教務委員会から環境都市工学科のまとめの依頼をする。

3. 各委員会の年度重点項目について

資料 2-1

- ・各委員会から提出された令和5年度の重点項目について説明があった。また、重点項目への取組結果の点検方法等も併せて確認した。

4. 教育改善システムの実施と評価・点検について

資料 2-2

- ・グループウェアに掲載されているシステムの様式等について確認した。
- ・令和3年度の報告書(学生課のキャビネットにある書類を各自で閲覧する)を参考に令和4年度の報告を作成するため、資料に基づき各種報告書の作成手順・方法等について確認した。

報 告

1. 試験問題レベルの保証確認について

資料 2-3

- ・グループウェアに掲載されているシステムの様式等について報告があった。委員には改めて作業の依頼をする。

- ・前期成績入力後、レベル保障確認作業を10月上旬に行う予定である旨の報告があった。なお、後期の確認作業は2月に行う。
- ・実施対象科目はJABEE科目で、資料に基づきチェックの実施方法・担当者について報告があった。

2. その他

- ・委員長から令和6年度に卒業生・企業向けアンケートを実施する必要がある旨の報告があった。

次回開催予定 9月29日（金）16:15～第1会議室

令和5年度 第3回教育改善委員会 議事概要

日時 令和5年9月29日(金) 16:15~17:05
場所 第1会議室

出席者 西川 嘉雄 鈴木 宏 原 貴之 小林 裕介 網谷 健児
轟 直希 児玉 英樹 の各委員
欠席者 柳沼 晋 中嶋学生課長

議 題 議事

1. 令和5年度前期試験問題の保証確認について 資料No.1
 - ・資料に基づき前期期末試験問題等のレベル保証確認の手順等について確認した。
 - ・実施期間は10月10日~10月20日に行う。委員が確認シートを作成後、評価者に判定・押印サインをした書類を10月27日までに学生課へ提出する。なお、実施に当たり教員への連絡は行わないことを確認した。
 - ・後期は2月上旬に行う予定。
2. 令和4年度授業改善システムチェック報告書の作成について 資料No.2
 - ・令和4年度授業改善システムチェック報告書を作成するに当たり、作成の手順、原本の様式等について確認した。報告書は10月27日までに作成して学生課へ提出する。
 - ・報告書を作成するための参考資料(令和3年度授業公開アンケート、令和4年度授業改善報告書)は委員のメールアドレスへ配付する。
3. FD研修会について 資料No.3
 - ・委員長から資料に基づき、第1回FD研修会の実施概要について報告があった。
 - ・FD研修会アンケートの設問について
現行の設問「開催時期は適当でしたか？」の趣旨が明確でないため、FD研修のテーマ・内容に関することを目的に設問を「本テーマの開催時期として適当でしたか？」に修正する。
また、FD研修会の参加者を把握するため、当日、会場入口に名簿を置き記入していただくこととした。
 - ・FD効果の計り方
昨年度の参与会で「FD研修の効果の計り方」を検討するよう指摘されたことを受け、取り組み方法等について検討した。アンケート項目「今後の教育活動の参考になりましたか？」を追跡するためFD研修会アンケート実施後、
FD研修会の報告書と配布資料を教員へ配布
年度末にFD総括アンケートの実施：「研修の内容：実践検討・計画中・実践した」など「実践検討・計画中・実践した」の割合の変化を考察して効果を評価する。

上記に加え可能な場合、実践促進アンケート(FD後、1,2か月)：「研修の内容：実践検討・計画中・実践した」を行う。

報告事項

1. 令和5年度エビデンス収集について
委員長から全教員に対するエビデンス収集に関して6月に依頼を行った旨の報告があった。また、収集に関する様式、手順等について確認した。
2. 各委員会へのフォローについて
委員長から各委員会の委員長へ6月に策定した委員会重点項目への活動計画について、再度ご確認いただきフォロー(活動計画の確認と計画の進捗状況の確認)を依頼した旨の報告があった。

3. 令和4年度計画（実績）への教育改善委員会コメントについて
委員長から各委員へ令和4年度年度計画（実績）への教育改善委員会としてのコメント（案）を送付した旨の報告があった。
4. その他
委員長から次年度（令和6年度）卒業生・企業向けアンケートを実施する旨の報告があった。

次回開催予定 11月20日（月）16:10～第1会議室

令和5年度 第4回教育改善委員会 議事概要

日時 令和5年11月20日(金) 16:10~16:35
場所 第1会議室

出席者 西川 嘉雄 鈴木 宏 原 貴之 小林 裕介 網谷 健児
轟 直希 柳沼 晋 の各委員
欠席者 児玉 英樹 中嶋学生課長

議 題 議事

1. 授業改善システムの実施と評価・点検状況について 資料No.4-1
 - ・現在、各学科において行っている授業改善システムの実施と評価・点検作業において委員から指摘等への対応について確認した。年度内には作成して提出する。
 - 1) R4の1年生から工学科の科目が含まれる場合の対応
 - ・「授業改善用チェック・提言シート」は担当教員毎のため、工学科で分けて旧学科と系を併記する方法とする。
 - 2) 実験実習など複数の教員で担当する科目：チェック①にしか○がつかない。主担当教員のみで良いのでは？
 - ・担当された実績を残す意味では、担当した全教員科目にする。
 - ・科目数が多いなどの場合は、旧各学科、系の判断で主担当の先生のみにしてもよい。
 - 3) 前期試験問題の保証確認
 - ・対象科目は4年生以上の科目で、専攻科の科目を優先にする
 - ・非常勤は対象外とする。
2. 2023年エビデンスのチェック状況について
 - ・委員長から本年度のチェックシートについて11月末を目途に整理してほしい旨の依頼があった。
 - ・グループウェアへ保存する際のファイル名は、工学科(系)と旧学科の2つに分けることを確認した。
3. FD研修会について 資料No.4-2
 - ・今年度のFD研修会は3回実施しているため、4回目の実施の可否及び実施内容等についてグーグルフォームにより意見を求めることとした。
 - ・FD効果の計り方
既に実施した3回のFD研修会の報告書を教員へ配付して、3月上旬にFD総括アンケートを実施することを確認した。

報告事項

1. その他
 - ・委員長から年度計画に基づき1月から各種点検報告・エビデンス・類似問題点検などの作業がある旨の連絡があった。
 - ・委員長から次年度(令和6年度)卒業生・企業向けアンケートを実施する旨の報告があった。

次回開催予定 1月22日(月) 16:10~第2会議室

令和5年度 第5回教育改善委員会 議事概要

日時 令和6年1月22日(月) 16:10~17:00
場所 第2会議室

出席者 西川 嘉雄 鈴木 宏 原 貴之 小林 裕介 網谷 健児
轟 直希 柳沼 晋 児玉 英樹の各委員
欠席者 中嶋学生課長

議題 議事

1. 「卒業生・企業アンケート」の「点検・改善システムへ」への提案について 資料No.5-1
・5年毎に実施する卒業生・企業アンケートを「教育の質保証にのための各種点検・改善システムに関する申合せ」及びタイムスケジュールへ追記する内容等について検討し、原案のとおり了承した。申合せの改正のため、2月の執行会議懇談会、執行会議へ付議する。
2. 2023年エビデンスのチェックおよび試験問題レベルチェックについて 資料No.5-2
・令和5年度のエビデンス収集を行うに当たり、グループウェアに掲載するファイル名の付け方等について確認した。
 - ・エビデンス収集期間を「成績入力期間+1週間程度とする」ことを確認した。
後期エビデンス収集期間 : 2/5(月)~3/4(月)
再試エビデンス収集期間 : 3/7(木)~3/18(月)
 - ・複数の系(学科)にわたる科目のエビデンスの運用等について確認した。
1年:ものづくり基礎工学・ものづくり基礎実験
2年:エンジニアリングデザイン
・担当の評価(レポートや試験)エビデンス:担当教員,または各系(旧学科)が取りまとめる。
 - ・成績評価履歴:成績入力者がまとめる。
ものづくり基礎工学・ものづくり基礎実験は,教務主事がまとめる。(教務係長がまとめ成績を入力する。)エンジニアリングデザインは,環境都市工学科のまとめの先生が行う。
3. 学生の満足度調査について 資料No.5-3
・昨年度と同様,学生の満足度調査を行うことを確認した。実施期間等は後日確認して
グーグルフォームで行う。
4. 教育改善報告書目次(案)について 資料No.5-4
・令和5年度教育改善報告書を作成するに当たり,各項目の担当について説明があり原案に
日基づき行うことを確認した。
5. FD研修会について 資料No.5-5
・令和5年度のFD研修会は既に3回実施しているが,第4回目の実施の有無について委員
のアンケートを参考に検討した。3月に男女共同参画推進室が主催の講演会をFD研修会と
兼ねる意見があったため,実施が可能か確認することとした。

報告事項

1. メール目安箱[学生・保護者用]について
・委員長からメール目安箱の件数(1/22現在)について報告があった。
学生5件,保護者1件,その他2件
参考(令和4年度):学生12件,保護者1件,その他1件

次回開催予定 3月18日(月) 16:10~

令和5年度 第6回教育改善委員会 議事概要

日時 令和6年3月18日(月) 16:10~17:00
場所 第2会議室

出席者 西川 嘉雄 鈴木 宏 原 貴之 小林 裕介 網谷 健児
轟 直希 柳沼 晋 児玉 英樹 学生課長 の各委員
欠席者 なし

議 題 議事

1. 2023年エビデンスのチェック・試験問題レベルチェック・類似問題について
資料No.6-1
 - ・令和5年度エビデンスの収集・保管の方法について確認した。
 - ・前期に引き続き、後期の試験問題レベルの保証確認について行うこと、試験問題類似度点検の手順及びフォーマット等について確認した。
 - ・卒業研究のエビデンスは共同研究先との秘密保持の契約で、卒業研究のエビデンスを教員室保管しているが、教員室保管の教員が退職する場合は、秘密保持の観点から廃棄しても差し支えないことを確認した。
2. FD研修の総括アンケートについて
資料No.6-2
 - ・令和5年度に実施したFD研修の効果を確認することを目的に、資料の項目で各教員へアンケートを行う。アンケートは委員長から配信する。
3. 本年度の活動について
資料No.6-3
 - ・令和5年度に行った委員会の活動内容について説明があり、概ね予定どおりの活動を行えることができた。
4. 教育改善報告書作業状況について
資料No.6-4
 - ・令和5年度教育改善報告書の作成に当たり、各項目の担当及び報告書のフォーマット等について確認した。報告書は3月26日を目途に作成する。
5. 学生満足度調査について
資料No.6-5
 - ・委員長から2月に本科生及び専攻科生を対象に行った学生の満足度に関するアンケート調査結果について説明があった。

報告事項

1. FD研修について
 - ・委員長から3月4日に実施した第4回FD研修会について報告があった。
2. メール目安箱〔学生・保護者用〕について
 - ・委員長からメール目安箱の件数(3/18現在)について報告があった。
学生 8件, 保護者 1件, その他 2件
参考(令和4年度): 学生 12件, 保護者 1件, その他 1件

次回開催予定 3月18日(月) 16:10~